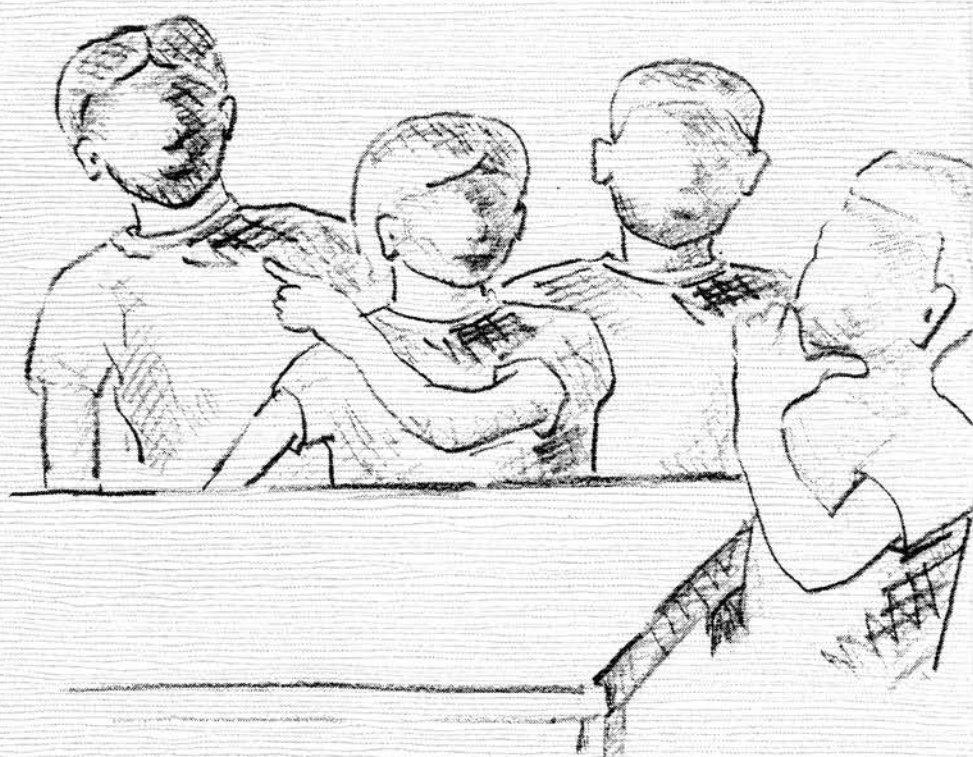


# 第24回全国バス学習研究



# 大会 公開授業学習指導案

平成元年11月10日(金)

公開1 9:30 ~ 10:20

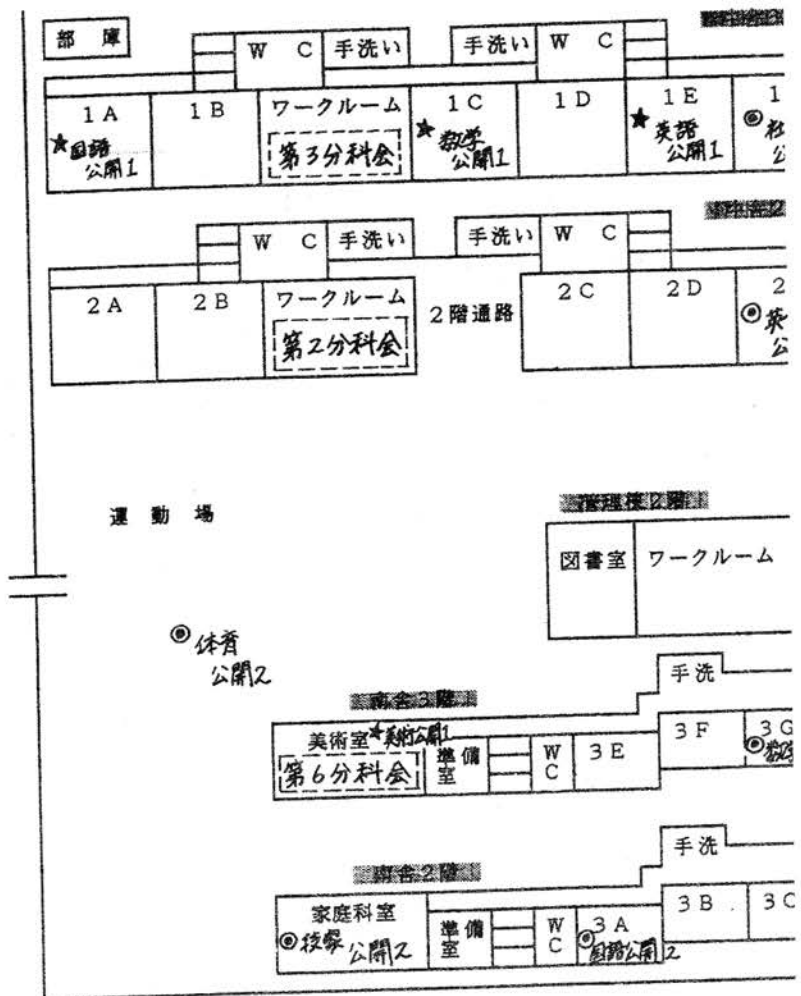
公開2 10:30 ~ 11:20

岐阜県 土岐市立 泉中学校

公開授業

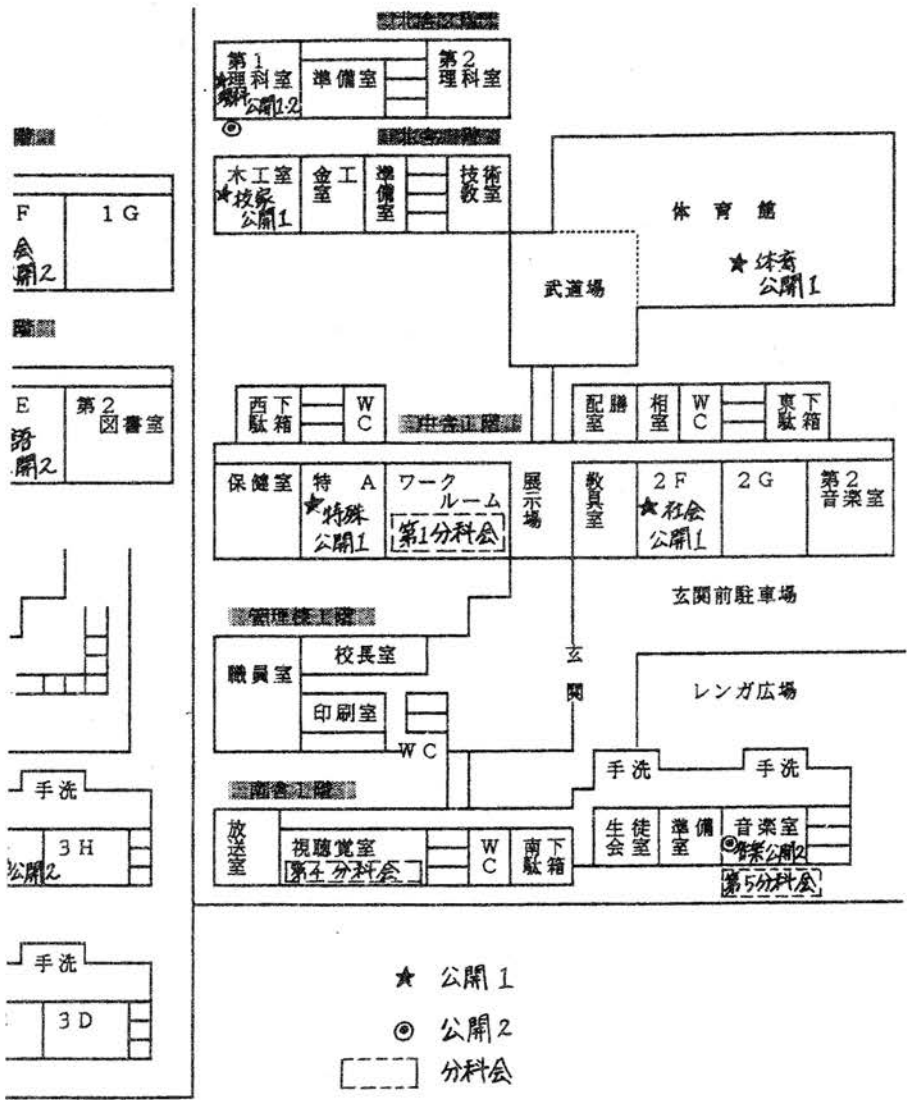
第1校時 9:30~10:20

年・組	教科	公開教室	授業者	題材 (単元名)
1-A	国語	1-A	松原正人	生活の中で
2-F	社会	2-F	若園進	近代日本とアジア
1-C	数学	1-C	渡辺宏彦	変化と対応
1-G	理科	理科A	坂野直樹	物質とその変化
3-E	美術	美術室	岩井利美	植物をもとにした構成
3-CD	技家	木工室	田口利一	増幅回路を用いた装置の設計と製作
2-AB	保体	体育館	桜井良吉	バレーボール
1-E	英語	1-E	本多弘尚	Sun Shine 1 Lesson 9 ゲーム大好き
特-A	特殊	特-A	田中寿	生活 作業学習



第2校時 10:30~11:20

年・組	教科	公開教室	授業者	題材 (単元名)
3-A	国語	3-A	後藤 泰隆	古典の世界
1-F	社会	1-F	加藤 泰幸	封建社会の成立
3-G	数学	3-G	星野 健	円の性質
3-B	理科	理科A	三宅 博雄	物質とイオン
1-B	音楽	音楽室	沢田 博昭	リコーダーアンサンブル
2-CD	技家	家庭科室	水野 道子	食物 2
1-CD	保体	運動場	林 康治郎	バスケットボール
2-E	英語	2-E	可知 達也	Sun Shine2 Lesson8 A girl and the jungle





# 国語科学習指導案

公開一（九時半～十時十分）  
一年A組 一A教室（中舎三階西）  
授業者 松原 正人

一、題材名「無言化社会の中で」 榊島忠夫  
二、指導の立場

## (一)教材観

国語学者榊島忠夫の論説文である。筆者が大学の研究室において学生と言葉のやりとりをする体験から日頃考えていることを、現在の社会と言葉 という範囲まで広げて論説したものである。冒頭で、現在の社会と言葉について考えるようになったいきなつを述べ次に「現在の日本の社会は、無言化の方向をたどっているのではないだろうか。そしてその主な原因は、社会生活の機械化と都会化にあるのではないだろうか」と問題提起している。（最初に問題提起して論を進めていく展開構成について、生徒は既習の説明文「植物のにおい」との共通点に気付くであろう。）やがて、その社会生活の機械化と都会化について具体的な事例をあげながら、無言化社会に傾きつつある人間社会への警告をしている。とりわけ、都会ではすでに現実的なものにならざるやうな書き方で強調している。このように現実の社会を厳しく指摘しているものの、終末のところでは、筆者の考える三つの条件によって回復の道を歩むことも可能であると結んでいる。つまり、筆者は現実の社会に批判的であっても、決して見捨ててはいないのである。それどころか、温かい救済の手をさしのべようとしているのである。ここで筆者が言う、三つの条件とは、

第一は、人と人との関係を温かい心で保ち、積極的に人に話しかけようとする態度をもつことである。

第二は、人から話しかけられたら、それを正しく理解し、必要による的確に答えるという態度をもつことである。

第三は、自分の考えが、他人にわかってもらえるように表現する能力を身につけることである。

平易な書き方で、特にこれといった難語句もなく、内容を理解する上では、既習教材の「植物のにおい」と同様、適切な文章であると思われる。内容も我々の身近な生活の中から拾ってあり、実際、生徒の大部分が経験していることである。例えば、部屋の中にひとり閉じこもってファミコン相手に、何時間も目がぼんやりするまで熱中している生徒が何人もいる。また、最近の店では、客が入る時、自動ドアが開いて、「いらっしゃいませ」。出る時は「ありがとうございました」のアナウンスが流れるしくみをとりに入れて、とこが増えてきた。最初のうちは、驚いたり感心したりして、目を見張るが、慣れてくると、血の通わない、ロボットの様な音声に不気味な感じさえ覚えることがある。当然、客の反応は次第になくなっていく。このような形式に対して人間は応答する気持ちになれないからである。そのうちに心の豊かさやなくなると、実際に店の人や言う言葉に対しても、心を閉じて素直に反応できなくなる人間ができてしまうことを筆者は心配しているのである。無言化社会の例はほかに「ワニマンバス」「無人駅」などでも考えられる。

### (二) 生徒の実態

論説文「無言化社会の中の概要と要旨」についてはある程度理解できるが、各段落の要点をまとめるとき、中心部分と付加的部分の区分けが明確にできない。

### (三) 本時の指導意図

#### ・(到達目標)

「現在の社会と言葉」に関する筆者の論説内容の要点を押さえた上で、日頃の言語生活を振り返り、仲間と共に語り合うことができる。

#### ・(学び合の姿)

筆者の言う、日本の社会の無言化の方向について、土岐市のそれ以外の地域においてはどの程度まで進んでいるのか、互いに体験したことを語り合いつつ、学び合う姿。

三、単元構想図(題材指導計画表)

(単元名) 生活の中で

<題材> 無言化社会の中で

	第1時	第2時	第3時
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字を練習させ、熟語の形が覚えることができる。</li> <li>第1次感想を文をまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自、国語辞典を用いて、全文にかかわる語句の意味調べができる。 (調べた意味が適切かどうか、本文にあてはめて考えることができる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落1~6までのそれぞれの要点を指定した字数内でまとめることができる。</li> <li>段落1~6までの音読練習ができる。</li> </ul>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師による全文範読を聞いて、区切りや、漢字の読み方等をチェックする。</li> <li>全文音読練習</li> <li>新出漢字練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テスト(P176) (新出漢字と既習漢字を組み合わせて)</li> <li>視写(P176~) (語句の意味調べがすべて終わったら開始)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テスト(P179)</li> <li>段落1~6までの要点をまとめる。 (中心語句・中心文を軸にして制限字数内でまとめる)</li> <li>段落1~6の展開、構成</li> <li>段落1~6の音読練習</li> </ul>
つけた力	<p>(表現) 感情を込めて段落1,2の会話文が音読できる。〈グループ内評価〉</p> <p>(理解) 一読したあとで論説文に対する第1次感想がもてる。〈教師による1人評価〉</p> <p>(言語事項) 新出漢字の読みと書きとりができる。〈小テストによる評価〉</p>	<p>(表現) 正確に、はやく視写できる。 〈教師による1人評価〉</p> <p>(理解) 調べた意味が本文の中で適切に働いているかどうか、前後の文章から判断することができる。 (言語事項) 用言に関する語句は終止形になおして意味調べができる。 〈机間巡視による評価〉</p>	<p>(表現) 制限字数内で要点をまとめることができる。 〈自己評価〉</p> <p>(理解) 中心部分と付加的部分の区別ができる。 〈教師による1人評価〉</p> <p>(言語事項) 漢字の書きとりの確認ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>用を足す。</li> <li>乗る</li> <li>切符</li> <li>自動販売機</li> <li>運賃</li> </ol>
学び合いの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落1,2の音読練習のとき、「会話文」の感情のこめ方について、互いに意見を交換し合って、よりよい音読のあり方を求めあう姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書の引き方について互いに質問しあったり、教え合ったりできる姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の意味調べでわからなかったところや書けなかったところについて互いに教え合って、補っていく姿。</li> </ul>

第4時(本時)	第5時	第6時
<ul style="list-style-type: none"> <li>段落1~6のそれぞれの要点を本時の授業を通して理解することができる。</li> <li>「現在の社会と言葉」について、筆者の論説内容を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落7~11までのそれぞれの要点を指定した字数内でまとめることができる。</li> <li>段落7~11までの音読練習ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落7~11のそれぞれの要点を本時の授業を通して理解することができる。</li> <li>全文の要旨を制限字数内でまとめることにより、筆者の論説文の中心点を押さえることができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テスト</li> <li>段落1~6の要点発表</li> <li>段落1~6の展開、構成の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テスト(P179, P180)</li> <li>段落7~11の要点まとめ</li> <li>段落7~11の展開、構成を考える。</li> <li>段落7~11の音読練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テスト(P181~183)</li> <li>漢字テスト</li> <li>段落7~11の要点発表</li> <li>段落7~11の展開、構成を確認する。</li> </ul>
<p>(表現) P178, 29の文末表現の「〜かもしれない」という不確かな予想について考えることができる。</p> <p>(理解) 1~6の各段落の中心部分が確認できる。</p> <p>日本の社会の無言化の原因が社会生活の機械化と、着陰化にあると予想している筆者の考え方が理解できる。</p>	<p>(表現) 制限字数内で要点をまとめることができる&lt;自己評価&gt;</p> <p>(理解) 中心部分と付加的部分の区別ができる&lt;教師によるノート評価&gt;</p> <p>(言語事項) 漢字の書きとりの確認ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 状況</li> <li>② 交わる</li> <li>③ 魚釣り</li> <li>④ 尋ねる</li> <li>⑤ 簡単</li> </ol>	<p>(表現) 全体の要旨を制限字数内でまとめることができる。</p> <p>(理解) 7~11の各段落の中心部分が確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の言う「言葉」によるコミュニケーションを成り立たせるための二つの条件</li> </ul> <p>(言語事項) 「的確」と「適切」の違いが文章の中で理解できる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>第6段落の内容について今の自分達の生活はどうなのか振り返りながら仲間と語りあう姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業の「まとめ」を発表し合って、仲間のもの考え方を知り合う姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の言う、二つの条件について、互いに意見を交流し合う姿。</li> </ul>



四 本時のねらい

「現在の社会と言葉に関する筆者の論説内容を理解した上で、自分たちの日頃の言語生活を振り返りかえることができる。(4/6)

五 学習展開

教師のはたらきかけ

生徒の活動

学び合いの姿

留意点

(導入)

漢字の小テスト  
 本日は大段落二の中で、  
 筆者のものの見方をとら  
 えてみよう。

指名音読

筆者が「無言化社会の中  
 とうテーマで書きましたと  
 したのはどうしてか。

筆者は度々このよつな経  
 験をしたと言っていますか。  
 みなさんもこのよつな体験を  
 したことがありますか。  
 ところで筆者が現在の社

(予課)「無言化社会」の傾向を泉所がもっているかどうか考えてくる。

一 補う、慣れる、三、私、四、済む、五、無関心

静かに取りくむ。

自己評価

(P176とP177の3) (P177の4とP178の9) (P178の10とP179の6)

仲間の音読に耳を傾け合う。

自主発表(三名)

わたし「レポートですか」  
 学生「はい」  
 わたし「その机の上に置いてください」  
 学生「その机の上にレポートを提出しに  
 来ました」と用件をきちんと発言す(まださ  
 わたしは、度々経験するこのよつな言葉  
 のやりとりから現在の社会と言葉について考え  
 させられた

(授業の切りか  
 え)

予想(例)

職員室へ入って先生のをぼもじし  
 ていたら、先生の方から「何か用事ですか」  
 と先に声をかけられた。

見たりヨミ、エ、ハ、ニ、ミ、ム、リ、フ、

仲間の体験発表を  
 聞く中で、筆者の体  
 験が身近なもので  
 あることを学び合う。

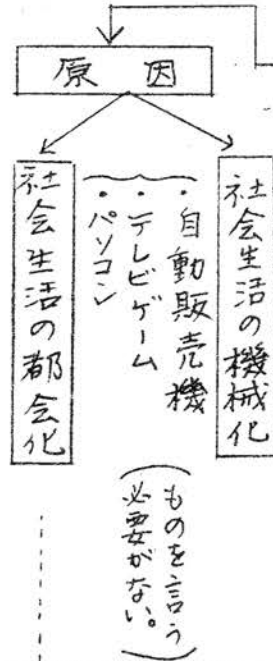
挙手がなかったら、  
 教師から事例を  
 提示していく。

会と言葉について考えたことは何でしたか。

筆者は以上のよつに意見を述べていますが、わたしたちの生活にあつてもそのことはあてはまるのでしょうか。日本の生活をふり返りながら、社会と言葉について話し合ってみましょう。

学習のまとめ(三分)

日本の社会は無言の文化をたどっているのではないだろうか。



予想(37)

- ・買物をするとき、やはり、スーパーなどでは無言で済ませることが多い。
- ・ゲームコーナーへ行くと、みんな黙々と取り組んで、機械の音だけが聞こえてくる。
- ・出会う人の中には知らない人も時々いて、都会ほどのことではない。

（見知らぬ他人と親しくものを言うことがなくなっていく）

（他人は自分にとってじゃまな存在）

（むしくみ）

（出会う人のほとんどが見知らぬ人）

（ものを言う機会がなくなつてしまふ）

（スーパーマーケット）

（むしくみ）

（ものを言う必要がない）

各自ノートに書く。(授業感想等)

仲間の発表を聞いて、自分が本文から抜き忘れていたところはないか確認する。

本文のことは、表現を大切にしながら、まとめて発表する。

本文では「社会生活の機械化と都会化」とあり、「社会生活の都会化」ということは書かれていない。

パス

論説文を通して、自分達の身のまわりの生活をみる合図。学習リレーが社会をすすめる。(自由会話法)

社会生活の都会化については、筆者の言う都会と去勢帯ではやや較差があるため、共通点と相違点が出るだろう。京野でも地域によって差があるだろう。発表は個人

# 社会科学習指導案

公開1 (9:30-10:20)

2年F組 2F教室(中舎1階東)

授業者 若園 進

## 1、単元名 日清・日露戦争と近代日本

### 2、指導の立場

#### (1) 単元について

1894年に治外法権が撤廃された後も、関税自主権は回復されないままであったため、政府は外交政策を中心に国際的地位の向上への努力を続けることとなった。まず朝鮮に対し不平等条約を結ばせ、大陸への侵略を開始した。これは清との対立を生み日清戦争を引き起こした。日清戦争で勝利をおさめた日本は多額の賠償金のほか、台湾やリヤオトン半島を獲得し大陸への侵略の足がかりとしたが、三国干渉によってリヤオトン半島を返還した。中国をめぐる列国の利害関係が絡み合う中、日本は義和団事件や日英同盟を経てロシアとの対立を深めた。この対立は日露戦争を引き起こし、日本は苦戦のすえ勝利をおさめた。

日清・日露戦争の勝利により、日本は帝国主義国の仲間入りをした。1911年に念願の関税自主権を回復し、国際社会で欧米の列国と対等の地位を得たが、一方では韓国を併合するなど大陸への侵略を進めていった。

明治維新直後からの明治政府の最大の課題は条約改正であった。不平等条約を一刻も早く改正し、国際社会において欧米の先進諸国と対等の権利をもつことが念願であったといえる。そのため政府は国内の近代化を進め、それに伴う国際的地位の向上を目指した。富国強兵策はそれを代表するものであり、憲法の制定・国会の開設や欧化政策も条約改正への努力から生まれたものだといえる。

条約改正に向け行なわれた急速な近代化は、日本の国際的地位を高めるものであったが、あまりに短期間に欧米の先進諸国に追いつこうとしたために、外交・内政ともに多くの問題を生みだしていった。特に植民地化を主とする日本の外交政策は日本国民に多くの負担を与えただけでなく、朝鮮や中国の人々に自国が侵略されていく苦痛を与え続けた。日本の近代化政策が押し進められる中で人々が何を考えどんな生活をしていったかを考えさせたいものである。

(2) 生徒の実態 (2年F組 男子20名、女子21名)

2年F組では気軽に発言ができる雰囲気作りを社会科の授業内でも行って来た。その結果グループ内だけでなく、クラス全体に向けても自分の考えをはっきりと述べるができる生徒も見られるようになった。まだ程度の低い考え方や偏った見方も見られるが、そういった意見に対して、反対や付け加えの意見も言えるようになってきたので、次第に的外れの発言は減少してきている。

このクラスは歴史を学習する時、政治家や政策そのものを学習するよりも、その時々の人々が政策に対し何を考えどんな行動をしたのか、といった内容に敏感に反応することが多い。例えば、江戸時代の百姓一揆や身分差別の問題には特に関心を示し、人々の心情を理解しようと努力してみたり、一方では、自分の身近な生活の中から同じような状況を見つけたりして、歴史上のできごとに対して自分の考えを深めた生徒が多かった。

しかし、ふだんから思いや考えを理路整然と答えることができる生徒はまだ多数とはいえず、半数の生徒はおよそは意識できているのだが、表現する時には事実と関連させることが弱かったり根拠があいまいだったり表現力の弱さがみられる。また、資料を活用する能力は高いとはいえず、だれかに指摘させて初めて資料の内容が理解できる生徒もかなりいて、資料によって授業への興味が大きく異なることがある。

(3) 本時の指導意図

欧米の帝国主義国に比べ国力の劣る日本は、国際的な地位の向上させて条約改正を成功させようと急ぐあまり、無謀とも思える戦争をしかけた。しかし、国民には戦争の真実が隠され、戦争の利点が強調されたため、戦争は国の発展につながるのだと信じ、生活が苦しくても、戦争の勝利によって豊かな暮らしが来ると思っていた人も多かった。その期待はポーツマス条約の締結で裏切られる。賠償金はなく、獲得した領土も少ないと知った国民は、戦争時に耐えてきた苦しい生活への不満をあらわにし、さらに明治政府の近代化に対する不満を含めて一気に不満を噴出させたのであった。

本時は前時の授業と強く関連させながら、日露戦争後のポーツマス条約をめぐる人々の気持ちを深く考えていきたいと考えて設定したものである。政策と国民の生活とのずれを考えたいと思うし、この授業の内容が、後に太平洋戦争へ進んでいく日本の状況を学ぶ時に生かせるように、多くの生徒に強く印象づけたい。



3、単元構想図

日清・日露戦争と近代日本

(全6時間)

単元目標

- ・日清・日露戦争を通して、日本は帝国主義国の仲間入りをして、東アジアに植民地を増やしていったことがわかる。
- ・日本の近代化の動きの中で、国民や中国・朝鮮の人々の苦しみを理解する

	第 1 時	第 2 時	第 3 時
学習内容	<p>条約改正と東アジア</p> <p>日本は治外法権の撤廃に成功した。朝鮮への対立の原因と戦争の経緯を学ぶ。</p>	<p>日清戦争</p> <p>日清戦争で勝った日本は、朝鮮半島を植民地とした。三国干渉を退けた。</p>	<p>帝国主義と日英同盟</p> <p>欧米帝国主義国は中国に侵略の目を向けた。日英同盟を結んだ。</p>
学習のねらい	<p>東アジアをめぐっての国際情勢を正しく理解する。</p>	<p>日清戦争で日本は勝利をおさめたが、三国干渉に悩まされた。</p>	<p>アフリカ分割を終わらせた。その中心は中国と日本である。</p>
育てたい見方考え方	<p>朝鮮への不平等条約が生じた原因を考察する。</p>	<p>日清戦争の日本の勝利が新たな対立を生み出した。</p>	<p>列国の利害関係が戦争に大きく影響する。</p>
中心となる課題と資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビゴの風刺画が深い。日清戦争の経緯を学ぶ。</li> <li>・ 日清条約の修正と日清戦争の経緯。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日清戦争の経緯と日本が朝鮮半島を植民地としたこと。</li> <li>・ 下関条約の内容。</li> <li>・ 三国干渉の内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄光ある孤立が日本に与えた影響。</li> <li>・ 義和団事件の背景と日清戦争の経緯。</li> <li>・ 帝国主義の植民地政策。</li> </ul>
願う学び合いの姿	<p>朝鮮と日本との対立の経緯を深く理解し、当時の状況を考察する。</p>	<p>日清戦争と下関条約の経緯を振り返り、日本が植民地となった理由を考察する。</p>	<p>帝国主義の考え方を、日英同盟の経緯を踏まえて考察する。</p>

〈近代日本とアジア〉

日清・日露戦争と  
近代日本

近代産業の発展と  
教育・文化の普及

第 4 時	第 5 時 (本時)	第 6 時
<p>日露戦争</p> <p>朝鮮・満州をめぐる日露戦争が起きたが、ここに多大な犠牲を強いるものであった。</p>	<p>ポーツマス条約</p> <p>多大な負担を強いられ、国民は、ポーツマス条約の内容に不満をもった。</p>	<p>韓国併合</p> <p>日本は朝鮮民族の強い反対を押し切って朝鮮を植民地とした。</p>
<p>列国の関係や多くの犠牲をとりに日露戦争を理解する。</p>	<p>講和条約に賠償金を期待した国民の不満が近代化政策に対しての気持ちを理解する。</p>	<p>朝鮮の植民地化の過程を理解し、日本の植民地支配の実態について考える。</p>
<p>列国の利害関係の中で起きた日露戦争は、多くの国民の犠牲があった。</p>	<p>賠償金を期待して国民は苦しい生活に耐えていたが、条約ではその期待が外れた。</p>	<p>韓国を植民地にすることは日本の発展につながるのだろうか。</p>
<p>・日露両国宣戦布告文を比較する。 ・日露両国の戦力比較 ・日清・日露両戦争の被害の比較 ・日露戦争の戦場地図 ・複雑な列国の関係 ・歴史年表</p>	<p>・小村寿太郎の出發戦争で勝利をおかした小村の心配する内容 ・講和条約の内容 ・獲得した領土 ・日比谷焼き打ち事件</p>	<p>・日露戦争後の日本の朝鮮支配の経過を比較する。 ・日本語の使用 ・神社の建立 ・強制連行</p>
<p>日露戦争によって国民に多くの負担が課せられた。生活が苦しく、取り返しのつかない生活が待っている。</p>	<p>賠償金への期待を裏切られた国民の心を、日露戦争とポーツマス条約を考察する。</p>	<p>日本による植民地支配の実態について、その背景などを考察する。</p>

4、本時のねらい

講和条約に賠償金を期待した国民の、条約への不満  
近代化政策そのものに対して不満を噴出させた人々

5、本時の展開

流れ	教師の働きかけ	予想され
予課発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の感想を発表しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争には諸国</li> <li>・多くの戦費が使わ</li> <li>・国民は苦しい生活被</li> <li>・日清戦争よりも被</li> </ul>
課題づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争はどちらが勝利をおさめたか。</li> <li>・日露戦争の講和条約を結びに行く時の小村寿太郎の様子をみてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本…日本海海戦戦勝を祝う</li> <li>・帰国する時のこと</li> <li>・戦争に負けた国の</li> </ul>
課題提示	<p>日本が日露戦争で勝利をおさめたのにもかかわらず、ポー小村寿太郎は何を心配しているのだろうか。</p>	
資料提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をもとにして、まず自分のノートに考えたことを書いてみよう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> <p>バズ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をみて自分の</li> <li>・賠償金がないのが</li> <li>・獲得した領土も少</li> <li>・でロシアが負けたこ</li> <li>・日本とロシアが戦</li> <li>・一部と戦っただけ</li> <li>・戦争を早く終らせ</li> <li>・それで日本人</li> </ul>
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日比谷焼き打ち事件をどう思うか。</li> <li>・その後の影響はどうであったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日露戦争は日清戦</li> <li>・る厳しい戦争であ</li> <li>・が少なく講和条約</li> <li>・講和条約への不満</li> <li>・戦争中の苦しい生</li> <li>・を大きくした。集</li> <li>・講和条約反対会事</li> <li>・日比谷焼き打ち</li> <li>・たものだった。</li> <li>・近代化政策そのも</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業でわかったことをノートに書こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条約改正が成功す</li> <li>・生活の向上を強く</li> <li>・戦争への道を進ん</li> <li>・本時のまとめを書</li> </ul>
次時予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の授業は韓国併合を学習します。</li> <li>・予課は感想と疑問点です。</li> </ul>	

がわかるとともに、  
の気持ちを理解する。

る 生 徒 の 反 応	願う学び合いの姿	指導上の留意点 学習資料
<p>の利害対立があった。 れ戦死者も多い。 を強いられた。 害が大きい。</p> <p>や旅順で勝利した。 提灯行列があった。</p> <p>を心配している。 代表のようだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ツマス条約を結びに行く</p> </div> <p>考えをまとめる。</p> <p>不思議だ。 ない。 金がないのかな。 とを認めなかった。 ったといってもロシア軍の だから。 たかったから。 は納得したのかな。</p> <p>争よりも大きな負担を強い ったのに、戦争で得るもの に反発した。 はあったに違いない。 活（増税・戦死者）が不満</p> <p>に多数参加した。 件は国民の怒りが表現され</p> <p>のへの不満があった。</p> <p>る。 望む人がでてきた。。 でいく。 く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>賠償金への期待を 裏切られた国民の 心本情にとつて、日 戦争とポーツマスと 条約を考えること ができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日露戦争の厳しい状況を出することができる。</li>   <li>・ 資料 1 「小村寿太郎の出発」</li>   <li>・ 資料 2 「ポーツマス条約内容」</li> <li>・ 資料 3 「賠償金の比較」</li>   <li>・ 日清・日露戦争の比較を通して、日本が多く犠牲を払っていたことが理解することができる。</li> <li>・ 資料 4 「東アジアの掛地図」</li> <li>・ ポーツマス条約の内容が出たら説明を加える。</li> <li>・ 資料 5 「日比谷焼き打ち事件」</li>   <li>・ わかったこと疑問に思ったことをノートに書かせ解決したい疑問があれば考えさせる。</li> </ul>



1. 単元名 変化と対応
2. 指導の立場

(1) 単元について

いろいろな事象の中から、ともなうて変わる2つの数量を見つけだし、その変化や対応のようすを、表、グラフ、式を通してとらえ、さらに、それを活用することを学ぶことは、中学1年から3年まで一貫して指導することである。

中学1年では、「集合Xと集合Yとの間に一意対応fがあれば、それが関数であるということになる。」という関数の形式的な定義よりも、その観念を重視することが大切である。それは、数学的な厳密さよりも、「ともなうて変わる量」というような関数概念発生の時点における見の方が、関数の実質的な内容をとらえさせるのによいからである。そして、1年、2年と関数についての理解を深めていき、中学校の関数指導の最終段階で、まとめとして、関数を2つの集合の要素間の対応として見直すことを指導することになる。

また、1年では、とくに、比例(正比例)・反比例の関係を中心にして取り扱うことになる。正比例・反比例については、小学校でも式表示やグラフまで扱っているが、具体的な量についての考察が中心であり、負の数の指導もなされていないので、文字のとり得る値の範囲も正の範囲に限られている。中学校では、xやyが負の値、また、比例定数aが負の数をとっても、 $y = ax$ ,  $y = \frac{a}{x}$  という関係さえ成り立てば、yはxに正比例するとか、yはxに比例するとか、yはxに反比例するというように、正比例・反比例の概念を拡張していくことになる。正比例・反比例は、いろいろな事象を通して関数関係を理解させるための具体的な題材であり、また、関数関係を、表、グラフ、式に表して、そこから変化や対応の特徴を調べる具体的な題材である。したがって、小学校で学習してきているからといって、式の特徴やグラフの特徴について機械的に覚えさせる指導にはならないよう十分留意したい。なお、正比例・反比例では、比例定数のもつ意味をていねいに扱いたい。関数では、変化している量をとらえようとしているわけであるが、その変化している中で変わらない量を見つけることが、関数をとらえるうえで大切だからである。

## (2) 生徒の実態

1年C組は、男子20名、女子17名の計37名の学級である。

授業では、集中して取り組むことのできる生徒は多いが、数学における学力については、上位生徒が少なく、中位、下位生徒が多い。また、数学を苦手とし、数学の嫌いな生徒が多い。

本単元は、中学生になって初めて表やグラフを扱う単元である。そこで、

①表やグラフをかくことが好きですか。

②表やグラフをかいて考えることと、計算をして考えることとでは、どちらが好きですか。

というアンケートをとって見たところ、

①好き(12名)      好きでも嫌いでもない(10名)      嫌い(15名)

②表やグラフ(18名)      どちらも同じくらい(2名)      計算(17名)

という実態であり、表やグラフの方が好きな生徒、計算の方が好きな生徒が、ほぼ半分に分かれている。

## (3) 本時の指導意図

本時は、「変化と対応」の単元の第1時で、「高さが20cmの水そうに一定の割合で水を入れていく。」という題材をもとに、時間がたつのにともなって何が変わっていくのかを考える。この課題で、時間とともに変化していくものは、水の深さ、水の体積、水の重さなどいろいろなものがあるが、その中で水の深さについて着目し、時間がたつのにともなって水の深さがどのように変化するかを考える。

また、その変化のようすをわかりやすくとらえるためにはどんな方法があるのかを考え、各自が考えた方法をバズによって仲間と比べ、変化のようすをはっきりとつかませたい。

そして、自己評価問題として、課題と同じく、水そうの水を用いる問題を与えることによって、本時の学習内容がつかめたかどうか評価したい。

さらに、次時においては、一定の割合では変化しない題材を設定し、いろいろな変化とその対応のようすをとらえられるようにしたい。

また、本時への導入として、次の予習的課題を設定した。

〔予習的課題〕

次の表の中の□にあてはまる数を入れよ。

x	0	1	2	3	4	...	□
y	0	3	6	9	□	...	24

3. 単元構想図 (全15時間のうち10時間)

単元名 変化と対応 単元目標 いろいろな事象の中から、ともなって変わる数量を見だし、その変化や対応のようすがとら  
つげたい力

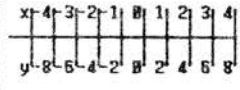
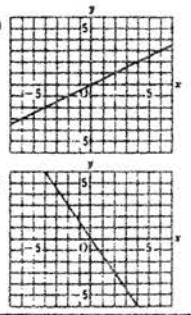
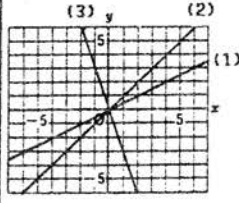
・関数を表やグラフや式で表すことができる力

・正比例、反比例を関数という観点から、その変化のよう

項	ともな、って 変わる 量		正 比		
目 標	具体的な事象の中からともなって変わる数量を見だし、その変化と対応のようすがとらえる。(本時)	ともなって変わる数量の関係を、表やグラフを使って調べることができる。	ともなって変わる2つの数量をとりだし、距離は時間の関数であることを理解する。	表をもとに、 $x$ に対する $y$ の値を求めていくことにより、ともなって変わる2つの数量の特徴を明らかにする。	比例定数を求めることによって、 $y$ を $x$ の式で表せるようにする。
予 課	次の表の中の□にあてはまる数を入れよ。 	周囲の長さが28cmである長方形をいろいろと作る。横の長さ、たての長さについて次の表をうめよ。 	時速4kmで歩く人がいる。1時間、2時間、3時間、...と進むときの、時間と進んだ距離の関係を調べ、次の表をうめよ。 	あるつるまきばねに、18gのおもりをつるすと2cmのびる。このばねに、28gのおもりをつるすと何cmのびるだろうか。また、38gのおもりをつるすと、何cmのびるだろうか。	$y$ が $x$ に比例するというものを、式で表せ。ただし、比例定数を $a$ とする。
題 材	高さが28cmの水そうに1分間に2cmずつ水の深さがふえていくように水を入れる。 ①時間がたつにつれて何が交わっていくの だろうか。 ②時間がたつにつれて水の深さがどのように交わっていくのかを調べてみよう。	周囲の長さが28cmである長方形をいろいろと作る。横の長さを大きくしていくと、面積はどのように交わって い く か。 表やグラフをかくて調べてみよう。	ある人が、A市から38km離れたB市へ行く。このとき、進んだ距離と残りの距離との関係を、表やグラフにかいて調べよ。	あるつるまきばねに、いろいろなおもりをつるし、ばねののびの長さを調べたら、次の表のようになった。 □にあてはまる数を求める方法を考えよう。 	次の(1)~(3)について $y$ を $x$ の式で表せ。 (1) $y$ が $x$ に正比例し $x=8$ のとき、 $y=16$ である。 (2) $y$ が $x$ に正比例し $x=6$ のとき、 $y=3$ である。 (3) $y$ が $x$ に正比例し $x=10$ のとき、 $y=15$ である。
学 び 合 い の 姿	時間がたつともなって、水の深さが変化していくようすを、バズで交流しあうことにより、表やグラフをかくとその変化のようすをとらえやすくなることをつかむ。	ともなって変わる数量の関係を、表をつくる と わ か り や す く な り、 グ ラ フ を か く と、 さ ら に わ か り や す く な る こ と を つ か む。	バズを通して、距離は時間の関数であることをつかむ。	おもりのおもさが2倍3倍、4倍となるにつれて、ばねののびも2倍、3倍、4倍となり比例関係にあることをつかむ。	正比例を表す式 $y = ax$ に、 $x$ と $y$ の値を代入し、比例定数 $a$ を求めることにより、 $y$ を $x$ の式で表せることをつかむ。
自 己 評 価 活 動	15cmの深さまで水の入った水そうから、毎分5cmの深さで水を外に流す。時間にともなって、深さが変化するようすを表とグラフに表してみよう。 	校舎の壁と接した所に金網で長方形の、にわとり小屋を作ろうと思う。金網の長さは26mで、できるだけ面積が広がるようにするには、にわとり小屋のたてと、横の長さをどれだけにすればよいか。 	A地から12km離れたB地に、毎時38kmの速さで走る自動車に乗って行くとき、残りの道のりが、走った距離にともなって交わるようすを調べた。次の問いに答えよ。 (1) 走った時間と残りの道のりとの関係を表に表せ。 (2) (1)の関係をグラフに表せ。 (3) 残りの道のりは、走った時間の関数か。	次の表から $x$ 、 $y$ の関係をみつけ、□にあてはまる数を求めよ。 ① ②	次の(1)~(3)について $y$ を $x$ の式で表せ。 (1) $y$ が $x$ に正比例し $x=5$ のとき、 $y=15$ である。 (2) $y$ が $x$ に正比例し $x=-3$ のとき、 $y=3$ である。 (3) $y$ が $x$ に正比例し $x=-8$ のとき、 $y=-24$ である。

えられるようにする。また、この立場から特に、正比例や反比例が理解できるようにする。

すの特徴を理解する力 ・座標について学び、座標平面を使って、正比例と反比例の関係をグラフに表す力

例	正 比 例 の グ ラ フ			
<p>変域に、制限がある関数について、その制限される範囲をとらえることができるようにする。</p>	<p>変化のようすを表すとき、負の領域についても考え、グラフに表すために、座標平面を広げる必要性をつかむ。</p>	<p>座標平面上の点の座標を読んだり、点をとったりすることを通して各象限や座標軸上の点の特徴をつかむ。</p>	<p>正比例のグラフをかくことを通して、グラフの中での比例定数の意味をつかむ。</p>	<p>直線上の点の座標をもとに、正比例のグラフの比例定数の求め方をつかみ、式に表すことができるようにする。</p>
<p>高さ18cmの立方体の容器に、1分間に1cmずつ水を入れていく。x分後に水の深さは、y cmとなるとする。 (1) yとxの関係を式に表せ。 (2) 何分後に、水はいっぱいになるか。</p>	<p>水そうに、1分間に2cmずつの割合で水を入れている。今の水の高さが18cmであるとき、3分後、4分前の水の高さを求めよ。</p>	<p>次の座標を、座標平面上に表せ。 (1) (3, 5) (2) (2, -4) (3) (-1, 3)</p>	<p>次の表から、座標平面上に点をとれ。</p> 	<p>次の、正比例を表すグラフをかけ。</p> <p>(1) <math>y = \frac{2}{3}x</math> (2) <math>y = 2x</math> (3) <math>y = -\frac{1}{2}x</math></p>
<p>深さ30cmの円柱形の容器に水を入れていく。水面の高さが毎分2cmの割合で高くなっていくとき、水を入れはじめてからx分後の水面の高さをy cmとする。次の問いに答えよ。 (1) yをxの式で表せ。 (2) xのとることで、ける値の範囲は、何cmから何cmまでか。</p>	<p>A君が、1時間180mの割合で山に登り、湖のあるB地点をちょうど12時に通った。このB地点を基準点の0mとすると、時間とともに高さが変わるようすをグラフにしてみよう。</p>	<p>次の座標を、座標平面上に表せ。 (1) A(5, 3) B(5, -3) C(-5, 3) D(-5, -3) (2) E(4, 2) F(8, 2) G(-2, 2) H(-5, 2) (3) I(-4, 1) J(-4, 8) K(-4, -2) L(-4, -5) (4) M(3, 8) N(-1, 8) P(2, 8) Q(-6, 8) (5) R(8, 1) S(8, -1) T(8, -3) U(8, -1)</p>	<p>次の正比例を表すグラフをかき、その特徴を調べよう。</p> <p>(1) <math>y = 3x</math> (2) <math>y = \frac{3}{2}x</math> (3) <math>y = -2x</math> (4) <math>y = -x</math></p>	<p>次のグラフを表す式の求め方を考えよう。</p> 
<p>容器の高さが無限ではなく、30cmという制限がある中で考えていかなければならないことをつかむ。</p>	<p>小学校で扱ってきた座標平面では、かききれないため、負の領域も表すことのできる座標平面が必要であることをつかむ。</p>	<p>バズで、いろいろな座標を言い合いながら、その点を座標平面上にとり合ったり、適当にとった点の座標を読み取り合って、各象限や座標軸上の点の特徴をつかむ。</p>	<p>正比例を表す関数 <math>y = ax</math> のグラフは、原点を通る直線であり、比例定数がわかればグラフをかけることをつかむ。</p>	<p>正比例のグラフから、比例定数を読みとることにより、式に表す方法を、バズで教え合いながらつかみとる。</p>
<p>時計の長針が回転する角度は、経過する時間に比例する。0時から1時までの目を考え、0時から時間x分とその目に長針が回転する角度y°との関係を式に表せ。</p>	<p>次の座標を座標平面上に表せ。 (1) (-3, 5) (2) (2, -4) (3) (-1, -6)</p>	<p>次の問いに答えよ。 (1) (-4, 5)とx軸について対称な座標を求めよ。 (2) (2, 3)とy軸について対称な座標を求めよ。</p>	<p>次の正比例を表すグラフをかけ。</p> <p>(1) <math>y = \frac{4}{3}x</math> (2) <math>y = -1.5x</math> (3) <math>y = -\frac{2}{3}x</math></p>	<p>次のグラフを表す式を求めよ。</p> 

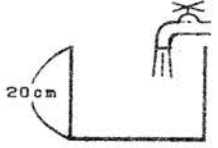
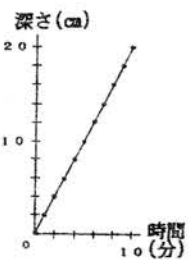
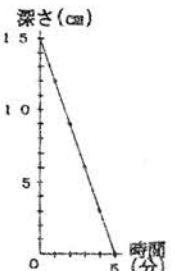


4. 本時のねらい  
5. 学習展開

具体的な事象の中から、ともなって変わる数量を見いだし

流れ	教師のはたらきかけ																
予課発表	<p>・次の表の中の□にあてはまる数を入れよ。</p> <table border="1" data-bbox="742 197 1225 264"> <tr> <td>x</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>・・・</td> <td>□</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>□</td> <td>・・・</td> <td>24</td> </tr> </table>	x	0	1	2	3	4	・・・	□	y	0	3	6	9	□	・・・	24
x	0	1	2	3	4	・・・	□										
y	0	3	6	9	□	・・・	24										
課題提示	<p>高さが20cmの水そうに、1分間に2cmずつ水の深さがふえてい</p> <p>①時間がたつにつれて、何が変わっていくのだろうか。</p> <p>②時間がたつにつれて水の深さがどのように変わっていくのかを調</p> <p>・時間がたつにつれて変化していくものにはどんなものがありますか。</p> <p>・時間がたつにつれて、水の深さが変わっていくようすを表すには、どんな方法があるだろうか。</p> <p>・では、これらの方法で時間がたつにつれて、水の深さがどのように変わるのか、調べてみよう。</p> <p>・どのように変わっていくのかを班で出しあってみよう。</p> <p>・どのように調べたのか発表してみよう。</p>																
まとめ	<p>・ともなって変わる2つの数量は、表やグラフに表すと考えやすくなる。これから、表やグラフをもとにしながら2つの数量が変化していくようすを調べていこう。</p>																
終末の自己評価活動	<p>・15cmの深さまで水の入った水そうから、毎分3cmの深さで水を外に流す。時間にもなって、深さが変化するようすを表とグラフに表してみよう。</p> <div data-bbox="933 1534 1252 1691" data-label="Diagram"> </div> <p>・予課の指示および次時の予告をする。</p>																

、その変化や対応のようすをとらえることができる。

生徒の活動	学び合いの姿	留意点																
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>...</td><td>8</td> </tr> <tr> <td>y</td><td>0</td><td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>...</td><td>24</td> </tr> </table> <p>くように水を入れていく。 べてみよう。</p> 	x	0	1	2	3	4	...	8	y	0	3	6	9	12	...	24		<ul style="list-style-type: none"> <li>• どうやって求めたのかも答えさせる。</li> </ul>
x	0	1	2	3	4	...	8											
y	0	3	6	9	12	...	24											
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水の深さ、水の量、水の体積、水の重さ、水そうの残りの高さ</li> </ul> <p>(1) 式で表す。 (2) 表を作って表す。 (3) グラフを作って表す。</p> <p>(1) 水の深さ = 時間 × 2</p> <p>(2)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>時間(分)</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>...</td><td>10</td> </tr> <tr> <td>深さ(cm)</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>...</td><td>20</td> </tr> </table> <p>(3)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• バズで、変化のようすを交流しあう。</li> </ul>	時間(分)	0	1	2	3	4	...	10	深さ(cm)	0	2	4	6	8	...	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 仲間の考えを聞き、いろいろな調べかたがあることを知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>変化のようすを交流しあうことにより、表やグラフをかくとその変化のようすをとらえやすくなることをつかむ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下位生徒にも何らかの方法で調べることができるようにする。</li> <li>• 表には、0から入れることを指示する。</li> <li>• 時間が10分までしか考えられないこともとらえさせる。</li> </ul>
時間(分)	0	1	2	3	4	...	10											
深さ(cm)	0	2	4	6	8	...	20											
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>時間(分)</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td> </tr> <tr> <td>深さ(cm)</td><td>15</td><td>12</td><td>9</td><td>6</td><td>3</td><td>0</td> </tr> </table> 	時間(分)	0	1	2	3	4	5	深さ(cm)	15	12	9	6	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えを、仲間の考えと比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 班の中で、みんなが自分の考えを出しあえるようにする。</li> <li>• 式、表、グラフについて1人ずつ当て、板書させ、説明させる。</li> <li>• 確認バズをさせる。</li> </ul>		
時間(分)	0	1	2	3	4	5												
深さ(cm)	15	12	9	6	3	0												

# 理科学習指導案

公開 1 (9:30 ~ 10:20)

学級 1年G組

場所 理科第1教室(北舎2階西)

授業者 坂野直樹

## 1. 単元名 物質とその変化

## 2. 指導の立場

### (1) 単元について

自然界には、実に多くの物質が存在し、それら一つ一つが固有の性質を有している。有史以来人類は、これらの物質の特性をつかみながら、自分たちの生活改善に役立ててきた経緯がある。

現在の科学のレベルでは、物質についてかなりのところかわかるようになり、新しい物質もどんどん合成されるようになった。

この単元では、これらの物質に対する歴史的な成果をふまえ、直接経験による物質の具体的な追究を通して、探求の仕方を学習し物質を巨視的な見方・考え方でとらえていきたい。そしてその過程において、化学分野についての初歩的概念を形成し、基礎的な実験の技能・器具の操作を習熟させたい。同時に理科の学習に対する興味や関心を養ってほしいと考える。

単元の構成にあたっては、小学校5・6年で学習した内容と関連が深い燃焼の学習から始めた。まず、ステルマルを中心にして、金属が燃えるときには酸素と結びつくこと、燃えた後にできる物質は重くなり、性質も異なることを確かめさせる。さらに身近にある気体の発生・捕集・識別法を把握させるとともに、指定された方法で気体を発生させ、集めて性質を調べて識別する。また加熱・冷却によって物質の温度が変化し、それに伴い物質の状態は固体⇄液

体⇔気体と変化するが、性質は変わらないこと、体積は変化するが重さは変わらないことを実験を通して納得させるようにしたい。

## (2) 生徒の象態

(1年G組35名)

アンケート項目	好き	まあまあ	普通	あまり	嫌い
理科が好きですか	15	9	11	1	0
実験や観察が好きですか	30	2	0	4	0
化学の学習が好きですか	11	10	6	5	4
予想を立てることが好きですか	6	5	13	4	8
仲間と学習することが好きですか	26	6	4	0	0

生徒たちの物質に対する興味・関心はどこにあるのか事前に調査した。その結果、化学変化に関する項目が多く、「なぜ変化するのか」とか、「どういふもの同士で変化が起こるのか」など化学変化の内容そのものに対する興味・関心が多い。ただ具体的なものを取りあはせての興味・関心ではなく、漠然としている内容ばかりなので、それはどの関心度が強いとはいえない。また実験器具の取りあつかいについても経験豊かな者は少なく、非常に不慣れである。

## (3) 本時の指導意図

本時のねらいは、「気体は温度を下げれば液体へと状態変化することをフタンの冷却実験を通して理解することができる。」である。本時は「物質と変化」の学習の最後にあたるため、課題解決の構想を生徒に考えさせ、探求の仕方を身につけさせたい。そのために予課や課題については、既有知識や生活に関わる内容を位置づけ、一人一人が根拠を持ち、追求していけるものとした。また、探求の仕方を身につけさせるために個人の考えを班の中で出し合い、話し合いながら、実験に取り組ませた。そして最後に読み物資料「状態変化の歩み」から、状態変化の概念を捉えたいと考える。

### 3. 単元構想図 ——— 状態変化 ——— (全5時間)



#### 単元目標

- ① 物質の特性やその変化についての初歩的かつ定性的な調べ方を身につける。
- ② 物質にふれ、物質を調べることへの興味や関心を高める。
- ③ 物質についての見方・考え方を養い、物質の多様性について把握する。

見

#### 小単元目標

加熱、冷却によって 物質の温度が変化し、それに伴い、物質の状態は性質は変わらないことと、体積は変化するか、質量は変化しないことを、実

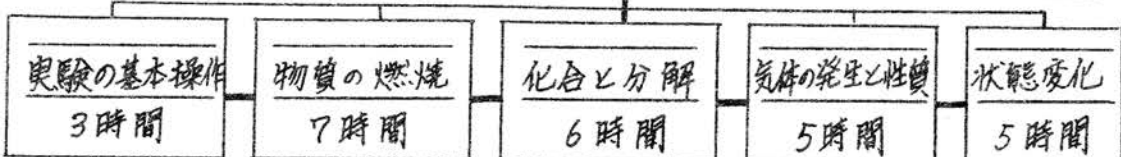
時数	1	2	
本時のねらい	物質には、固体・液体・気体の3態があることが理解できる。	水は、液体から固体に状態変化したとき、体積は変化するか、質量は変化しないことを理解できる。	ろうは、液体化したとき、体積は変化しない
事実事実	ろうの加熱 	水の冷却 	ろうの冷却
予課	ろうソクが燃えるのは、ろうが燃えているのか、芯が燃えているのか。	水は、凍ると、体積は、どうなるだろうか。	ろうが液体、体積はどうか
課題	ろうを熱して、その変化を観察しよう。	水が液体から固体に状態変化したとき、体積や重さはどうなるだろう。	ろうは液体、重さはと
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうを熱して、状態の変化を観察する。(班実験)</li> <li>◎ 変化の様子を発表し、状態変化についてまとめる。</li> <li>・身近な物質の状態変化を考える。</li> <li>・調べてみたいことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予課から、体積の変化について班で話し合う。</li> <li>・体積変化の事実をもとにして、質量についてどうか予想し発表する。</li> <li>・実験で確かめる。(班実験)</li> <li>◎ 結論を班で話し合い、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予課の予想し、体積変</li> <li>◎ 質量について話し合う。</li> <li>・実験で確</li> <li>・水とろうの2変化に伴う体</li> </ul>
学び合いの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ろうが温度変化に伴って状態を変化させていくことを、前時までの化学変化と対比させて、班で話し合い、区別していくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水が液体から固体へと変化したとき、体積変化はあるか、質量変化はないことを班でまとめられ、班内で疑問を出し合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水は状態変</li> <li>しないことと、本を考えさせ、見い出すことか</li> </ul>






<物質とその変化 全25時間>

物質には固有な性質があり、加熱によって化学変化をしたり、物理変化をする。


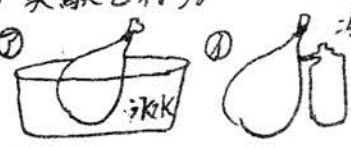
考え方



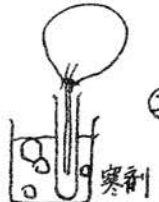

固体 ↔ 液体 ↔ 気体と変化するか。  
実験を通して理解する。

3	4	5 (本時)
から固体に状態変化は変化するか。質量は変化するか。質量変化しないことを理解できる。 	液体から気体に状態変化したとき、体積は変化するか。質量は変化しないことを理解できる。 ジェルエーテル 	気体は温度を下けると液体になることを理解できる。 フワンの冷却 
から固体になると、どうなるだろうか。	自然界や身近なところでの現象で、液体→気体になる現象はどんなことがあるか。	身のまわりの気体の状態で存在する物質には何かがあるか。
固体で体積は、どうなるだろうか。	液体から気体に状態変化したとき、体積はどうなるだろうか。	気体を液体にすることはできるだろうか。
ともに班で実験の様子を見つける。 予想を立て、班で確かめる。(班実験) 2つの実験から、状態変化と質量についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>液体→気体での体積変化を予想し発表する。</li> <li>実験で確かめる。(演示実験)</li> <li>体積変化についてまとめた後、質量について班で考えさせる</li> <li>液体→気体の状態変化をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や生活の中の事象をもとにして、予想し発表する。</li> <li>予想をもとに、班ごとに実験の方法を考えさせる。</li> <li>実験で確かめる。(班実験)</li> <li>本時のまとめをする。</li> </ul>
としても、質量変化は3時のロウの場合、班で一つの観測性を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>質量について、前時までの学習内容から類推し、変化しないことを班で話し合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の方法を班で話し合う中で、直求心を持ち、自分たちの手で解決しようとする意欲を持つことができる。</li> </ul>

4. 本時のねらい 気体は温度を下げてやることにより、液体へと状態変  
 5. 学習展開

流れ	教師のほたらきかけ	生徒の
予課発表	○ 予課の内容 『身のまわりで気体の状態で存在している物質にどんな物質があるか。』	○ 教科書の司会で予課 酸素 二酸化炭素 窒素
課題提示	 スタンをビニル袋に入れ 見せる	○ 気体が液体になるか ▶ 液体にすることができる。 ・ 気体を冷やせばいい。 ・ 液体窒素がある。 ・ カスライターやポンプの中は冷
課題追求	○ 前時までの学習や生活の中からの事象をもとにして予想させる。	○ 冷却したり、
解決の構想	○ 『冷却(圧縮)すれば可能である』考えをもとに、班ごとに実験方法を考えさせる。	○ 班で考えた実験方法を(予想される実験方法)
実験	《課題追求バス》 (学習リーダー司会で自由会話法) ※ バスの入口 → 自分の予想をもとに、実験方法を考え、班で発表しよう。 バスの出口 → 班で立てた計画を全体で発表しよう。	○ 実験を行う。  ① 冷却の考え方 ・ 寒剤で冷やす ・ 氷水で冷やす ・ 冷却用液体スプレーで冷やす
課題解決	○ 実験についての助言・注意や器具について説明をする。 (冷却方法をとった班のうち、氷水よりも冷たい水を要求してきた場合、寒剤を与える。)	○ 読み物資料を配布。 本時のまとめをノートに書かせる。 ○ 次時の予課を提示する。
一酸化	○ 読み物資料を配布。 本時のまとめをノートに書かせる。 ○ 次時の予課を提示する。	気体は温度を下げる(圧縮)

化することをフワンの冷却実験を通して理解することができる。

活動	学び合いの姿	留意点
<p>発表する。(発表は教科書が板書)</p> <p>空気 都市ガス、プロパンガス など</p> <p><b>とかできるだろうか。</b></p> <p>と根拠を持って予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>できない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと気体である。</li> <li>・できるもの、できないものがある</li> </ul> </div> <p>全体。↓</p> <p>圧縮したりすると可能である</p> <p>↓</p> <p>全体の場で発表する。(学習シート)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>⑤ 圧縮の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手で力いっぱい押す</li> <li>・注射器の中へ入れて押す</li> </ul> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 10px;">⑦</div>  <div style="margin-left: 10px;">①</div>  </div> <p><b>るとにより液体になる。</b></p>	<p>学び合いの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仲間の考えと自分の考えを比較し、前時までの学習や生活の中での事象を想起し、さらに自分の考え(根拠)を具体化していくことができる。</li> <li>◎ 課題直求バスで、自分の予想に基づき、実験方法を出し合い、班でまとめ、計画を立てる。</li> <li>○ 班で実験器具を分担し合って用意し、協力して実験に取り組み、班の実験を発展させることができる。</li> </ul>	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニール袋にとる気体の名前前は生徒に教えず、何かの気体であるとして提示する。</li> <li>・「できる、できない」だけの考えでなく、「どうして〜か」を書かせる。</li> <li>・実験器具については、生徒から要求されたものをできる限りかなえるように留意しておく。</li> <li>・実験の方法については、～を行うために何を使って、どのように確かめさせるかを班ごとに助言する。</li> <li>・寒剤を使用する班には使い方を十分に指導する。</li> </ul>

# 美術科学習指導案

公開 1 (9:30~10:20)

3年E組 美術教室(南舎3階)

指導者: 岩井 利美

## 1、題材名: 植物を基にした構成(絵画)

### 2、指導の立場

#### (1) 題材について

3年生の生徒にとって、この一年間の学習が生涯を通して最後の“美術科”となる場合が多い。

したがって、題材設定にあたって心がけたことは、

① 今までの題材の集大成であること。

② 専門性を追求できること。

以上2点である。週1時間と限られたなかで、これらを満たし得るものとして考えたのが、F4キャンバスにボールペンで表現していく、本題材である。

技法としては、市販キャンバス(目の細かいもの)に、ジェッソ(樹脂系下地剤)を塗布し、平たんな面をつくり、油性ボールペンと水彩絵の具で表現する方法を用いた。

ただし、この市販キャンバスとジェッソとの接着性、さらに水彩絵の具とのなじみの問題は、実験はしてみたものの、今後の再検討事項として考えている。

つまり、基底材と地塗り材については、合板の使用、白亜、ニカワの使用等を今後考慮していく必要がある、ということで、新しい中学校の表現方法を開拓したいと思っている。

この題材では、身近な植物を観察し、捉え方をスケッチとして表し、そのイメージを大切にしながら画面構成させたい。

又、ボールペンという、一般的な筆記用具がジェッソ地、スナワチ、チタニウムホワイトの強い白色の上であざやかに浮き出てくる事と、紙とは異なる感触に技法の妙を味わわせたい。

ただ、この強すぎるとも言える白地を考慮し、水彩絵の具での淡彩を施すことにした。

## (2) 生徒の実態

- ・ 生徒のこれまでの学習の重点、ということについて考えてみると、

1年時→デッサン力 「自画像」など

2年時→画面構成力 「分割や配置による平面構成」など

ということが言える。物を「みて→かく」という行為は、表現力の基本であり常に指導していく必要があるが、「自画像」というテーマでかなりの時間をかけ1年時にエンピツデッサンというかたちで追求している。

2年時は、生徒の平面作品におけるつまづきの原因が、画面構成力の弱さにあると考え、どの題材においても“構成する”ことを大切に考えてきた。デザイン「分割や配置による平面構成」、木彫レリーフ「私の手」とともに画面構成の考え方として

A、規則的な表現

B、不規則的な表現

という2つの方向を意識させることで、自分のねらいをはっきりさせる指導をしてきた。

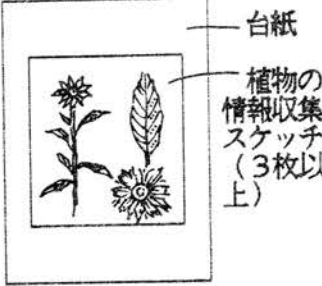
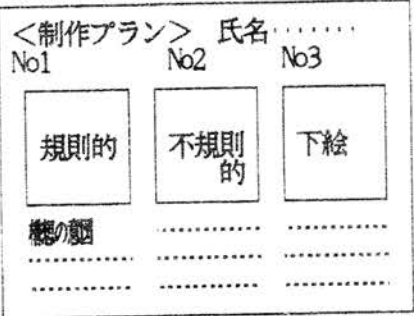
こういった既習事項を生かしながら、より発展的で専門的な本題材に取り組む姿を期待したい。

## (3) 本時の指導意図

- ・ 本時はキャンバスへの制作に入るため、表現方法の基本（ボールペンの使い方、水彩絵の具の塗り方）を身につける場であり、今後、作品の出来を左右すると言っても過言でない、大切な時間である。したがって、簡単な習作を描くことで、表現方法を習得させることとした。

また、同じ立場に立って制作していくために、班で互いの作品の進捗を確認し合う場を設けた。



流れ	導入: 制作について	植物スケッチをする	「制作プラン」を考える
	1	4	2
指導 ねの らい	・制作の見通しを持つことができる。 ・素材の特性をつかむことができる。	・身近な植物に目をとめてよく観察し、スケッチすることができる。	・スケッチを基にして画面構成を工夫し、「制作プラン」を作ることができる。
作 品 の 進 度	<キャンバスづくり> 3回以上 ジェッソ塗布		<制作プラン> 氏名…………… No1                  No2                  No3 
指 導 内 容	・中学校での既習事項をふり返らせる。(デッサン、構成) ・キャンバス、ジェッソ等、素材についての知識をつけさせる。	・屋外に出し、身近な植物をよく観察させる。 ・スケッチすることで、植物の情報を収集させる。 ・エンピツで描きこむようさせ、最後に淡彩を施させる	・3枚の下絵用紙に、スケッチを基に規則的な表現、不規則的な表現を意識させ、下絵を描かせる。 ・どんなイメージを大切にして構成したか、貼りつけた下絵の下に「構成の意図」を書かせる。
準 備	S ・新聞紙	・水彩道具5点セット ・2B~4Bエンピツ	・のり ・はさみ
	T ・F4キャンバス ・ジェッソ ・塗布用ハケ	・スケッチ用紙8ツ/2 ・台紙	・下絵用紙(上質紙) ・台紙
評 価 の 観 点	・デッサン、構成で大切なことをつかんでいるか。 ・キャンバス作りが正しくできているか	・よく観察し、細部まで追求したデッサンができているか	・自分のイメージを大切にして画面構成できているか。 ・構成の2つの考え方ができているか
留 意 点	・表現方法の深さ、広がりを感じとらせたい。	・スケッチは台紙にきちんと貼りつけさせる。	・形態がどのようにしてリズムを生むのかしっかり指導する。
合 学 い び 姿 の	・キャンバス塗りが正しくできるよう注意しあう。	・集中できる雰囲気づくり	・各自のイメージを交流し合い、自らの表現に生かす。

に対する自分のイメージを大切に画面構成し、  
ボールペン・水彩絵の具の使い方を考えて表現することができる。

「下絵」をつくり、 キャンパスに転写する	技法をつかむ (ボールペン・水彩絵の具)	キャンパスに、 ボールペン・水彩絵の具で描く	まとめ
2	1 (本時)	10	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスと同じ大きさの下絵をつくり、キャンパスにのっていないに転写することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールペン・水彩絵の具の使い方の基本をつかむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチ、下絵を基にしなが ボールペンの線の粗密を考えた表現ができる。</li> <li>・全体のイメージを大切にしながら、淡彩表現をすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品鑑賞する中で、互いの良さを認め合うことができる。</li> </ul>
<p>&lt;転写&gt;</p> 	<p>&lt;学習プリント&gt;</p> 		 <p>ビニール袋</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・No.3の下絵を基に原寸大の下絵をエンピツでのいないに描かせる。</li> <li>・キャンパスに下絵を固定させ、カーボン紙をはさんで赤ボールペンで転写させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールペンの使い方、水彩絵の具の塗り方を作例を基に考えさせる。</li> <li>・自作の一部を習作として別紙に描かせ、技法をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチ、下絵を参考にしながら、ボールペンの線を生かした表現をさせる。</li> <li>・黒、白のバランスを考えさせる</li> <li>・水彩絵の具で淡彩を施させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス単位で批評会を行い、友達作品を鑑賞させる。</li> <li>・ビニール袋に入れ、大切に持ち帰らせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ボールペン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒ボールペン</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原寸大下絵用紙(上質紙)</li> <li>・カーボン紙(黒)</li> <li>・セロハンテープ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品</li> <li>・参考作品を拡大したもの</li> <li>・学習プリント</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニール袋</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・のいない下絵ができているか。</li> <li>・正確にキャンパスへ転写できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習作を描くことで、技法を自分のものとしているか。</li> <li>・表現の見通しが持てているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗の調子、白黒のバランスがしっかりしているか。</li> <li>・全体のイメージを大切に仕上げて(淡彩)ができているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の作品の良いところを感じとることができたか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・下絵がずれないように注意させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習作に時間がかかりすぎないために、ほんの一部を写すようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールペンのボタツキに注意</li> <li>・水彩絵の具は薄くし、筆につけすぎないように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を大切に作る心くばりをさせる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに注意し合い、転写を正確に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技法を互いにみつけ合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの作品をみることで、技法の多様性に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・批評会で良いところを認め合う。</li> </ul>

4、本時のねらい：ボールペン、水彩絵の具の使い方の基本をつかむことができる

5、学習展開

流 れ	教 師 の 働 き か け
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習をふり返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時は原寸大の下絵を完成させ、キャンパスに転写してもらった。</li> <li>○計画通り転写できていますか。各班で確認してください。</li> <li>・不十分な人は班員の助けを借りながら追求してください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、これからの制作で、ボールペンや絵の具をどのにを使って表現したらいいか考えてみましょう。</li> <li>・同じ技法を用いた、こんな作品があります。  <div style="text-align: right;">&lt;教師作品提示&gt;</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この作品を仕上げるためには、<u>ボールペンの使い方と水彩絵の塗り方</u>を考える必要があります。</li> <li>・部分を拡大するとこのようになります。  <div style="text-align: right;">&lt;作品の拡大図提示&gt;</div> </li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題をつかむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ボールペンの使い方</u>で、<u>面と面の明るさ、動かし方</u>で気づいたことはありませんか。  <div style="text-align: right;">→ 班内で交流しあって下さい。 しぼらくして</div> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を追求する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表してもらいましょう。</li> <li>・では、この表現の中から、あるいは自分で考え出した表現を使って、ボールペンの使い方を練習してみましょう。  <div style="text-align: right;">&lt;学習プリント配布&gt;</div> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のたしかめをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボールペンの使い方がつかめましたか。</li> <li>・最後に<u>うすい絵の具を穂先をしぼって塗ってください。</u></li> <li>・これが<u>水彩絵の具の塗り方</u>です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次週はいよいよキャンパスへの制作です。</li> </ul>

生徒の活動	学び合いの姿	留意点			
<p>*バズ体形で開始 (水彩道具、ボールペン用意)</p> <p>・下絵の転写が完了しているか、互いの作品を確認し合う。 ・制作が不十分な者がいたら助言し、転写まで完了させる。</p> <p>・「こんな感じになるのか。」 ・「どうやって描いたんだろう。」</p> <table border="1" data-bbox="164 1137 603 1451"> <tr> <td data-bbox="164 1137 371 1451"> <p>面と面の明るさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗の調子で立体感を出している。</li> <li>・どちらかの面が明るく、どちらかの面が暗い</li> </ul> </td> <td data-bbox="371 1137 603 1451"> <p>動かし方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的なところと、曲線的なところがある。</li> <li>・バックと使いわけてある。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>・学習プリントに従って自作の一部を写し、ボールペンの使い方を考えながら描く。 ・バズで今日の学習課題が達成されたか確かめ合う。 ・水彩表現を施してみる。</p>	<p>面と面の明るさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗の調子で立体感を出している。</li> <li>・どちらかの面が明るく、どちらかの面が暗い</li> </ul>	<p>動かし方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的なところと、曲線的なところがある。</li> <li>・バックと使いわけてある。</li> </ul>	<p>・互いの作品の進度をみせ合いながら確認し合う。</p> <table border="1" data-bbox="683 1149 1091 1317"> <tr> <td data-bbox="683 1149 1091 1317"> <p>自分で気づいたことをどんな小さな事でも班内で語り合い、追求していく。</p> </td> </tr> </table> <p>・ボールペンの使い方がわかっているか互いの作品をみせ合う中で確認し合う。</p>	<p>自分で気づいたことをどんな小さな事でも班内で語り合い、追求していく。</p>	<p>・道具はあらかじめ用意させ、バズ体形にさせておく。</p> <p>・全員を同じスタート台に立たせる。</p> <p>・制作の広がり、深さを生徒たちが感じることを願いたい。 ・この2つが制作を進める上で重要になってくる。</p> <p>・中心部分だけに限らせ、時間をかけすぎないように配慮する。</p>
<p>面と面の明るさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明暗の調子で立体感を出している。</li> <li>・どちらかの面が明るく、どちらかの面が暗い</li> </ul>	<p>動かし方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線的なところと、曲線的なところがある。</li> <li>・バックと使いわけてある。</li> </ul>				
<p>自分で気づいたことをどんな小さな事でも班内で語り合い、追求していく。</p>					

# 技術・家庭科(技術系列) 学習指導案

公開1 (9:30~10:20)

3年C, D組男子 木工室(北舎1階西)

授業者 田口利一

## 1. 題材名 電気2 増幅回路を用いた装置の設計と製作 (インタホンの製作)

### 2. 指導の立場

#### (1)題材について

電気の利用が、家庭生活でも産業でも、急激に増大し、その原動力になっているものは、半導体(ダイオード、トランジスタ、IC、・・・)によるエレクトロニクスの発達である。これによって、理論的にも技術的にも電気の利用分野が広がり、電気機器も電子機器も高性能化、小型化、省電力化されてきた。今後のわれわれの生活は、電気との関わりはますます深くなっていくことが予想されるだろう。そのために、生徒がダイオードやトランジスタについての、初歩的な知識や技術を学んでおくことが今後の生活に必要なことである。

また、電気2の目標である「電気1の学習を基礎とし、その応用発展として、増幅回路を用いた装置を設計し、製作する活動を通して、目的に応じて電子の働きを取り出して利用する仕組みについて理解させるとともに、電気機器を工夫して使いこなす能力を伸ばす」ということにもとづき、本題材を位置付けた。

本題材(インタホンの製作)は、次の観点で選んだ。

- ①生徒の興味・関心の高いものであること。
- ②日常生活で使うことができ、実用的である。
- ③トランジスタを使用した増幅回路の仕組みを指導しやすいこと。
- ④製作を通して、部品の取り付け、配線などの基礎的な技能の指導ができること。



## (2)生徒の実態

3年C、D組の男子生徒（41名）にはんだづけについてのアンケートを取ってみると、右のような結果になった。

半数の生徒が、はんだづけの経験を持っているが、ほとんどの生徒は、うまくできるか不安に思っている。その理由として、経験している生徒は、失敗したとか、数回の作業経験しかないということあげている。経験のない生徒は、やり方が分からないからという理由をあげている。これらからほとんどの生徒が、はんだづけについて初めてといてもいい状態である。

しかし、はんだづけに対して、「上手にやりたい」「きれいにやりたい」などと多くの生徒が意欲をもっている。また、これまでの電気の学習に対しても班で協力しながら熱心に取り組んでいるので、はんだづけのポイントをはっきりさせ、生徒たちが、班で教え合いながら学習することで、はんだづけの技能を高めさせたいと考える。

はんだづけの経験	
あ る	46%
な い	54%

## (3)本時の指導意図

課題を見つける場では、はんだづけ経験者からうまくいかなかったはんだづけの経験を語らせ、さらに作動しない原因の多くははんだづけ不良であることを知らせ、良いはんだづけの例と悪いはんだづけの例を比較し、課題を設定する。

体を通して解決する場では、はんだづけの示範VTR（自作）を見せる。その時、こて先とはんだの動きに注目させる。VTRを見た後、気づいたことを発表させ、はんだづけのポイントを板書し、整理する。

そして、作業に入るが、経験がほとんどないといってよい生徒が多いということから、班内で一人ずつ作業させ、班員にはアドバイスをさせる。

そこで、作業者は、自分のいけないところに気づき、そして、班員は教えることではんだづけのポイントを理解するという場にしたい。（教え合うバス）

この一次作業後、もう一度、はんだづけのポイントを確認し、残った箇所のはんだづけを行わせる。このときも、教え合いや習うという学び合いの姿が生まれたらよいと思う。

最後に、課題についての感想を発表させる。はんだづけの内容だけでなく、仲間との関わりで学べてよかったことも発表させたい。

片付けも、班員全員できちんと手際よく行わせたい。

### 3. 単元構想図 (第1ユニット 音と音声電流 [全6時間])

#### 単元目標

- ①スピーカの仕組みから、音⇄音声電流に変換する仕組みが分かる。
- ②小さな基板に小さな部品をはんだづけする時は、接触不良やショートを考え製作する必要があることが分かる。
- ③接触不良を起こさず、効率のよいはんだづけができる。
- ④一石増幅器を製作し、音を大きくできた喜びをもち、その仕組みや働きを調べたいという意欲を持つ。

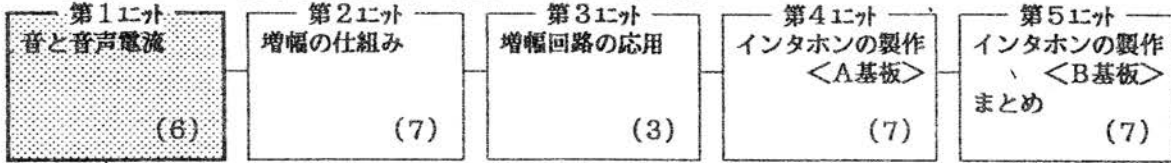
＜質く課題＞ 小さな音を大きくするためにはどうしたらよいだろうか。

時数	1	2	3
項目	通話試験	スピーカの仕組み	一石増幅器の実体配線図
本時のねらい	スピーカは音⇄音声電流のエネルギー変換をしていることがわかる。	コーン紙の振動がコイルに伝わりコイルと磁石が働きあって音⇄音声電流の変換をしていることが分かる。	線が交差しないように、自分の考えた実体配線図を書くことができる。
課題	スピーカだけで、音がはっきり聞こえるのは、どうしてだろうか。	スピーカはどのようにして音を音声電流に変えているか。	線が交差しないように、自分の考えを実体配線図に表してみよう。
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカどうしの通話実験をする。</li> <li>・電流が流れているか調べる。</li> <li>・試験結果からわかったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の感想を発表する。</li> <li>・スピーカの分解の示範をみて、仕組みを知る。</li> <li>・コーン紙が動く、仕組みを知る。(実験)</li> <li>・学習を終えての感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一石増幅器に使う部品を点検する。</li> <li>・回路図と部品、部品の電極との対応について説明を聞く。</li> <li>・実体配線図で大切にすることを出し合う。</li> <li>・基板の上に部品をおいて実体配線図を書く。</li> </ul>
願わうい学のび姿	本当に電気かどうか調べるときに、いろいろな方法を出し合い、調べることができる。	スピーカの構造から、どうやって音を音声電流にしているか、お互いに考えを出し合う。	実体配線図を書くとき、大切にすることを出し合う。
生き生きと動く場	<p>スピーカから電気が流れているか、班ごとで確かめる場。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     電気発生を確かめる方法を既習経験から、出させたい。                 </div>	<p>スピーカの仕組みを知り電気発生 of 仕組みを考える場。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     理科の磁界の学習内容を生かしたい。                 </div>	<p>自分の考えを実体配線図に表す場。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     自分の考えを素直に書かせたい。                 </div>
生徒の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカが電流に変換しているが、その電流は微弱だ。</li> <li>・構造が知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石とコイルの働きで、音⇄音声電流に変換している。</li> <li>・音を大きくするには？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実体配線図が書けた。本当にこれでいいのだろうか。他の人の書いたものを見てみたい。</li> </ul>

#### 学習前の意識

- ・どうやったら音が大きくなるのか。
- ・スピーカは音を出すものだ。
- ・スピーカの黒い紙が、振動しているのを見たことがある仕組みはどうなっているのかな。
- ・アンプ作ってみたい。
- ・うまく音が出るかな。
- ・はんだづけがうまくできるだろうか。

＜電気2 領域構想 全30時間＞



4	5 (本時)	6
<p>実体配線図の修正</p> <p>接続部分の少ないもので空間がある程度有るものの方が、製作や点検が行いやすいことがわかり、部品を付ける事ができる。</p> <p>作りやすく点検しやすい配線をするにはどうしたらいいのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実体配線図を書いたの思を出し合う。</li> <li>・回路図を発表する。</li> <li>・自分の回路図を修正する</li> <li>・回路図をもとに、基板に部品を取り付ける。</li> </ul> <p>仲間の回路図のよいところを自分の回路図に生かすことができる。</p> <p>自分の回路図を発表する場 回路図をもとに部品を取り付ける場</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>一人一人の考えた回路図を生かしたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな見えて、接続部分の少ないものがよい。</li> <li>・早くなるようにしたい。</li> </ul>	<p>はんだづけ</p> <p>熱を部品に伝えず、表面のきれいなはんだづけができる。</p> <p>表面のきれいなはんだづけをするにはどうしたらよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はんだづけのよい例と悪い例を比較する。</li> <li>・はんだづけの示範を見る</li> <li>・気をついたことを発表する。</li> <li>・班ごとで、はんだづけをし、お互いに教え合いながら作業する。</li> <li>・感想を発表する。</li> </ul> <p>仲間のはんだづけの仕方を学び、お互いにアドバイスをしあいながら、はんだづけをすることができる。</p> <p>増幅器のはんだづけをする場</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>はんだづけの経験のあるものに語らせ、班員にアドバイスをさせたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいなはんだづけができた。</li> <li>・うまく鳴るだろうか。</li> </ul>	<p>試験と評価</p> <p>増幅回路の点検の方法が分かり、点検結果の応じて処置ができる。</p> <p>増幅器のテストはどのようにしたらいいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験の方法を出し合う。</li> <li>・増幅器の試験をする。</li> <li>回路計</li> <li>・修正する。</li> <li>・試験してみる。</li> <li>・製作し、試験した感想を発表する。</li> </ul> <p>回路計の使い方をアドバイスしながら増幅器の試験ができる。</p> <p>回路計を使いながら、増幅器の試験をする場</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>音を鳴らしたいという願いを大切に、試験を行わせたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回路計で試験をすると安心だ。</li> <li>・音が大きくなった。不思議だ。</li> </ul>

学習後の意識

- ・音を大きくする装置を自分で作ることができてうれしい。
- ・はんだづけが、できるようになった。今度は、早く正確にはんだづけがしたい
- ・音が大きくなったが、どうして音が大きくなるのだろうか。その仕組みを知りたい。
- ・もっと音を大きくするにはどうしたらよいのだろう。一石増幅器をいくつもつなげばよいのだろうか。

4. 本時のねらい  
5. 学習展開

熱を部品に伝えず、表面のきれいなはんだづけができる

流れ	教師の働きかけ	生
課題を見つめる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は前に配線しておいた一石増幅器のはんだづけをします。</li> <li>学級の半数の人がはんだづけの経験がありますので、その時のはんだづけの様子を話してもらいます。</li> <li>はんだづけのよい例と悪い例を見てどこが違いますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面がでこぼこに</li> <li>きれいにできな</li> <li>表面が光っている</li> <li>きれいにもってあ</li> </ul>
体を通して解決する場	<p style="text-align: center;"><b>課題</b> 表面のきれいなはんだづけをするには、どうしたら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はんだづけの示範のVTRを見せる。 [抵抗の取り付け、トランジスタの取り付け]</li> <li>はんだづけのVTRをみて、気づいたことを発表しなさい。手順を整理する。</li> <li>それでは、班で教え合いながら、抵抗のはんだづけをしなさい。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①はんだごてをコンセントに差し込む。</li> <li>②班ではんだづけをする順番を決める。</li> <li>③一人づつ、はんだづけを行い、他の班員は、はんだづけのポイントでおかしいところを教えてあげなさい。</li> </ol> </li> <li>班内でいちばん上手に出来た人は、特にどんなことに注意して作業したか発表しなさい。</li> <li>仲間のアドバイスをもとに、残った箇所のはんだづけをしなさい。Tr、コンデンサは熱を入れないようにクリップを使ってしなさい。作業中は、アドバイスをしたりうまくいかないときは班の子に聞いて取り組みなさい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>接合部をこて先で</li> <li>トランジスタ、コ</li> <li>を使って熱を逃が</li> </ul>
伸びを確かめる場	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の課題について、わかったこと、出来るようになったことを発表しなさい。</li> <li>後片付けをしなさい。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>教え合うバズ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はんだづけのポイ</li> <li>イスを加える。</li> <li>仲間のアドバイス</li> <li>全員終わったら、</li> <li>いところ、気をつ</li> <li>こて先とはんだの</li> </ul> <p style="text-align: center;">.....</p> <p>接合部にこて先を をつけ溶かす。熱 行うとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班の仲間の子に教</li> <li>ミングに気をつけ</li> <li>はんだをこてで溶</li> <li>熱ではんだを溶か</li> <li>はんだづけはでき</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>班員、協力して道</li> </ul>

徒 の 活 動	学 び 合 い の 姿	留 意 点
<p>なってしまった。 った る。</p> <p>よいか。</p> <p>十分あたためる。 ンデンサは熱に弱いので、クリップ している。</p> <p>ントと照らしあわせながら、アドバ をもとにはんだづけをする。 一人一人のはんだづけについて、良 けることを話し合う。 タイミング</p> <p>を意識しながら、作業する。 きは、仲間に聞きながら作業する。</p> <p>つけ、十分あたためた後、はんだ に弱い部品は、熱を逃がしながら</p> <p>えてもらい、こて先とはんだのタイ てやったら、うまくできた。 かすのではなく、こてであたためた すとうまくいくことがわかった。 たが、本当に鳴るのだろうか。</p> <p>具や部品を片付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はんだづけの経験者の話をきく。</li> <li>・ 見本を見て、違いを見つけ合う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の気づかなかたことを仲間の発言によって気づく。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間に教えることで、はんだづけのこつを学ぶ</li> <li>・ 仲間のアドバイスを聞いて、はんだづけのこつを身に付ける。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班ごとで、教え合いながら作業を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作動しない多くの原因がはんだづけの失敗であることを押さえる。</li> <li>・ はんだづけの見本</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見る観点をはっきりさせる。(場所、タイミング)</li> <li>・ はんだづけの仕方を図に表したもの。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火傷など怪我のないように十分注意させる。</li> <li>・ こて先の適温の指示</li> <li>・ 机間巡視をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に気をつけることをもう一度確認する</li> <li>・ 机間巡視をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2～3人に語らせる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時の課題につなげたい。</li> <li>・ はんだごての取り扱いについて気をつけさせる。</li> </ul>



# 保健体育科学習指導案

公開 / (9:30 ~ 10:20)

2年AB組男子 体育館

指導者 杉井良吉

1. 題材名 バレーボール

2. 指導の立場

(1) 題材について

バレーボールは、6人と6人のプレーヤー(6人制の場合)が、ネットをはさんで相対し、空中にあるボールを落とす場所へ落とすまいとやりとり(ラリー)する競技である。

ゲームにおいては、味方コート側のボールを駆使してつなぎ、相手コートへ落とす場所として送られ、受け取れば、相手は落とすまいとボールをひくい、攻めに転じようとする。このようなやりとりをゲームの中でいくつも生みだすことが目的とする競技である。

しかも、このやりとりが「盛んであればあるほど」、バレーボールの面白さをおもしろさを持つといえる。端的にいえば、バレーボールの本質は、ボールを空中で「やり合」ることにある。しかも、バレーボール全体の考えは「やり合」でとらえることが出来る。

ネットをはさんで、相対してやりとりする競技には、テニス、卓球、バドミントンなどがあるが、バレーボールは、これらのゲームに比べて人数も多く協同的の性格が強い。その攻防ぶりは、テニスやバドミントンのように単独でやり合の対なく、味方コート側のボールを協同したから相手コートへ攻め、相手はこのボールに打ち返す防御にあたるという「協同攻防」の姿を示す。

また、バレーボールは一般にチームゲームとされているように、メンバーが複数あるがゆえに、お互いの気持ちをつなぐことや、動きを統制しあったりしあったりするゲームは望めない。つまり、チームの集団性の強い運動であるといえる。そこで、活動の場面においては、やりとりをスムーズに、協力して技をみかく、位置役割を責任を持って果せるなど、集団的側面の特性を生かすように指導

ていきたい。お互いが、声をかけ合い、助け合ったり、はげまし合いながら  
チームの勝利に向けて 精一杯がんばる。その一方で、ひとりひとりを助け、互い  
に高まり合う学習集団の形成につながるものと考え、授業を進めていきたい。

### (2) 生徒の実態

現2年生は、1年時で3本で返し合うバレーボールを行ってきたが  
実施時期が昨年の5月であり、すいたと時がたっているため、基本技術が忘れ  
がちになっている。そのため、正確なレシーブやパスがうまくできない。しかし、  
ボールゲームの題材は全体的に意欲的で、昼休みなども利用して仲間と  
遊んでいる。前題材ではバスケットボールを行ってきた。バスケットボールの授業で  
は、どの班にも、バスケット部員がおりリードして積極的に練習やゲームを取  
り組むことができた。また、熱中するあまりに、仲間に対して言葉づかい  
が荒くなったり、フットワーク違反をしたりする場面も見られた。そこで、  
本題材では仲間とともによくなるということをめざしながら 授業を進めて  
いきたいと考える。

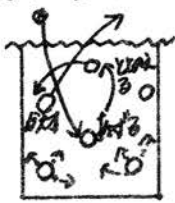
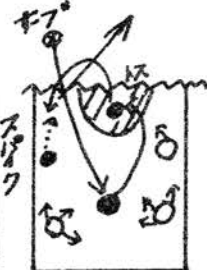
### (3) 本時の指導意図

本時は、「スイクができる」の第2時である。スイクで、特に大切なのはディ  
フのタイミングが合わないことであり、そのタイミングをボールの高さに応じて  
仲間の声におまかせたいと思う。スイク練習は、おび2時間目なので教  
師も数多く声を出していきたい。おび、課題提示では前時おびの記録の振り返り  
は、本時の課題達成の意識を強く持たせたい。

練習ゲームでは、うまくいかなかったり、こじけた時にタイムアウトをと  
りて、実際の動きの中で課題を中心に、確認したり、教え合ったりはげ  
まし合うための班バトルをくませたいと思う。課題は、おび、激攻  
点数を発表地、仲がを認め合いたい。おび、お互いによく声をかけあえ  
班を、紹介していきたいと思う。

3. 案 構想図 (バレーボール2年指導計画 全15時間)

目 標  
 ○ 三段攻撃を  
 ○ 互いに支え合

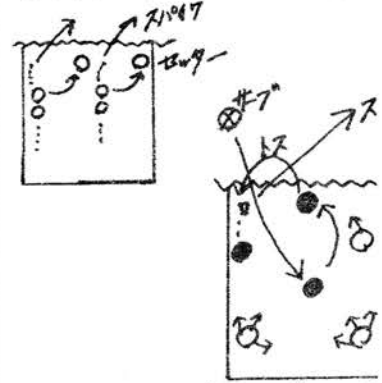
各 時 程	学 習 内 容		学 習 運 動	
	運 動	集 団 (学 び 合 の 等)		
計 画 展 開	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画会</li> <li>三段攻撃を何人使え ゲームができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに支え合(教員は指し 合ひ 助ける)仲間を助ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の目標、練習の進め方を</li> <li>班内で役割分担をセッティング</li> <li>17の班 6~7人 (全6班)</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習ゲームができる</li> <li>3本で連続したパス、送 りゲームができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のやり方に従って、規律正 しいグループ活動ができる仲 間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーミングアップ (コート外での 熱心なバレーボール)</li> <li>3本で連続し合う</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1本目高く、2本目ネット近く 3本目ネット外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送りはパスを見ながら、高め 合える仲間</li> </ul>	
	4			
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>スパイクができる</li> <li>大きく歩み込んで、ジャンプ して片手で打つことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いにしっかりと声をかけ合 える仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールの下へはやく入り 正面で打つ</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>三段攻撃の球出しをする ことができる</li> <li>上げる～繋がる～打ちかた のバリエーションがわかる</li> <li>前後のセンターにきつる者がセ ンターになる三段攻撃ができる</li> <li>1本目はセンターのパスを何い 2本目はネット上や前にボールを 3本目はジャンプして打つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声援に基づいて助け合ったり、は げしあう仲間</li> </ul>	
	7			
	8			
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーグ戦</li> <li>自分の競技力を発揮できる</li> <li>三段攻撃を多く使ったゲームが できる</li> <li>各班の特徴を生かして作戦 で、リーグ戦の優勝を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バレーボールが、自分の役割に 対し、全力をつくすことができる 仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1~5のレ 5/13まで セーフティ 開け!</li> </ul>
	10			
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーグ戦</li> <li>自分の競技力を発揮できる</li> <li>三段攻撃を多く使ったゲームが できる</li> <li>各班の特徴を生かして作戦 で、リーグ戦の優勝を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーグ戦の優勝を目指し固く 結果は活判する仲間</li> <li>冷静さを忘れないで、アドバ ンスができる仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーグ戦</li> <li>&lt;A&gt;</li> <li>{ 3 x 2 ②</li> <li>{ 6 x 4 ②</li> <li>{ 4 x 2 ②</li> <li>{ 6 x 3 ②</li> <li>{ 3 x 4 ②</li> <li>{ 5 x 2 ②</li> <li>{ 1 x 4 ②</li> <li>{ 3 x 5 ①</li> </ul>
	12			
	13			
	14			
評 価	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省会</li> <li>リーグ戦 各班の順位</li> <li>個人の技能の進捗度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに支え合った仲間になれたか</li> <li>役割の果てをわ</li> <li>まわりは守れたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人記録をもとにグループの 成果と個人の進歩をみる</li> <li>各自の課題達成度を確認しボール</li> </ul>



4. 本時のねらい

・スライクができ、上げる～整える～打ち返すのリズムをつかむ。三

5. 学習展開(4/5)

条件 過程	学 習 内 容		学 習									
	運 動	集 団(学び合の姿)	運 動									
計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動(スライク体操)</li> <li>本時の課題の確認(総括)</li> <li>スライクができ、上げる～整える～打ち返すのリズムをつかむ三段攻撃と合戦ゲームができる</li> <li>班別バス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班全員が、早く集まり、スライクははかれる</li> <li>練習、ゲームを通して、しっかりと声かけ合える仲間を創る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動～コートのお片付け下、パス練習(木片)</li> <li>全体会～先生の話を聞き、相練習、ゲームの方法と</li> <li>班別バス(班の目標や練習の振り返り)</li> </ul>									
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライク練習ができる</li> <li>セーターボールを投げ、セーターの肘をボールを打ち歩き、足でシールドして打つ</li> <li>三段攻撃の練習ができる</li> <li>投げ入れセーターからボールをセーターに上げ、セーターはボールを上げ、はらって打ち返す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーの指示に従って、できる時と行動する仲間</li> <li>メンバーのミスに対して、はげしめたり、励ま合える仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班別練習(スライク練習、三段攻撃)</li> </ul> 								
		研 究 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半練習の反省と、練習ゲームの気づきに対する点の確認ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班での役割分担や作戦の確認ができる仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班別バス(3班のバス)</li> </ul>							
	練 習 ゲ ー ム	<ul style="list-style-type: none"> <li>三段攻撃と合戦ゲームができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互に声かけあい、はげしめ合える仲間</li> <li>最後は、お礼のあいさつをとりあえる仲間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習ゲーム(各10分) 2班合計</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1149 1254 1516 1456"> <tr> <td></td> <td>Aコート</td> <td>Bコート</td> </tr> <tr> <td>第1</td> <td>3x2 ⑥</td> <td>5x1 ④</td> </tr> <tr> <td>第2</td> <td>6x4 ③</td> <td>1x2 ⑤</td> </tr> </table> <p>○印 審判・記録</p>		Aコート	Bコート	第1	3x2 ⑥	5x1 ④	第2	6x4 ③
	Aコート	Bコート										
第1	3x2 ⑥	5x1 ④										
第2	6x4 ③	1x2 ⑤										
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習のねらいが、できる</li> <li>(スライク数 三段攻撃数)</li> <li>次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習、ゲームを通して、しっかりと声かけ合える仲間</li> <li>役割は果敢とせよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班別反省バス(振り返り)</li> <li>記録をもとに、班の成果を比べる</li> <li>全体会～本時のねらいを確認</li> </ul>									



段々聲を含めたゲームができる。練習ゲームを通して、しゃべりと声かけ合える仲間を創出す

活動 集団	教師の指導	指導 集団
<p>70% 体操を行う 80% など。1:1-10</p> <p>次の課題を確認する 場数を増やす</p> <p>10分を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>70%指防止のEの運動をしておくように指示する</li> <li>示範による、本時の課題を提示する (ハム太郎の示範)</li> <li>声かけを促し、声かけを確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声としゃべりとかけあわせる</li> <li>70%と80%と行動させる (L、M、Hの指示)</li> <li>声かけの強さを盛上げるため、声かけの強さを増やせること</li> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> </ul>
<p>10分(練習)</p> <p>L: 練習モード 班長が 班長が指導</p> <p>M: 声かけの練習</p> <p>H: 声かけの練習</p> <p>10分を知る</p> <p>10分を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>80%のタイミングをみて、声かけを促す 「ボールをよく見て!」「さーん!」「ジャンプが早くなるぞ!」</li> <li>声かけを促すから、練習の中で課題をこなして指導する 「さーん!」「開け!」「打て!」「今日のタイミングをぞ!」「ボールの落ち際をよく見て!」</li> <li>ゲームの中で、70%と80%のタイミングを促す 「ジャンプボール!」「ジャンプ!」「よし打て!」</li> <li>声かけを促す。声かけは慣れていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> <li>ジャンプは「ジャン!」と声かけを促す</li> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>声かけを促す</li> <li>声かけを促す</li> <li>声かけを促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習ゲームにおける声かけの強さを盛上げる</li> <li>声かけを促すに慣れた班へは、声かけを促す</li> </ul>

# 英語科学習指導案

公開1 (9:30-10:20)

1年E組 教室 中舎3階東

授業者 : 本多 弘尚

1 単元名 Sunshine 1 Lesson 9 「ゲーム大好き！」

2 指導の立場

(1) 題材、言語材料について

このLessonは、Kenjiの家に遊びにやってきたTomが、居間に置いてある本やコンピューターを見て質問し、家族の趣味について対話している。その内容は次のようである。

sec 1 部屋にある本の持ち主について、およびKenjiの家族の趣味について。

sec 2 机の上にあるコンピューターやコンピューターゲームについて。

sec 3 Kenjiの持っているゲームについて。

したがって理解させたい内容としては、それぞれのセクションで以下の対話が大切になってくる。

sec 1 Those are my brother's books.

His hobby is tennis.

Her hobby is words games.

sec 2 Whose computer is that ?

It's my brother's

sec 3 Which is your game, this one or that one ?

This one is mine.

本文では、TomがKenjiに積極的に質問し、Kenjiがそれに答えていく形になっている。本やラケットそしてコンピューターや様々なゲームソフト等の本文の話題は、現在の日本の中学生の日常生活によく似ており、興味、関心をひきやすいものである。生徒が自分自身のことについても話していけるよう、題材を広げていくようにしたいと考えている。

言語材料面では、my, your, his, herといった所有を表す代名詞やmy brother'sのような名詞の所有格を学習する。さらにwhose, whichの疑問代名詞を学習していくので、oral introductionや表現活動の場で、これらの文型を用いた対話を取り上げていくことにより、その用法に慣れさせるようにしたいと思う。

以上のような題材と言語材料のとらえから、このLessonでは、次のような力を生徒につけさせたいと考えている。

1 友達やその家族の趣味、持ち物について、たずねる力。

2 自分やその家族の趣味、持ち物についてたずねられたことに答える力。

そのために、本文の内容をつかんでそれについて対話することを、中心となる言語活動として位置づけ、本文の表現から学びながら、そしてそれを発展させて生徒が自分の意志で判断できる部分を設定しながら、取り組んでいきたいと考えている。

(2) 生徒の実態

対話することにおける生徒の様子を大きく3つのタイプにとらえ、AはBをBはCを、Cはさらに豊かな表現をめざして取り組んでいる。

- A : 学習のなかで、自分のことを話したり、相手にたずねたりしようとする表現文がなかなか定着しない生徒。たずねられたことにも、Yes,あるいはNo,で終わってしまいがちな生徒。(Lesson7 学習した段階で9名)
- B : 教科書やメモを見ながら(読みながら)対話しようとする生徒。たずねられたことに対して Yes, I am. 等のいわゆる short answer 程度の答えをしようとする生徒。(16名)
- C : 教科書やメモ等を見ないで、対話しようとする生徒。たずねられたことに対して long answer を自分なりに工夫して表現しようとする生徒。(12名)

(3) 本時の指導意図

本時のねらいは、「Tom と Kenjiのコンピューターゲームについての会話をもとにし、友達や自分のことについて対話することができる。」ようにすることである。そのために、まず oral introduction の段階では、Kenji の立場になって本文の内容を導入し、

Whose computer is that ?                      It's my brother's.

Whose computer games are those ?        They are his , too.

の内容を理解させるようにしたい。

さらに、これらの対話表現は、ピクチャーカードを見ながら言えるよう、十分練習をし慣れさせたいと考えている。

つぎにその対話の話題を Do you have a computer? とたずねることにより生徒自身のことに向け、個々の生徒に自分なりの答え方を見つけさせ、対話できるようにしたいと願っている。

本時で願う学び合いの姿としては、Do you have a computer? の問いに対する答え方を、単に Yes / Noにとどまらないで、よりていねいに、あるいはよりくわしく、より豊かに答えることができるよう、グループの仲間に答え方の文型や語いを援助したり、あるいはグループの仲間に積極的に尋ねたりする姿を求めたいと考えている。そのために、教え合う視点を have や like 等の動詞に着目させ、動詞以下に続く表現内容を班のなかで作り合いや教え合いができるようにし、仲間と共に学習することの充実感を持たせていきたいと考えている。

予課----- sec 1 の家族の趣味についての対話ができるようにしてくる。

3. 単元構想図

Lesson 9 「ゲーム大好き！」 (全7時間)

単元目標 所有格 my, my father  
その答え方がわかり、これら

つきたい力 1. 友達やその家族の、趣味。  
2. 自分やその家族の、趣味。

	第1時	第2時	第3時
つきたい力	相手の家族の名前について対話する力。	相手の家族の持ち物について対話する力。	相手の持ち物について対話する力。
本時のねらい	代名詞や名詞の所有格の用法がわかり、友達やその家族の名前についてたずねたり答えたりすることができる。	Whose ~? の用法とその答え方がわかり、友達の家族の持ち物についてたずねたり答えたりすることができる。	Which ~? の用法とその答え方がわかり、友達の持ち物についてたずねたり答えたりすることができる。
題材・知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>my ~</li> <li>my father's ~</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Whose ~?</li> <li>It is ~.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Which ~, A or B?</li> <li>~ is (mine).</li> </ul>
言語活動	<p>A: What is your <u>father's</u> name?</p> <p>B: <u>His</u> name is _____.</p>	<p>A: Oh! This is a nice <u>pen</u>.</p> <p>Whose <u>pen</u> is it?</p> <p>B: It's <u>my</u> <u>brother's</u>.</p>	<p>A: Which is <u>your</u> <u>bag</u>, this one or that one?</p> <p>B: This one is <u>mine</u>.</p>
学び合いの姿	代名詞や名詞の所有格を用いて対話できるよう、発音、強勢、抑揚等について援助する。	Whose ~? を用いて対話できるよう、発音、強勢、抑揚等について援助する。	Which ~, A or B? を用いて対話できるよう、発音、強勢、抑揚等について援助する。

)

is ~ , 疑問代名詞 Whose ~ ? , 選択疑問詞 Which ~ ? の用法と  
の文型を用いて 家族や自分の趣味や持ち物について対話することができる。

持ち物について、示された言語材料を用いてたずねる力

持ち物について、問われたことに答える力

第 4 時	第 5 時 (本時)	第 6 時	第 7 時
相手の家族の趣味について対話する力。	相手の持ち物について対話する力	相手の持ち物について対話する力。	相手の家族の趣味や持ち物について対話する力。
Tom と Kenji の趣味についての会話をもとに、友達の家族の趣味について対話することができる。	Tom と Kenji のコンピューターゲームについての会話をもとに、友達の持ち物について対話することができる。	Tom と Kenji のコンピューターゲームについての会話をもとに、持っているゲーム名について対話することができる。	家族や自分の趣味や持ち物について紹介文をつくり対話することができる。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文 § 1</li> <li>・ my ~ , my father's</li> <li>・ How about ~ ?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文 § 2</li> <li>・ Whose ~ ?</li> <li>It is ~ .</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文 § 3</li> <li>・ Which ~ ?</li> <li>~ is ( his ) .</li> </ul>	家族の紹介文づくり
<p>A: Are these Kenji's books?</p> <p>B: Yes, _____ are. But those are his _____ books. _____ hobby is tennis.</p> <p>A: How about _____ sister?</p> <p>B: _____ hobby is word games.</p> <p>A: How about you?</p> <p>B: _____.</p>	<p>A: Is this computer Kenji's?</p> <p>B: _____, _____. It's his _____.</p> <p>A: _____ computer games are these?</p> <p>B: They are his, too.</p> <p>A: Do you have any computer games?</p> <p>B: _____, _____. _____.</p>	<p>A: Which is Kenji's game, this one or that one?</p> <p>B: This one is his.</p> <p>A: Do you know its name?</p> <p>B: _____, _____. _____.</p> <p>A: What's its name?</p> <p>B: Its name is _____.</p>	家族や自分の趣味についての P-P dialogue .
家族の趣味に関する対話の内容について、グループやペアの仲間に語いや文型を援助する。	友達の持ち物に関する対話の内容について、グループやペアの仲間に語いや文型を援助する。	持っているゲームに関する対話の内容について、グループやペアの仲間に語いや文型を援助する。	仲間の紹介文から表現方法を学んだり、仲間を援助したりする。



4. 本時のねらい Tom と Kenji の コンピューターゲームについての会話を  
 コンピューターやコンピューターゲームを話題に 対話することが
5. 学習展開

流れ	教師のはたらきかけ	生
Review	§1のピクチャカードを提示し、Kenji や自分の家族の趣味について対話させる。	Kenji や §1の復習
Oral introduction	Kenji の立場で、右のような oral introduction を行う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           I am Kenji . I hav            This is his compute            games , too . This            It's a Christmas p         </div>
Q-A	聞かせた内容について質問する。 ( Kenji の立場で答えよう。 )	
	1. Is this your computer ? 2. Whose computer games are these ? 3. What is this ?	
Aim	Tom と Kenji の コンピューターゲームについての対話を言えるよう友達や自分のことも対話してみよう。	
Reading	本文の音読練習をさせる。	本文の音 を閉じて-
Dialogue	Do you have a computer ? とたすね、答 え方について学習させる。 次のような dialogue を行えるようにする。	→ Yes . / puter . / → No . / I computer グループ ら対話の 学習リー タ
Presentation	全体で発表させる。	自分の対
Homework	本時の自分の表現を暗唱してくるよう指示する。	

これは何の目的？  
 last - 暗唱

とに、友達や自分のことについて  
できる。

徒の活動	学び合いの姿	留意点
<p>自分の家族の趣味について対話し、 を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I have a brother. These are his computer games. This is a new computer game. I bought it as a present for my brother.</p> </div> <p>It's my brother's. His brother's are his, too. I bought a Christmas present for my brother. I'll give it to him.</p>	<p>仲間の答え方から、より 豊かな答え方を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は閉じさせて 聞くようにする。</li> <li>New words は Q-A の answer の中で意 味を確認し、発音練 習を行うようにする。</li> <li>Q-A の確認は指名 順に配慮し、short → long answer に なるようにする</li> </ul>
<p>音読練習を、教科書を見て → 教科書 → ペア の順で行い、→ 対話 する。</p> <p>Yes, I do. / I have a com- puter. I have some games. No, I don't. / I don't have a computer. But my brother has. で P1, P2 の役割を交代しなが ら発表し、仲間で評価をする。司会 役が務め、輪番法で行う。 発表をクラスの仲間に発表する。</p>	<p>音読ができるよう、発音、 抑揚等について たずね たり 援助したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループの仲間が答 えようとするこがら を、語いや表現の面 で援助する。</p> <p>仲間の答え方から、自分 の表そうとする語いや 表現を学ぶ。</p> </div> <p>仲間の発表から、より 豊かな対話表現を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tom, Kenji の役割 を交代して練習する。</li> <li>グループを机間巡視 しながら 教師が対話 の相手を務め、練習 させる。</li> <li>個性的な表現を積極 的に取り上げる。</li> </ul>

## 特殊学級 作業学習指導案

公開1 (9:30~10:20)

特殊学級 A 組 特 A 教室 (中舎1階西)

授業者 田中 寿

### 1. 単元名 銘々さらづくり

### 2. 指導の立場

#### (1) 単元について

##### 1. 作業の基本として

- ・目と手の協応動作を高めながら、手先に意識を集中させながら、作業を進めていかせる。
- ・簡単な道具を扱うことになれさせる。
- ・どんな作業(工作)でも同じであるが、特に粘土工作場合では、粘土はやわらかいから「ていねい」に扱おうように注意させる。

##### 2. 作業に向かう姿勢・態度の基本として

- ・集中できる時間(持続力)を伸ばす。
- ・見通しを持たせ、自主的な活動を引き出す。
- ・生徒に応じ、集団の中での作業分担や自分の役割をさせ、仲間と協力して作業を進めさせる。
- ・友だちに迷惑をかけないように心くばりをさせる。

#### (2) 学級の実態

この学級は、1年生から3年生までの6名で構成されており、うち1名は自閉的傾向を持っている。

全員が興味・関心の幅や障害の程度・対人関係等で大きな課題を持っている。

読み書きや計算が出来ず、課題の理解もできず、自分から取りむ事の難しい生徒もいる。

作業面では、「あそび」の段階にある者から「見通し、協調、工夫」等が期待されている者までと多様である。しかし、作業を進めるためには、全員に具体的な動作指示や繰り返しの言葉かけが必要であり、自主性や集中力・持続力等の基本的な課題を全員が持っている。

手先の器用さも、文字・絵画等をきれいにかける生徒から、一応は作業が早くこなせられるけれど、作品はちゃらんぼらんというのか、きちんと出来ない生徒、未完成で終る生徒もいるように多様である。

(3) 本時の指導意図

個々の生徒の障害の特性を十分に考慮し、その上で以下のような事柄を大切にしていきたい。

- ・段階的で、わかりやすいこと。
- ・手足を使って具体的で、変化のある作業であること。
- ・「出来た！」という、よろこびのある成就感が得られること。

ねらい

・さらづくり

- ・ていねいにやる。
- ・道具はていねいに、安全に気をつける。
- ・作業に興味を持ち、自ら取り組む。

・模様づけ

- ・作業に楽しく参加し、集中して最後までしっかりと、やりとげる。
- ・「出来ない」ところは、仲間と協力し合って進める。
- ・模様はていねいにつける。
- ・「出来た！」という成就感を味わう。

・作業に対する姿勢・態度として

- ・友だちに迷惑をかけない。
- ・むだ話はしない。
- ・いっしょうけんめいに努力してがんばる。

3. 指導計画

オリエンテーション ..... 6時間

- ・銘々さんの作品を見に行く。 ..... 2時間
- ・試作品を作ってみる。 ..... 2時間
- ・試作品に模様をつけてみる。 ..... 2時間

製作 ..... 7時間

- ・「ていねい」に / 時間に / 枚をつくる。(手さばきよく、早く出来るようになったら、その時点で考慮する。)
- ・銘々さんは、5枚が / セットであるが、2枚はスペアとする。

4. 本時のねらい 友だちにむだ話をしたり、迷惑をかけたりしないで、ていねいに学習展開

活動内容	個人別学習過程			
	K 男	T 子	Y 子	T
1. あいさつをする。	号令をかける。	「はじめます」とあ		
2. 話（説明）をきく。	指導者の方を見て説明をきく。			
3. タタラ板を取りに いって、かやの上 に置く。	みんなで協力し			
4. かや模様をつける。	の目模様をつ			
5. タタラ板をかやか ら取りはずし、自 分の席に置く。	指導者の補助を受けながら、タタ ラ板を自分の作る「さら」の形に 切り、成型する。			一人 タタ る「さ り、片
6. 自分の作る「さら」 の形に切り成型す る。				
7. タタラ板の成型が 出来たところで、 それぞれに模様づ けをする。	指導者の補助を受けながら、自 分のさらに模様をつける。			一人 模様
8. あとかたづけをす る。 (次時も続けてやる ので、一応のくぎ りとして、せいと んをして休息をと る。)	みんな協力し合って、 工作台上に持ってい を集め、道具を整とんし			
9. あいさつをする。	号令をかける。	「おわります」とあ		



いねいに、いっしょうけんめいにやる。

男   K 子   S 子	指導者の活動	指導上の留意点
い さ つ を す る。	○あいさつをする。	○授業の始まりを意識させる。
	○前に試作をしているが、作り方を、見本を提示し説明をする。	○全員に見えやすいように配慮する。
合 っ て か け る。	○ていねいに、力を入れすぎないように、声をかけてまわる。	○力を入れすぎないように、配慮する。
で工夫しながら う板を自分の作 きら」の形に切 成型する。	○生徒に声をかけ、補助をしながら、成型の手伝いをしてまわる。	○ていねいに成型するよう、声をかけてまわる。
ゆっくり ていねいに 自分の作る「さ ら」の形に切り 成型する。		
で工夫しながら づけをする。	○粘土はやわらかいので、力を入れすぎないように、声をかける。	○力を入れすぎないように、ていねいにやるよう配慮する。
ゆっくり ていねいに 模様づけする。		
出 来 た 作 品 を き、残 っ た 粘 土 て 休 息 す る。	○整とんするよう告げて、指示する。	○自分たちで使ったものは、自分たちでかたづけたり整とんすることを意識させる。
い さ つ を す る。	○あいさつをする。	○授業の終りを意識させる。

# 国語科学習指導案

公開二(十時三十分)十一時二十分)  
三年A組 三A教室(南舎2F西)

授業者 後藤 泰隆

一、題材名 六章 古典を味わう

二、指導の立場 「さわらび」―万葉・古今新古今

## (一)教材観

和歌は日本文学の源流として他の文種の文学にも大きな影響をもつ。本教材は、三年間の古典学習の総括として、その源流の和歌を取り上げていく。奈良時代の「万葉集」、平安時代の「古今集」、鎌倉時代の「新古今集」という和歌の歴史の中でも優れた三大歌集を選び、それらの歌として優れたものを選び、古今集(歌)も(百人一首、秀歌などとして)愛唱されている。歌集の構造(巻、李節など)への配慮、現代や技巧が広く容易に享受できる、などの観点から歌が十五首(長歌一首)選ばれている。難しい言葉やこれら十五首は、日本人の自然観や美意識、さらには人生観などをよくみ、現代も日本人の血となり、肉となつて見方、感じ方、考え方を有している和歌である。したがって、それらの歌を知識として理解するだけでなく、それらの時代、社会に還元して鑑賞すると同時に、自分の生き方や心の問題とひきくらべながら、主体的に味わわせていきたいと考える。

万葉集を学習していくうえでは、天皇や貴族、兵士、農民など広い階層の人々の一つの作品に込められている感動を伝え、その特色である、生き生きとした力強さ、のびやかさ、大らかさ、素朴さ、④ 広い階層の人々がそれぞれの思いを歌という手段で表現したこと、⑤ 自分のへだてなく、政治に対して批判的な歌までも含めて、優れた歌が四千五百首収められていることなどを学ばせていく、たいと考える。

## ⑤ 指導目標

1. 万葉集の成立、内容、特色について理解し、その特色を説明することができる。

この詩の音韻や和歌の定型リズムを既読・暗唱により味わうことができる。

脚注を参考に、和歌の内容を理解することができる。

用いられている言語表現の吟味、解釈をすることができる。

万葉集・古今集・新古今集について関心をもつことができる。

昔の人のものの見方・感じ方に触れ、心を想像し、自分とくらべながら考えることができる。

### ◎ 表現上の特色

いちはん古い額田王の時代から、後世の藤原定家の時代まで、およそ五百八十年の長い年月にわたるため、その間、表現にも多くの変遷がある。(五七調から七五調への移動、反復、倒置などの技巧など)

### (二) 生徒の実態

古典の学習について「つまらない」「わかりにくい」と思っている生徒が多く、古典を古くさい時代のつまらない作品と見、遅れた文明の遺物と扱っているのが実情である。したがって古典を現代とは切り離された存在として認識している者が多く、有職故実や、現代とは異なった風習などには興味を示す。昔の人の心やものの見方、考え方も自分の心と大きく異なるとして考えず、場合が多い。原文・資料、脚注などから、作品のありさまを理解することはできるが、そこに登場する人の立場や置かれていた状況から、心情を理解するのが苦手である。

### (三) 本時の指導意図

(一) 防人として、東国から九州の地へ派遣された人々の心情やそのくらしと、残された家族の悩み、苦しみと、韓衣裾に取りつき泣く子らと……の歌と資料として配布された歌から理解して、その時代の民衆の苦しみを理解することができる。

(二) 万葉集の学習のまとめとして、これまで学んできたことから、その特色、歌風などを各自整理してグループでその考えを交流、発表させ、全体の場下万葉集の概略と特色、そのすばらしさをまとめられることができる。

### (四) 本時の位置

万葉集の中の第五時(55)

六. 単元構想図 (教科指導計画表)  
 (単元名) 六. 古典を味わう

<教材名> 「さくらび」 一万葉・古今・新

	第 1 時	第 2 時	第 3 時
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標を確かめ、学習計画を立てることが出来る。</li> <li>・「万葉集」の概略を理解することが出来る。</li> <li>・繰り返し読んで、それぞれの調子を感ずることが出来る。</li> <li>・一首一首を読み味わうことが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九首の歌の大意をつかむことが出来る。</li> <li>・「石ばしる」の歌について、皇子は何に感動してこの歌を作ったか理解することが出来る。</li> <li>・「田見の浦」の歌について、作者の感動、作者のいる状況と理解することが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「熱田津に」の「漕ぎ出たは」をイメージする。</li> <li>・額田王とスサノオの、二人の苦しみを感じることが出来る。</li> <li>・相聞・枕詞を理解すること。</li> </ul>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扉の言葉・写真からこれから何を学ばか考える。</li> <li>・「万葉集」についておおまかな概略を理解する。</li> <li>・範読を聞き、そのあと後について読む。</li> <li>・グループ内で音読の練習をする。</li> <li>・一首ずつ指名読みとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントに九首の歌の大意をすめる。</li> <li>・「石ばしる」について、難しい語句の意味を知り、皇子が感動した情景をイメージしてそのように心を理解する。</li> <li>・「田見の浦」について、語句にこだわりながら、その状況と理解し、美しい富士の姿と共感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「漕ぎ出たは」はすんだ調子</li> <li>・万葉集の分類と使用法を説明する。</li> </ul>
つづけたい力・評価	<p>(表現) 大きな声で五七調のリズムで音読することが出来る。                      (グループ内の評価)</p> <p>(理解) 万葉集の概略を理解することが出来る。                      ・区切れを理解し、音読することが出来る (グループ内の評価)</p> <p>(言語事項)                      ・歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを理解することが出来る。</p>	<p>(表現)                      ・春の生命感あふれる情景を表現することが出来る。(ノート評価)</p> <p>(理解)                      ・「うちいで見れば、から、視界が開けた富士が姿と見たことが理解出来る。                      (全体バズ)</p> <p>(言語事項)                      ・「雪は降りける」の意味を理解し、富士の鮮明で、美しい様子と想像することが出来る。(全体バズ)</p>	<p>(表現)                      ・「漕ぎ出たは、いる理由をいえることが出来る</p> <p>(理解)                      ・万葉集の概略に深く理解</p> <p>(言語事項)                      ・「あかねさす、」であることが分かる</p>
学び合いの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声の大きさ、リズム、区切れ、仮名遣いなどに気配り、お互いの音読の良い点、悪い点を指摘しあう。一首一首の調子を読み味わい、より良い音読の工夫を求めあうとする姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい語句の意味にこだわり、それに忠実に、歌われている自然の美しさ、すばらしさを想像し、作者の感動を追求しようとする姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「船乗り」の人どおしに自由に漕ぎ出、気持ちを想像し合う姿。</li> </ul>

3時	第4時	第5時 (本時)
<p>の歌の背景を知り、 「〇〇」といふ心はすむ瞬間 のことができない。 海人皇子の相聞歌をとり 直に気持ちを理解する。 民、雑歌などについて ができる。</p>	<p>「信濃道は」の歌と資料の歌から、 当時の庶民の生活や心情などを考 えることができない。 「徳良らは」の歌と子どもを思ふ歌」への 反歌、貧窮問答歌などから、山上憶良 の人物像について考えることができる。 山上小徳良はどくして、回守はのに 貧窮問答歌を作ったのかと考える ことができる。</p>	<p>防人の歌を通じて、本人の気持ち、 母子、親の思い、防人の任務につ いた考え方などを理解すること、民衆の苦 みを理解することができる。 万葉集の特色、すばらしさを学ん だことからすむ、グループの中でそれ を交流・発展させ、全体で発表する ことができる。</p>
<p>の表現にかきこれている 理由を想像する。 自成立と撰者、歌体など をためる</p>	<p>東歌の素材の中に、当時の庶民の生活や 心情を見つけ出し、想像する。 山上憶良の歌を通じて、その人物像を 考え、すめよう。 回守、徳良が貧しい人々の様子に歌に したのかと、その立場、人物はどこから想像 するべきか。</p>	<p>「韓衣」の歌と資料を参考に、防人の心持 や、本人、家族の思いを理解する。 万葉集のよさとして、今まで学んだこと もとに、その特色やすばらしさをすめ、 グループ、全体で発表する。</p>
<p>、という表現が使われて 適切に表現することが 略について、第一時よりも 解する。(グループ内の評価) が案にかかる祝詞 理解できる。</p>	<p>(理解) 東歌に見られる方言や、その素材さ から歌を作ることが当時誰にできない ものであったことが理解できる。 憶良の作品から、その人物像、人柄を 根拠を持ってあげることができる。 (グループ、全体バズ) 貧しい人々に対する憶良の愛情を作 品から理解できる。(1人評価、全体バズ) (言語事項) 難解な語句を克服して、貧窮問答歌の 重たい調べを読み味わうことができる。 (口語訳を参考とする)</p>	<p>表現) 「〇〇」の歌から△△のことがわか る〇〇という根拠のめる発表ができる。 (理解) 防人の任務や制度について理解した上で、 防人とはなに者やその家族の悩み苦し みを歌をもとに理解できる。 学んだことをもとに、万葉集の特長を すめ、発表できる。 便覧等によりさらに深く、万葉集の知識 を深めることができる。</p>
<p>歴史的な理由を聞いて、 かえり判断して自分で でば、と歌った類題の に、グループ内で発表</p>	<p>憶良の作品の重なり語句を根拠として その人柄、考え方、心情などを整理 し、自分の考えを、グループ内ですすんで 発表する姿。 貧窮問答歌で貧しい人々の生活を歌 に、憶良の気持ちを想像し、グループ内 で自分の考えをすすんで発表する姿。</p>	<p>学習したことをもとに万葉集の特長を 互いに発表して、さらにそれを深めなく姿。 防人の苦学や、家族の苦しみと資料等 から見つけ出し、その心情をより深く理 解しやすくと追求する姿。</p>



七、平時の展開 予課の防人の制度について調べてくる

読み	生徒の活動	学び合いの姿	留意点
<p>導入</p> <p>予課発表 防人について調べてきたことを発表して欲しい。</p> <p>防人の歌を通して、防人とその家族の気持ちを読み取っていきます。</p> <p>範読 音読練習 指石読み 歌の大意を確認する</p> <p>作者はこの歌をどんな気持ちで込めて作ったのか、ノートに書きなさい。</p> <p>参考資料配布</p> <p>資料を読んで、防人に行くというのはどういうことだったのか、これらの歌から、次の観点について考えてみましょう。</p> <p>(1) 本人の気持ち (2) 残された妻、子、親の気持ち (3) 防人の任務についての考え 各自の考えをグループで交流してみよう。</p>	<p>徴兵制で集められた、東国の兵士。辺地を守る兵士。九州を守った。多くは東国の農民。働きがりに大化や改新の州にはじまる。平家初朝まで</p> <p>着物の裾に取りつけて、汗を子どもたちを置いてきてしまったよ。母親がいはいの泣き。</p> <p>残った子どもはバカバカしく思える。母親も泣いてどうやって生きていくだろう。</p> <p>早く故郷に帰りたい</p> <p>(1) 生きてもどれないかも……家族と長い間離れなくてはならない</p> <p>行きたくない。家族が心配</p> <p>(2) 心細い。父、夫と離れたくない。夫が無事に帰るか心配</p> <p>(3) 老いゆられるだけ重くてつらい義務。不満さからえらい制度。ふてわいたような災難</p>	<p>~~~~~</p> <p>参考資料</p> <p>大君の命畏み直りけ真手が手離り島伝ひゆく</p> <p>防人の防人といふ船乗りて別れを見ればはともす大びり父母の頭かき撫下幸くあれでいひし言葉せ</p> <p>忘れかねる</p> <p>我身はいたく悲ひらう飲む水に影へ見えて世に忘れぬ</p> <p>防人に行くは誰か夫と別れ人を見れば涙しき物思ひもす</p> <p>忘れぬと母行き山行き、われ来れどわが父母は忘れぬかむ</p> <p>無限の道は来にりをす下史にハナ島過りて別れけむ</p> <p>~~~~~</p> <p>予課発表の内容と歴史的事実をもとに資料から、防人に行くことの意味を各自で考える。</p> <p>各自の考えを交流し、仲間とともに深め合わせる姿。</p>	<p>歴史的事実と小まて発表する(公地公民、租庸調)</p> <p>防人の歌とは防人とその家族の作った歌であることと補足する。</p> <p>ゆくり大さびし下、区切りに注意して二重読み</p> <p>読み方の違いが見られる</p> <p>長野の方言であることと補足する。</p> <p>語句のわかりやすさ、予課で調べたことと合わせて考える。</p> <p>発表の要点を板書する。</p> <p>防人の歌は徴兵制に対する素朴な心情の吐露である。</p>

展  
・防人の歌の特徴はど人びこと  
しょうか

・最後にまとめとして、今まで学習  
した歌からわかる万葉集の特長  
をグループでまとめよう。

・石ばしる……

・田原の浦ゆ……

・秋田津に……

・あかぬさす…… 相聞歌

・紫雲草の…… 東歌

・徳良らは……

・子どもと遊ぶ歌……

・貧窮問答歌……

・防人の歌  
・重要語句と結んでまとめとする

・今日の感想を書き下す。

まとめ

・名もなき人々の歌  
・素朴な歌、飾らない歌  
・やさしい人間らしい歌  
・弱者の嘆き、悲しい歌が多い  
・制度に対する不満を歌に

・春の生命感あふれる情景。  
・昇進のようこび。  
・自然の雄大な美しさを生々  
・生々と表現。  
・はげんだ調子

・男女の素直な愛情の交換。  
・庶民の素朴で優しさあふれ  
る歌。  
・子、家族に対する思いやり。  
・愛情あふれる歌。  
・貧しい人々への思いやり  
・政治への怒り  
・素朴な家族への愛  
・制度に対する不満

・すでに学んだことを  
振り返って、仲間ととも  
にそれをさらに深めて  
いく姿。

・重要語句を見つけ出  
していく姿

・生徒が「出なければ  
名もなき民衆の  
歌」として万葉集に  
は収められてる  
ことを補足する。

・学習した歌に  
ついての重要語句  
をめぐらした。  
・学習リーダー  
がまとめる

・作者たちの  
地位、身分を  
確認する。  
・いろいろな階  
層の人々の歌が  
収められてる  
ことを補足す  
る。

## 社会科学習指導案

公開 2 (10:30~11:20)

1年F組 1F教室 (中舎3階東)

授業者: 加藤 泰幸

### 1. 単元名 封建社会の成立～鎌倉幕府の成立

### 2. 指導の立場

#### (1) 単元について

この単元では、日本の封建時代の前期を鎌倉時代と室町時代に分けて学習を進める。二つの時代にわたって、武家政権の特色と武家の社会と文化の形成・成熟の過程を見ていくことが中心となる。

小単元「鎌倉幕府の成立」では、次の二点に焦点をあてることになる。

- ・ 在地領主としての武士が源頼朝と主従関係を結び、東国を拠点として勢力を拡大し、武士の政権を樹立していった過程
- ・ 武士の世界を規定する封建制度や法などを通して、これまでの天皇や貴族による政治（古代国家）では見られなかった独自の世界を切り開いていったこと

ここで留意すべきことは、在地領主＝武士の所領の安堵、すなわち土地所有権を頼朝は御恩として承認したことである。これによって、古代国家の荘園制下できわめて不安定であった武士の領主権が認められることになった。頼朝が武士（御家人）の所領を安堵したことが、御恩と奉公の関係を中心とした封建制度の核心なのである。したがって、この点を具体的にとらえさせることが大切となる。

源平の争乱の間も頼朝は東国の経営にあたったことや、平氏のように貴族的な政治に陥らなかつたことも、東国の武士との所領安堵を仲立ちとした主従関係が頼朝政権の基礎であったからである。

この関係は、御成敗式目、武士の領主化、元寇と鎌倉幕府の衰えにも密接に結び付いているのである。

## (2) 生徒の実態

(男子 20名、女子 17名)

社会科(歴史)が好き・・・8名、嫌い・・・13名、どちらでもない・・・16名であり、やや社会科への興味関心が低いと言える。新入生テストでは、数学と並んで社会も標準偏差より低い結果が出ている。

社会科の学習を記憶中心の学習だととらえている生徒が多く、テストでよい成績をとる生徒でも授業態度は消極的なことが多い。しかし、資料が適している場合や、対立する考えが出てきた場合などは、多くの生徒が興味を示し活発な学習が展開されることもある。また、「武士のおこりと成長」のあたりから、十名ほどの生徒ではあるが、事実についての考えがいろいろ出てくるようになり追究に少し幅が出てくるようになった。

バズでも、多くの生徒が自分なりの考えを言えるようになり、お互いの考えを聞き合うことはできるようになった。しかし、バズで追究が深まったり、対立が生まれたりすることはまだ少ない。

ノートづくりの姿勢は次第に改善され、どの生徒も自分なりの理解や考えを書こうと努力するようになった。ノートの「学習のまとめ」を読むと前の時代と比較したり、次の時代を予想したりして、歴史を流れとして見ることのできる生徒も現れてきた。

今後の課題として、中位の生徒の学習活動を活発化することに取り組んでいきたい。

## (3) 本時の指導意図

第1時で頼朝が貴族的な政権を望まなかったこと、第2時で武家政権は平安時代には見られなかった土地所有を仲立ちとした将軍と御家人の主従関係に支えられていることを学習している。

この考えを本時でさらに発展させたいと意図している。すなわち、執権政治でも、領地をめぐる主従関係の上に立って、承久の乱をのりこえ、さらに、武士の全国進出に伴い増加した所領の訴訟(貴族と武士の係争・武士一族内の所領争い・地頭と農民の争い)を解決するために御成敗式目を制定したことをとらえさせたいのである。

3. 単元構想図

封建社会の成立 (全 14時間)

【単元の目標】・鎌倉幕府によって武家政治が始まり、次第に武家社会が発展して  
 ・鎌倉時代から室町時代のために武士や庶民の生活が向上し、武家

1 鎌倉幕府の成立  
(3時間)

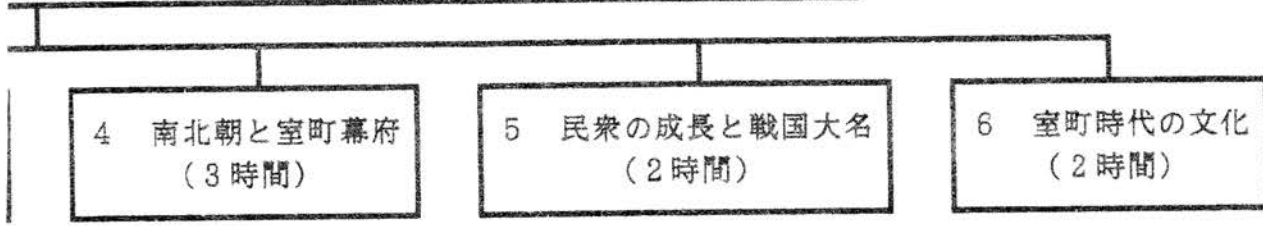
2 武士の生活と鎌倉文化  
(3時間)

3 モンゴルの襲来  
(1時間)

〈小単元の目標〉 源平の戦いの後、

第1時		
学習内容	鎌倉幕府の成立 源平の戦いの後、頼朝は守護・地頭を設置し、鎌倉に幕府を開いた。幕府のしくみは、侍所・政所・問注所など実際的で簡単なものであった。	封建制度 頼朝と御家人結ばれ、強い主は、朝廷と幕府
学習のねらい	鎌倉幕府成立の過程を調べ、幕府のしくみを律令国家のしくみと比べて、その特色を理解する。	封建制度のし解する。
育てたい見方・考え方	貴族的な平氏と違い、頼朝は武家政権を樹立するため鎌倉に簡潔なしくみの幕府を開いた。	頼朝と御家人び付いていた。
中心となる課題と資料	課題：頼朝はどのように幕府のしくみを整えていったか。 ・清盛と頼朝の官位の変化(予課) ・源平の争乱(地図) / 年表(1180~1199年) / 「律令による役所のしくみ」と「鎌倉幕府のしくみ」 ・鎌倉の地形(イラストVTR)	課題：頼朝と御か。 ・頼朝の御恩 ・鉢の木の話
願う学び合いの姿	幕府のしくみを律令国家のしくみと比較し、その特色を武士の政権の視点でとらえることができる。	御恩と奉公のすることをとらえ

「いったことを理解する。  
 文化の形成と庶民文化の芽生えがあったことを理解する。」



鎌倉幕府が開かれ武家政治が成立したことを理解する。

第2時	第3時 (本時)
<p>は領地支配を軸に御恩と奉公の関係で従関係を持った。しかし、全国の政治の二つの政権によって行われていた。</p>	<p>執権政治            源氏の断絶後、北条氏は執権政治を行い実権を持った。承久の乱を経て全国支配の力を一段と強めた。さらに、御成敗式目を制定し武家政治の基礎を固めた。</p>
<p>くみを土地支配や主従関係を中心に理</p>	<p>北条氏が執権政治を行い武家政治が確立したことを承久の乱や御成敗式目の制定を通して理解する。</p>
<p>は、先祖伝来の領地権をもとに深く結</p>	<p>執権政治によって武家政治が確立し、武家社会独自の法が生み出された。</p>
<p>家人は、どのように結び付いていたの             (「承久兵乱記」～教科書)            (資料集)</p>	<p>課題：源氏の将軍が3代で絶えた後、幕府の実権はだれがにぎり、どんな政治を行ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府の将軍(予課)</li> <li>・守護の配置(地図) / 歴代執権一覧 承久の乱 / 御成敗式目(資料集)</li> <li>・泰時の手紙(教科書)</li> </ul>
<p>関係が土地を仲立ちとして成立していることができる。</p>	<p>式目が武家社会に適した法律であることを考えることができる。</p>



4. 本時のねらい 北条氏が執権政治を行い、武家政治が確立したことを、承久の乱や  
 5. 学習展開

流れ	教師の働きかけ	予想される生徒の反応
予 課 発 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>予課を発表してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>源氏の将軍は3代で終わっている、何か変だ。</li> <li>頼朝の後の将軍は暗殺されているので、あまり力を持っていない。</li> <li>4代目からは貴族や皇族が将軍になっていて、しかも将軍は将軍には実権がない。</li> <li>誰かが将軍の補佐（手助け）をしないと、鎌倉幕府の政治は</li> </ul>
課 題 提 示	<p>源氏の将軍が3代で絶えた後、鎌倉幕府の政治の実権はだれがにぎり、どんな</p>	
課 題 追 追	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、課題について自分の考えを作ってください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに自分の考えをノートに書く。</li> <li>発表</li> </ul> <p>①守護の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北条氏の領地が承久の乱の後に増えている。</li> <li>京都の回りに固まっている。</li> <li>1285年には中国・九州にも増えている。</li> <li>北条氏がどんどん力をつけたことが分かる。</li> </ul> <p>②執権一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3代将軍の時から北条氏が執権になっている。</li> <li>執権の北条氏は将軍より年配で将軍を思い通りに動かせたと思う。</li> <li>4・5代将軍は名前だけで、執権が実権をにぎっていたと思う。</li> </ul> <p>④ 御成敗式目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>承久の乱後十年くらい後に、北条泰時が御成敗式目を作った。</li> <li>年貢や武士の領地について、細かく決めてある。</li> <li>荘園領主と地頭が年貢の争いをした時のことも決めてある。</li> </ul>
究	<ul style="list-style-type: none"> <li>執権北条泰時が御成敗式目で、貴族と地頭の争いや領地の持ち主のことを細かく決めてるのはなぜですか。</li> </ul>	<p>承久の乱を経て、北条氏は執権として全国を支配する力をより強くした。</p> <p>④ グループ・バズ ⇒ 発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親が子どもに領地を譲るときに、いろいろもめごとが起ころうとした。</li> <li>親がだれかに領地を譲るのは御家人にとって重大な問題で、事前に法律に決めておくのだからと思う。</li> <li>幕府にとっても、御家人の領地は御恩と奉公のもとだからつきりさせる必要がある。</li> <li>地頭は武士なので、律令で裁かれると貴族のほうが有利だから、御成敗式目を作ったと思う。</li> </ul>
ま と め 次 時 予 告	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習をノートにまとめてください。</li> <li>次の時間は武士のくらしについて学習します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートに学習内容をまとめる。</li> <li>「源氏の将軍が3代で絶えた後、北条氏が執権として幕府の上皇の反乱（承久の乱）をおさえ、幕府の力は一層強まってきた。くらしにあった法律（御成敗式目）を作り、幕府の政治は</li> </ul>

御成敗式目の制定を通して理解する。

	願う学び合いの姿	指導上の留意点・学習資料
<p>いなかったと思う。 の年齢が低いので</p> <p>ができない。</p> <p>〓 改治を行ったのか。</p> <p>③承久の乱 ・京都の後鳥羽上皇が幕府を 到そうとした事件だ。 ・乱の後に京都の回りに北条 氏の領地が増えたのは、朝廷 を見張るためだ。 ・上皇側の領地を取り上げて また地頭を置いたと思う。</p> <p>式目という法律を作った。 、 決めてある。</p> <p>きるので、法律ではつきりさせ だから、間違いが起こらないよ らその領地がだれのものかをは こなるので、武士のための法律</p> <p>府の実権をにぎった。1221年に に。北条泰時は1232年に武士の 安定した。」</p>	<p>・北条氏が執権として 幕府の実権をにぎり、 さらに力をつけたこと を資料と結び付けて明 らかにすることができる。</p> <p>・武士（御家人）の所 領の大切さから、式目 が武家社会に適した法 律であることを、資料 をもとに考えることが できる。</p>	<p>・資料「鎌倉幕府の将軍」についての感 想を予課にしてある。</p> <p>・資料①守護の配置図 ②歴代執権一覧 ③承久の乱 ④御成敗式目 (①・③・④は資料集所収) ※①は共通、②～④から一つ選ぶ。</p> <p>・事実認識を大切にする。</p> <p>・バズを行うタイミングを適切に見届け る。 ・バズの課題はできるだけ焦点的に与え たい。(年貢についての争いか、所領の 所有者か)</p> <p>・泰時の手紙を提示する。</p> <p>・予課；「鎌倉武士と武芸」(教科書 p. 76)を読んで感想を二百字以内にま とめる。</p>

1. 単元名 円の性質

2. 指導の立場

(1) 単元について

この単元においては、円と円に関する図形の性質を指導する。円の回転性・対称性については、すでに小学校において円の直径を軸として折り曲げて重ね合わせたり、円をもとにして正多角形を作図するなどの作業を通して学習している。また、円は小学校において中心・半径・周と直径・円周率・扇形・中心角などが、中学校第一学年では、円や扇形に関する用語の理解や計量の習熟がなされている。これらの既習の知識や概念を基に、ここでは円周角の定理を中心として、大きく二つに分けて指導する。単元の前半においては

(i) 円の対称性を根拠に、円と直線、2つの円の位置関係について考察し、直観的な扱いを通して接線の存在を認めていく。

後半では、

(ii) 円周角の定理などを基に数学的な推論によって円の性質について考察し、論理的に思考したり表現したりする能力を伸ばす。

特に、(ii)において

(ア) できるかぎり具体的な事象から入り、問題意識を身近なこととしてとらえさせ、操作活動をさせる。

(イ) 特殊な場合や、とらえやすいものから一般的なものへと考えさせる。

以上のことを通して、理解を深めさせたい。

また、図形の領域においては、特に論理的に表現する能力を伸ばすことが重要な目標の一つである。つまり、論理の進め方が自分をも他人をも納得させえるように表現できるようにさせたい。しかし、はじめから形式の整った書き方を強要するのではなく、わかっていることを図に書き込ませること、その図をもとにして、仲間に説明できるようにすること、説明した内容を文章化することを通してな

がら、形式よりも論理の進め方に力点を置く。しだいに整った形式の証明に慣れさせ、最終的にはその形で表現ができるように指導をしていく。

## (2) 生徒の実態

3年G組は、男子21名、女子21名の42名の学級である。

明るく、活発な生徒が多い。2年生から同じメンバーなので、わからないことを考え合ったり教え合ったりする人間関係ができている。そのために、バズ学習が好きな生徒が多い。しかし、後で教えてもらうことを期待し過ぎて、自分の考えを持つとしない生徒や、わかっているにもかかわらず手をしない生徒もいる。学力については、上位生徒もいるが下位生徒が他のクラスよりも多い。

この単元にかかわって、

①円について知っていることを書きなさい。(公式、用語など)

②証明を書くことが好きですか。その理由も書いてください。

というアンケートをとって見たところ

①面積、周の公式についてはほとんど書けていたが、弦という言葉をおぼえている生徒が多かった。

②どちらでもない生徒が多く、好きな生徒はほとんどいなかった。実際に証明が書ける生徒では「証明を書くことはめんどろだ。」、下位生徒では「どう書いたらいいのかわからない。」という内容が多かった。

## (3) 本時の指導意図

本時は、「円の性質」の単元の中の第2章「円周角」の第2時である。第一時で扱った円周角の位置の3つの場合の中で、中心Oが $\angle APB$ の内部にある場合についての証明を考えさせる。「このままの図では考えられない。」ということに気付かせ、補助線を引くことにより証明が可能であることに気付かせたい。補助線を引いた図を基にして説明を考えさせ、バズを通して考えを深め合わせたい。話し合った内容を基にして、証明を完成させたい。

自己評価問題として、整った形式の証明にふれさせ、これに近い形で証明が書けるように指導していく。

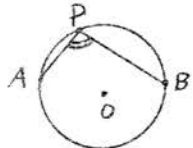
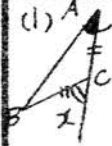
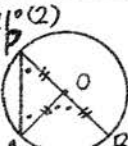
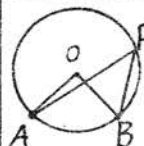
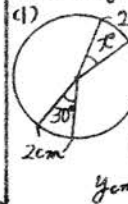
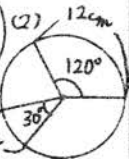

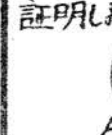


3. 単元構想図 (全13時間のうち9時間)

単元名 円の性質2

単元目標 円についての角の性質を明らかにし、そ

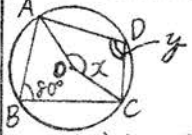
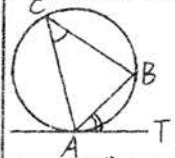
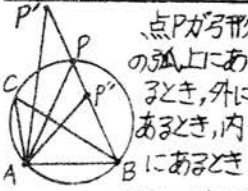
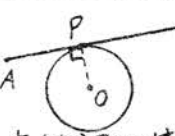
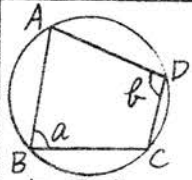
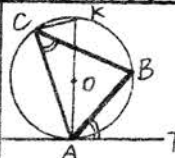
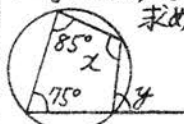
つきたい力

- ・円周角の定理を理解し、それを説明できる力
- ・円周角の定
- ・円についての定理を使って、いろいろな図形の性質を証明で

項	円	周		
目標	同じ弧に対する円周角の大きさがすべて等しいことを予想し、3通りの場合に分けて示していけばいいことがわかる。	中心Oが $\angle APB$ の内側にある場合について、円周角が中心角の半分になることの証明ができる。	中心Oが $\angle AOB$ の外側にある場合について円周角が中心角の半分になることの証明ができ、円周角の定理が理解できる。	1つの円で等しい弧に対する中心角は等しく、逆に等しい中心角に対する弧は等しいことを証明できる。
予備課題	教科書P97の問題で、角度を測ってくる。 	(1)  (2)  上の場合に入て、 $\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB$ を証明しよう。	 上の場合について、 $\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB$ になることを証明せよ。	次の又、の大きさを求めよ。 (1)  (2) 
題材	中心角と円周角の関係は、どんな場合があるのか、点Pを動かして考えよ。 	下の図で $\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB$ であることを証明しよう。 	 上の図で $\angle APB = \angle AQB$ になることを証明しよう。	 $\widehat{AB} = \widehat{CD}$ ならば $\angle APB = \angle ACD$ を証明しよう。
学び合いの姿	中心角と円周角の関係は、どんな場合があるか、交流しよう。	図に補助線を入れて考える方法を見つけだす。それによつてどう証明すればいいのが全員がことばで説明し合う。	中心角を作図し、円周角は中心角の $\frac{1}{2}$ であることを利用して、説明できることをたしかめあえる。	中心角が同じであることを見つけ出し、円周角の定理を使って互いに説明しよう。
自己評価活動	教科書P97 1	(2)の証明の穴埋め問題。	教科書P99 3 4	教科書P100 6

これらを使って図形の性質を論理的に考察する能力を伸ばす。

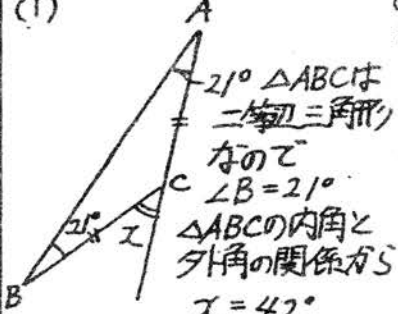

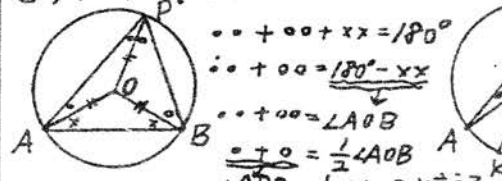
理を使って、円に内接する四角形や接線と弦の作る角の性質を説明できる力  
きる力

角	問	題	円周角の定理を使って	
弓形の角の大小をもとにして、円周角の定理の逆が成り立つことがわかる。	円の接線の性質をもとに、その作図の方法がわかり、作図ができる。	円周角の定理やその逆を使って具体的に問題を解く力をつける。	円に内接する四角形の性質と四角形が円に内接するための条件が理解できる。 接弦定理を知り、接線と弦の作る角が90°の場合を利用して、鋭角の場合の証明ができる。	
次の $x$ , $y$ の角の大きさを求めよ。 	①円の接線の性質をいえ。 ②  直角三角形APCの3つの頂点を通る円を作図せよ。	教科書P104 練習	 円に内接する四角形ABCDがある。 $x$ , $y$ の大きさを求めよ。  上の図で、 $\angle TAB$ と円周角 $\angle ACB$ を測ると、どのようなことがわかるか。	
 点Pが弓形の弧上にあるとき、外にあるとき、内にあるとき、 $\angle APB$ と $\angle ACB$ の大きさを比べてみよう。	 点Aから円Oに接線がひかれたとする。接点Pの位置をみつける方法はないだろうか。	教科書P104 練習	 上の図で $\angle a + \angle b = 180^\circ$ になることを証明せよ。  上の図で $\angle TAB = \angle ACB$ を証明しよう。	
弓形の角の大小から点Pが円周上にあるための条件が互いに確認しよう。	直径に対する円周角は直角であることをもとに、APOを通る円を作図を通して、接点Pの位置が決定されることを確認しよう。	練習問題を解いた結果、出てきた疑問点を互いに解決しよう。	中心Oに関する補助線をひくことをもとにして、円周角の定理を使って中心角を $a$ , $b$ を用いて表せることをみつけよう。 等しい角をみつけることから、 $\angle TAB = \angle ACB$ を説明する糸口をみつけよう。	
教科書P102 7	教科書P103 9	復習用の類題を解く。	$x$ , $y$ の角の大きさを求めよ。  教科書P106 3	教科書P108 4 5

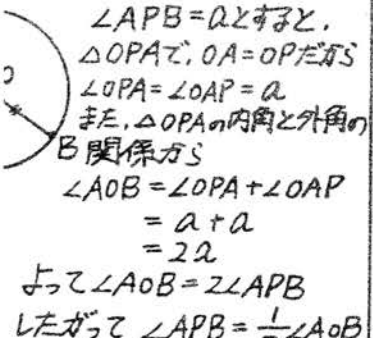
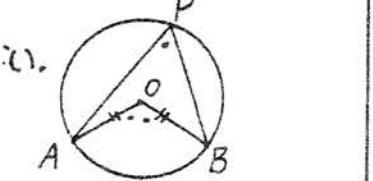


4. 本時のねらい 中心Oが∠APBの内部にある場合について、円周角が中心角の

5. 学習展開

流れ	教師のはたらきかけ	生徒の
予 課 発 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>予課の答えを確認しよう</li> </ul>	<p>(1)</p>  <p>21° △ABCは二等辺三角形なので ∠B = 21° △ABCの内角と外角の関係から x = 42°</p> <p>(2)</p> 
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日は、(2)についての証明を考えてみよう</li> </ul>	
提 示	<p>(2)の場合について、<math>\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB</math>であることを証明しよう</p>	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>図に印を書き入れながら、仲間に説明できるようにしよう。</li> <li>自分の考えをグループの人に発表してみよう(深め合うバス)</li> <li>グループで出た意見を発表しよう</li> <li>証明を自分で書いてみよう</li> </ul>	<p>このままの図では、証明できそうにな 補助線をひくと、証明できそうだ。 (1)の考え方が使えないかなあ。 ア) PO, ABを結ぶ</p>  <p> <math>\dots + \dots + x = 180^\circ</math>  <math>\dots + \dots = 180^\circ - xx</math>  <math>\dots + \dots = \angle AOB</math>  <math>\dots + \dots = \frac{1}{2} \angle AOB</math>  <math>\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB</math>と証明     </p> <p> <math>\angle OAP = a, \angle OPB = b, \angle OBA = c</math>          とすると、△PABについて内角の和から  <math>2a + 2b + 2c = 180^\circ</math>  <math>2a + 2b = 180^\circ - 2c</math>  <math>2a + 2b = \angle AOB</math>  <math>a + b = \frac{1}{2} \angle AOB</math> </p>
自 己 評 価 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解いてみよう</li> <li>(3)についての証明を予課にします</li> </ul>	<p>(2)の場合も、円周角は中心角の半分になる よって <math>\angle APB = \frac{1}{2} \angle AOB</math></p> <p>直径POKをひく  <math>\angle APO = a, \angle BPO = b</math>とする          △APOについて、OP=OAより  <math>\angle OPA = \angle OAP = a</math>          △APOの内角と外角の関係から  <math>\angle AOK = \angle APO + \angle OAP</math>  <math>\angle AOK = a + a</math>  <math>\angle AOK = 2a</math> --- ①          同様に△BPOについて  <math>\angle BOK = 2b</math> </p> <p>①+②  <math>\angle AOK + \angle BOK = 2a + 2b</math>  <math>\angle AOK = \frac{1}{2} \angle AOB</math>          よって     </p>

り半分になることの証明ができる。

活 動	学び合いの姿	留 意 点
<p> <math>\angle APB = \alpha</math> とすると、  <math>\triangle OPA</math> で、<math>OA = OP</math> だから  <math>\angle OPA = \angle OAP = a</math>            また、<math>\triangle OPA</math> の内角と外角の            関係から  <math>\angle AOB = \angle OPA + \angle OAP</math>  <math>= a + a</math>  <math>= 2a</math>            よって <math>\angle AOB = 2\angle APB</math>            したがって <math>\angle APB = \frac{1}{2}\angle AOB</math> </p>  <p>い、</p>  <p>           ) <math>P</math> 直径 <math>POK</math> をひく。            (1) の場合を 2 回            使えばできそうだ。            予課と同様にして  <math>\angle OPA = a, \angle OPB = b</math>            とすると、  <math>\triangle OAP</math> について  <math>\angle AOK = 2\angle OPA = 2a</math> ①  <math>\triangle OBP</math> について  <math>\angle BOK = 2\angle OPB = 2b</math> ②            ③ <math>\angle AOB = 2a + 2b</math>  <math>\frac{1}{2}\angle AOB = a + b</math>            よって <math>\angle APB = \frac{1}{2}\angle AOB</math> </p> <p> <math>\angle BOK = 2a + 2b</math>  <math>\angle OBP = 2(a + b)</math>  <math>\angle OBP = a + b</math>  <math>\therefore \angle APB = \frac{1}{2}\angle AOB</math> </p>	<p>           ・ 友達の証明と自分の証明を比べて、より良い証明をつくりあげていく         </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>             ・ 図に補助線を入れて考える方法を見つけだす。それによってどう証明すればいいのか全員がことばで説明し合う           </p> </div> <p>           ・ 友達の答えと自分の答えを比べて確認することにより、今日の学習内容がどの程度わかっているのかを確かめる         </p>	<p>           ・ あらかじめ教科係に指名させておき、黒板に書かせておく         </p> <p>           ・ <math>a</math> に置き換えての証明を確認しておく         </p> <p>           ・ 前時の終りに提示した図を黒板にはる。また、点 <math>P</math> が動く教具を用いて、前時とのかかわりをおさえる         </p> <p>           ・ このままでは証明できないので、補助線に目をつけさせる         </p> <p>           ・ 予課の (2) にもどらせる         </p> <p>           ・ 輪番法でバズを行う         </p> <p>           ・ このほかの補助線の引き方でも証明は考えられるが、生徒から出た場合については、取り上げて扱っていく         </p> <p>           ・ 机間巡視をして、<math>a, b</math> を使って証明している生徒に板書させる         </p> <p>           ・ 口頭でまとめる (文章としては次時にまとめる)         </p> <p>           ・ 確認バズを行う (リーダー法)         </p> <p>           ・ (2) の証明を基に考えさせる         </p>

## 理科学習指導案

- ・公開 2 (10:30 ~ 11:20)
- ・3年B組 理科第 教室 (北倉2F)
- ・授業者 三宅 博雄

1. 単元名 物質とイオン (水溶液中を流れる電流)

2. 指導の立場

(1) 単元について

生徒の中には、電流を流すものは「金属だ」という考えの者が多かった。実際、2年生で学習した「電流」の単元では、導体=金属というイメージがあった。しかし、電流の単元の終りで、「電圧さえ上げれば、空間でも電流が流れること(空中放電・真空放電)」を知った。そして、本単元では、水溶液中にも電流が流れることを事実として確認する。この水溶液中をながれる事実を基に、それをどのように説明するのがよいかを考えさせることを通して、イオンについての理解をさせていきたい。特にイオンの導入にあたっては、電解質の物質が、固体(溶質)のままでは電流は流れないこと、水(純水)も電流は流れないこと、ところが、この二つの物質がとけ合って水溶液になると、なぜか電流を流すようになる。さらに、水溶液に入れた極板に必ず特定の物質が付着(発生)する。この事実を基に、電気分解が、ただ単なる分解(1年で学習した)でなく、もとの物質が電気を帯びたものとして分解(電離)するものにとらえ、これをイオンの導入としたらと考える。

イオンは、それ自体が目に見えないものなので、マクロの現象を、生徒ができるだけミクロの世界をイメージできるよ

うに、モデルも積極的にとり入れて指導することが大事であると思っっている。

## (2) 生徒の実態

物質とイオンの単元は、生徒にとっては苦手とする分野のひとつである。泉中の場合（他校も同様な状況だと思いが）一般に生物分野では生徒の興味関心が高く、これは、たとえば、同一学級でも「生物のつながり」のところでは、挙手数（回数人数）がたいへん多くなることからわかる。イオンの場合、マクロの現象からミクロの変化を考えねばならず、その抽象概念の形成のむつかしさが、苦手の生徒をふやしていると思われる。したがって、前述のとおり、モデル化などを積極的にとり入れたらと思っっている。

生徒の学び合いでは、班がかわって若干様子の变化もあるが、従来の状況から言えることは「受動的」ということである。特に、課題を追求しようとする時など、話がながながすすまない。（与えられたことは、何とかやりきる。）また、学級の中に入りきれない生徒も若干かかえ、いかに生徒相互が、かがわりをもって学習（生活）できるか、大きな課題である。

## (3) 本時の指導意図

本時は、イオンの導入にあたる時間で、生徒が④に塩素⑤に銅が必ず出ることを確認し、それが $CuCl_2$ が分解したものであることを、おさえられるようにしたい。したがって、生徒が班の中で分担協力して実験をスムーズに行い、ゆとりをもって観察することが必要である。また、結果をもとにして、電極を逆転した時の予想、 $CuCl_2$ が分解して $Cu$ と $Cl_2$ になっていることを班の中で指摘し合うことで、一人一人が本時のねらいにせまっていくことができると考える。

### 3. 単元構想図 物質とイオン (全9時間)

#### 単元目標

- ①. 物質の溶解、水溶液の性質などを通して、電気分解及び酸・アルカリ・中和とイオンの考えで説明できる。
- ②. 化学変化には、熱の出入が伴うことが理解できる。

#### 小単元の目標

1. 水溶液には、電流の流れるものと流れないものがあることがわかる
2. 電解質の水溶液は、電流によって電解質が分解されることがわかる
3. 電気分解は、イオンのモデルで説明できる
4. イオンと原子・電子のかかわりがわかる

時数	1	②	3	4
本時のねらい	溶質・溶媒、水溶液が電流を流すかをしらべる	$\text{CuCl}_2$ の電気分解で電極に出る物質がわかる	原子(団)が電気をおびたものがイオンであることをつかむ。	原子がどのように電気をおびるかをつかむ。
事実・事実	水溶液になると電流を流すものがある	$\text{CuCl}_2$ 水溶液に電流を流すと分解する	$\text{CuCl}_2$ の電解で必ず $+$ に $\text{Cl}_2$ $-$ に $\text{Cu}$ が出る。	原子が電子を放出・吸収してイオンになる。
学習課題	電流を流す物質を調べてくる	$\text{CuCl}_2$ は何と何の化合物か。	$\text{CuCl}_2$ の電気分解をモデルで表せ。	塩化銅を電気分解すると、 $+$ 極に何が出来るか。
課題	水溶液には電流が流れるかどうか。	$\text{CuCl}_2$ 水溶液に電流を流し、変化をしらべよう	$\text{Cl}_2$ が $+$ に、 $\text{Cu}$ が $-$ に必ず出るのはなぜか。	イオンとはどのようなものか。
学習活動	教P82. 実験1をとりこむ 溶質・溶媒と電流を流さぬかが水溶液は電流を流すものがあることを確認する	教P86 実験2をとりこむ ・ $+$ 極と $-$ 極の変化を観察し、 $-$ 極には $\text{Cu}$ が $+$ 極には $\text{Cl}_2$ が必ず出ることをおさえる	前時の実験から、 ・ $\text{Cu}$ と $\text{Cl}$ が電気を おびていることをつかむ。 イオンの用語を定義する。	・原子がイオンになる過程を説明する。 ・いくつかの原子がイオンになる例を考えたさせる ・イオンの表示方法を説明する。
学び合いの目安	実験を協力してとりこめるか ・溶質・溶媒・水溶液について班で確認できるか。	・実験が協力してとりこめるか ・ $+$ 極と $-$ 極に15時の予想と班で出せるか	原子が電気をおびることを予想しあえるか。	イオンの表示方法が班内で教え合えるか。

1. 水溶液

- ・水溶液とは 溶質・溶媒
  - ・濃度の表し方
- < 2 時間 >

2. イオン

- ・電解質と非電解質
  - ・電気分解
  - ・イオンのモデル
- < 8 時間 >

3. 酸・アルカリ  
塩

- ・酸とは何か
  - ・アルカリとは何か
  - ・中和反応と塩
- < 6 時間 >

4. 化学反応と熱

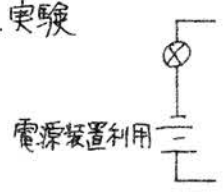
- ・中和反応と発熱
  - ・化学反応と発熱
- < 3 時間 >

5	6	7	8
電解質は水にとけて電離することをおさらい。	電解質水溶液の電気分解をイオンで説明できる。	HClの電気分解実験で予想を確認する	水溶液中を流れる電流の正体をたしかめる。
電解質水溶液は電離してイオンになっている	電気分解は必ずイオンの作用で分解する	HClは電気分解で $H_2$ と $Cl_2$ が出る	電解質の水溶液は電流を流す。
陽イオン 陰イオンの例をあげよ。	塩酸が電気分解されると何が出来るか。	HClの電気分解のモデルを整理せよ	今までの授業の感想をノートに書いてくる
水溶液中のイオンはどうなっているのか？	塩酸の電気分解をモデルで考えよう。	HClを電気分解してみよう。	水溶液中の電流の正体は何か？
・電解質の水溶液の電離を例をあげて考えさせる。 ・固体の時と水溶液になった時のちがいを説明する。	・電解質水溶液の電気分解のようすと、塩酸を例にしてモデルをつかって考えさせる。 ・電解質の水溶液の電離についておさえる。	・HClの電気分解の実験を行う。 ・予想と合致することをおさらい。モデルが正しいことを確認する	・今までの授業のまとめとして、十種から水溶液を1種選んで流れる電流と自由電子とイオンをつかって考えさせる
電離の例を班内でお互いに教え合えるか。	班内でHClの電解のモデルを考えられるか。	実験を協力してやりとりすることが出来るか。	・班内で水溶液中の電流のまとめをし合えるか

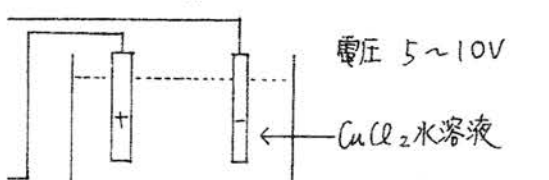


4. 本時のねらい)  $\text{CuCl}_2$  水溶液に電流を流した時の変化を観察し、電極に出た  
 5. 学習展開

流れ	教師のはたらきかけ	生徒の反
予備	1. 予課を発表させる。( $\text{CuCl}_2$ は何と何の化合物か) 予課と関係した前時の学習事項の確認 ( $\text{CuCl}_2$ の固体、純水、 $\text{CuCl}_2$ の水溶液は電流を流したか)	1. 予課を発表する ・塩素と銅の ・固体の $\text{CuCl}_2$ 流す。
課題化	2. この章で学習すべき方向・内容を課題化する (溶質溶媒とも電流を流さないが水溶液になると電流を流す理由の探究)	
課題提示	3. 課題の提示。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今日はまず <math>\text{CuCl}_2</math> 水溶液に電流を流して、その様子を詳しく観察してみよう。</span>	
実験観察	4. 実験の準備・実験 <実験観察バス> (準備は分担しやるよう指示する) 観察の観点 → ・ 極板の様子、 ・ 溶液の色	4. 実験
まとめ	5. 実験結果のまとめ。 1人1人がノートに結果をまとめ、班内で確認するよう指示。 (どんな変化があったか) (極板に出たものは何か) +極は塩素、-極は銅が出たことを確認する	5. 手とめは1人1 ・ +極のアワは ・ -極は赤銅色 ・ +極のアワは ・ -極の固体は
発展とたしかめ	6. 結果をもとに次のことを考えさせる <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">① 電極の+-を逆にするとどうなるのか。 ② +極の塩素 -極の銅はどこからきたのか。</span> <課題追求バス 自由会話法で> ◎ 話し合いの様子を発表させる ◎ ①の確認実験を行わせる	6. ・ +-を逆に ・ +-を逆に ・ 塩素と銅は  ◎ 学びか班長 ◎ ①の確認の ・ +-を逆に
確認	7. 実験などをとじて、次のことを確認する <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">+極からは必ず塩素が発生する。 -極からは必ず銅が出てくる。</span>	7. 電極に出てく
次時の予課	8. 次時の予課を提示する。 ( $\text{CuCl}_2$ は $\text{Cu}$ と $\text{Cl}$ の化合物である。そして今日の実験で発生した $\text{Cu}$ と $\text{Cl}_2$ はこれが分解したものである。次の時間までにその様子をモデルで表してみよう)	



物質がわかる。

応及び活動	学び合いの姿	留意点
<p>(挙手・指名)</p> <p>化合物です。</p> <p>純水は電流を流さなから、水溶液になると電流を</p> <p>3. <math>\text{CuCl}_2</math>水溶液に電流を流すとアワが出た</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 極板の色が変わった</li> <li>- ハンパにおいがした。</li> </ul>  <p>人で、班の学びが確認する。</p> <p>プールの消毒においがする。</p> <p>のものがついた。</p> <p>においからして塩素だ。</p> <p>色からみて銅だろ。</p> <p>しても出てくるものは前と同じ。</p> <p>すると出てくるものも逆になる。</p> <p>塩化銅が分解したんだ(予読から)</p> <p>班の様子、内容を発表する。</p> <p>ため+-を逆にして実験する。</p> <p>すると出てくるものも逆になる。</p> <p>るものを確認する。</p>	<p>学び合いの姿</p> <p>班で実験準備を分担協して行い、協力して実験にとりくみ、自分たちの班の実験をゆとりとむととりくめる。</p> <p>自分の意見をもって、班内で話していきける</p> <p>人の意見を聞いて自分の意見を修正できる</p> <p>すばやく実験できる。</p>	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 予読は前時に提示しておく。</li> <li>- <math>\text{CuCl}_2</math>の生成実験もできるより準備して、必要に応じて演示実験する。</li> <li>- 実験に入ったら極板に注目させる。(机間巡視して班毎に指示を徹底する)</li> <li>- 銅はかんたんに確認できないので、確認方法の深入はさける。</li> <li>- 十極のアワまでは必ず確認する。</li> <li>- モデルは例示しておく</li> </ul>

# 音楽科 学習指導案

公開2校時(10:30~11:20)

1年B組 音楽教室 南舎1階

授業者 澤田 博昭

## 1. 題材

「奏法をとろえたりコーダーアンサンブル」

## 2. 教材群

「喜びの歌」 ベートーベン作曲 (教芸 5.62, P.16より)

※「ラインの踊り」 ドイツ民謡 (教芸 5.62, P.19より)

※ 本時の教材

## 3. 指導の立場

### (1) 題材について

器楽活動は、おろい・使用する楽器などによって、いろいろな学習内容・方法等が考えられる。本校では、「器楽表現の美しさ・良さ・楽しさを味わわせる。」ことをおろいにし、楽器は現在もっとも多く使用されているソプラノリコーダーとアルトリコーダーを中心に指導を進めている。

リコーダーアンサンブルで「息の合った演奏」の条件として、ピッチ・テンポ・アーティキュレーション・強弱・増減の統一が考えられる。1年生では、初めてアルトリコーダーを手にしたことをふまえ、出口をアルトリコーダーとソプラノリコーダーの美しい響きのアンサンブルと考えた。

これまでの器楽の題材としては、「アルトリコーダーの基本奏法」(音色の工夫、シ～ドの指使いを指導してきた。基本奏法を身につけた生徒に、基本奏法を生かして楽しく表現させたい、音楽的に表現させたい、アンサンブルの美しさを味わわせたいという願いのもと、本題材を設定した。

今回取り上げる題材「奏法をとろえたりコーダーアンサンブル」では、音を短かく明快に発音するスタッカート奏法、音を区切らないでなめらかに吹くレ

ガート奏法、一音ごとにタンギングするが、音と音の間に切れ目を作らない奏法  
タート奏法の3つを理解し、表現させたい。

### (2) 生徒の実態

小学校でアルトリコーダーを吹いたことのある生徒は、クラスの3分の1ほど  
いたがあとは中学校で初めて手にした者ばかりである。アルトリコーダーの導入  
として基本奏法(1)、左手で吹けるド ~ シまでを使い、で、「ガッコラ」を吹ける  
ようにし、アルトリコーダーに慣れさせた。基本奏法(2)では、「せくらせくら」  
の2重奏を取り上げ、新しい指使いシ・ラ・ソ・ラ・シ・ドを習得させた。ラ ~  
ドでは、サミングがあり、またシとシではサミングだけでなく右手の指使いも違  
って、4分の1の生徒がとまどっていたようだが、バス学習を取り入れるなど指  
導展開を工夫する中で、徹底することができた。

### (3) 本時の指導意図

本時では、教材「ラインの踊り」の団(後半)を、下記の2点を重点として  
指導していきたい。

- |  |
|--|
| <p>① バスで根拠をもち、どこをどのように吹くのが考えられることができる。<br/>→ 自分は、こう表現したいということを楽器を使って表現する。</p> <p>② 工夫したことを表現できるようにバスで教え合い・練習し合い・確かめ合う<br/>ことができる。<br/>→ きき役、拍取り役などバスで工夫して活動する。</p> |
|--|

このようにグループでえらって表現ができるように、リーダーを中心に活動さ  
せたい。また、最後に全体の中で発表することにより、自分のグループとは違っ  
た表現方法にも気づかせ、より幅広い表現の仕方があることにも目を向けさせたい  
と考えている。

3. 題材構想図

題材	奏法を学んだリコーダーアンサンブル	指導目標	アーティキュレーションを統一することができる。
具体目標	段階	第1次 第2次	第1次 第2次
	本時	喜伏の歌を音と音のつながりに注意して吹くことができる。	ラインの踊りを3つの奏法で吹くことができる。
教材群	喜 伏 の 歌	ラ	
指導能力	表現の能力	表	スラーのつながっている始めの音だけをタンギングするレガート奏法
		現	一音ごとにタンギングするが、音と音との間に切れ目を作らないポルタート奏法
重点	鑑賞の能力	の	一音ごとに短く明快に発音するスタッカート奏法
		重	3つの奏法をタンギングに気をつけて吹くことができる。
評価	能力	の	グループで同じ奏法にそろえて吹くことができる。→(ア)、(イ)
		重	♪、♪♪のリズムをそろえて吹くことができる。
評価	情意	の	グループの中で2つのパートに分かれ、2重奏することができる。→(イ)
		重	A1とA2と同じアーティキュレーションで吹くことができる。→(イ)
学習形態	形態	の	拍の流れを感じ取るることができる。
		重	仲間のはたらきを聴き、アーティキュレーションを聴き合わせるることができる。
学習形態	形態	の	アーティキュレーションの違いに関心を持つことができる。
		重	進んで3つの奏法を習得しようとする態度を持つことができる。
学習形態	形態	の	グループで協力して、アーティキュレーションを統一することができる。
		重	1つの奏法にそろえた2重奏
学習形態	形態	の	奏法の統一への意識
		重	
学習形態	形態	ペア(ア) 小集団①バズ(イ)	小集団①バズ(イ)

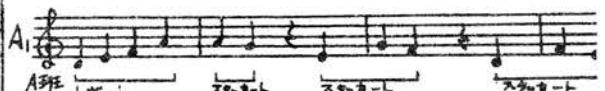





- 4. 本時のねらい
- 5. 学習展開

「ラインの踊り」の 団 の アーティキュレーションを工夫し、

total 明しけ、

流 水	教師のはたらきかけ	学 習
5分間学習	教師の助言	音楽係を中心に既習曲を歌う。「遠い」
導 入	著例の歌を3つの奏法で吹いてみよう。	各奏法に注意して著例の歌をアルトリ: ↓
課題把握	本時の課題を提示する。  グループで工夫してみよう。 E♭の音程をいれよう。 用紙の紙片 K200 (270-ト) (100-ト) (100-ト) (100-ト)	団 の部分を グループで工夫し  グループでアーティキュレーションを: A1  A班 レート スクート スクート スクート スクート B班 スクート レート スクート レート スクート レート
課題追求	グループで工夫したことを表現してみよう。 Gro 18字と あひつ子	グループで、それぞれ工夫したアーニ リーダー: 「まず個人で練習して下さい。」 : 「むずかしい所はありませんか。」 : 「一人ずつ吹いて下さい。他の人 して下さい。」 : 「では全員で合わせます。○○さん : 「○○の所が吹けないので、○○ さん」
課題検証	全体の中でグループ発表しよう。 欠点なく よく頑張った 賞状	どこをどのように工夫したかを発表し、
本時のまとめ 次時への課題	学習の記録に感想・評価を書こう。	学習の記録を記入する。

表現することができる。

内 容	学 び 合 い の 姿	留 意 点
世界に、「若者たち」		<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢・表情に気をつけて歌わせる。</li> </ul>
<p>リコーダーを吹く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの奏法(レガート、ポルタート、スタッカート)</li> <li>教師の範奏も入札、3つの違いがわかるように吹かせる。</li> </ul>
<p>乙吹こう。</p> <p>工夫する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダー中心にバズで工夫する。</li> <li>自分のグループの工夫を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の記録に記入させる。</li> <li>実際にリコーダーを吹かせ工夫させる。</li> <li>自分たちのグループの工夫を楽譜に書かせる。</li> </ul>
<p>イキュレーションを表現する。</p> <p>むずかしい所を教え合う。</p> <p>お、聞き役に残り、アドバイス</p> <p>「合図をして下さい。」</p> <p>君の拍取りに合わせて吹いて下</p>	<p>むずかしい所への教え合い、拍取りをして練習する、聞き役に残り、確認め合うなど、発見的に活動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでまず個人が吹けるようにしてやる、全員が吹けて吹く練習をさせる。</li> <li>グループ巡視を助言する。</li> </ul>
<p>グループで吹く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの演奏を聞き、感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫した所が表現士出ているかどうか確かめる。</li> <li>演奏を聴いて気づいた事を発表させる。</li> <li>同じ楽曲でも色々な表現方法により、雰囲気が変わってくることに気づかせる。</li> </ul>

## 技術・家庭科（家庭系列）学習指導案

公開2（10:30～11:20）

2年C、D組家庭科室（南舎2階西）

授業者：水野 道子

### 1. 題材名 食物2 青少年向きの献立と調理

### 2. 指導の立場

#### (1) 題材について

近年の社会経済の急激な変化は、私たちの意識や生活環境を根本的に変えてしまうほどの大きな影響力を持っている。生産は個人から他人へ移り、大量に生産されるようになり、私達のまわりには多種多様の食品があふれ、望めばいつでも手に入れることができるようになった。しかし、生徒達の食品の選択の仕方を見てみると、出まわっている商品についての知識は浅かったり断片的であり、好み中心で食品を選択してしまいがちである。食物本来の目的である「健康な体をつくり、維持する」ための食物が、逆に栄養のかたよりや、健康を害することにもなる。

このような生徒に「食物2」の学習を通して、食品について理解を深め、消費者として正しく食品を選択しようとする態度を育てたいと考えた。

#### (2) 生徒の実態

加工食品、中でもインスタント食品が普及したのは、昭和35年以降で、インスタント食品のはしりである“インスタントラーメン”は今年で30年になる。また、家庭の食物費に占める加工食品の割合も昭和40年代後半を境にして、加工食品が50%を越え、年々増加する傾向にある。

2年C、D組の食事調査においても、大部分の生徒は食べている食品の半分以上が加工食品であり、中には殆どが加工食品である生徒もいた。すなわち、インスタント食品が当り前の時代に生きているといえる。だから、加工食品やインスタント食品を抵抗なく受け入れているように見える。しかし、「加工食品は体にとってあまり良くないのでは」という思いをもっている生徒も多いが、こういう意識は一時的なもので終わってしまったり、漠然とし過ぎて結局はよくわからないで終わってしまっている。

食品が氾濫している中で生徒達はどのようなものをどんなことに気をつけて買っているのかアンケートしてみた。(2年C、D組女子生徒42名の結果)

#### 買物の内容

- ・自分の間食だけでなく食事の材料なども買う。 13名
- ・自分の食べるお菓子やジュース類を買う。 27名
- ・自分で何も買わない。 2名

#### 買う時に気をつけること

- |       |     |           |     |          |     |
|-------|-----|-----------|-----|----------|-----|
| ・金額   | 28名 | ・日付       | 24名 | ・おいしそうな物 | 17名 |
| ・見た目  | 8名  | ・品物の良さ    | 7名  | ・色       | 6名  |
| ・賞味期間 | 5名  | ・大きさ,量,重さ | 4名  | ・栄養      | 1名  |
| ・添加物  | 1名  | ・g当りの値段   | 1名  |          |     |

半数以上の生徒が、自分の間食を買っているだけである。買う時に気をつけることとしては、金額、日付、おいしそうな物が多かった。食事の材料なども買っている生徒の方が、いろんなことに気をつけて買っていた。

生徒達は食物学習に大変興味を持っている。しかし、作って食べることが中心で、栄養や食品に関する学習にはあまり興味を示さないので、できるだけ体験的学習を仕組むことにより関心を持たせ、学習に取り組ませたい。

### (3)本時の指導意図

生徒達は大変ジュースが好きである。課題を見つける場では実際にジュース缶を持ち寄せ、生徒達が普段ジュースを買う時の様子(気をつけること)を語らせ、合成着色料に着目させ課題を設定する。

本時では、食品添加物の1つである合成着色料の検出実験を行うことにより、加工食品や食品添加物に対する意識を高め、安全性について考えさせ、消費者としてどのような態度が必要か学ばせたい。合成着色料の入っているものと、入っていないものとは毛糸の染まり具合が大きく違うので、生徒の驚きも大きく、関心も高められると考えられる。

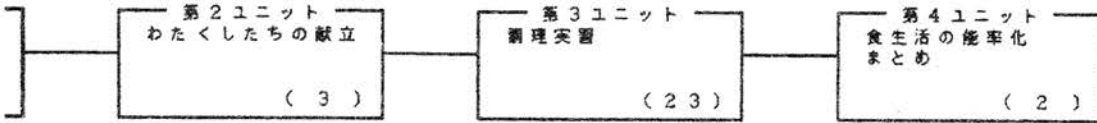
実験に入る前に、結果はどうなるのか班でバズをすることにより、意識的・意欲的に実験に取り組む姿勢を作りたい。

そして実験では、班員一人一人が自分の仕事を責任を持って果たすよう努力し、うまくできない生徒には援助していかせる。実験中や実験後のまとめでは、わかったことや思ったことをみんなで発表し合い、自分の気づかなかったことに気づけるバズをさせ、学び合の場としたい。



7時間]

地域構想 全35時間



4・5	6 (本時)	7
食品添加物・品質表示	着色料の検出実験	食品の選び方と保存のしかた
食品添加物と使用目的を知り、加工食品の安全性について加工食品の品質表示について加工食品の袋には、どんなの袋か。	合成着色料の検出実験を通して、食品の選択で気をつけることがわかる。	食品の適切な選び方、保存のしかたが分かる。
加工食品の袋には、どんなの袋か。	2つのジュースによる色素の検出実験。	生鮮食品や加工食品の選び方。
加工食品の袋には、どんなの袋か。	2つのジュースの品質表示を比較し、色素の検出実験を行う。	生鮮食品や加工食品の選び方。
加工食品の袋には、どんなの袋か。	予想を立てる時や、実験中、結果を比較する時。	今までの学習を振り返り、振り返りながら進める。
加工食品の袋には、どんなの袋か。	自分の仕事分担を明確にし、協力して実験を行う。	加工食品を選ぶ時に注意すること。
加工食品の袋には、どんなの袋か。	よく色素が染まった。体の中に入るとどうなるか。	好みだけで買わないで、添加物や味や栄養、値段などいろいろなことを考えて買いたい。

学習後の意識

- 表示を見て食品を買うようにしたい。
- 添加物の少ない食品を選びたい。
- できるだけ生鮮食品を取りたい。
- 加工食品の袋をよく見たい。
- 加工食品の袋をよく見たい。
- 家で加工食品を作りたい。



4. 本時のねらい 合成着色料の検出実験を通して、食品の選択で気をつけることがわかる。  
 5. 学習展開

流れ	教師の働きかけ	生徒		
課題を見つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなよくジュースを飲むと思うけど、どんなことに気をつけて選んでいますか。</li> <li>品質表示を見て選んでいる人もいますね。</li> <li>先生が用意してきたジュースの品質表示です。どう違うのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おいしい物を選ぶ。</li> <li>製造年月日を見て新しいものを選ぶ。</li> <li>気の向いた物を選ぶ。</li> <li>品質表示を見て選ぶ。</li> <li>合成着色料の方は体に悪い。</li> <li>合成着色料の方は何も含まれてい</li> </ul>		
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">課題</td> <td style="padding: 5px;">2つのジュースによる毛糸の染まり具合を調べてみよう。</td> </tr> </table>			課題	2つのジュースによる毛糸の染まり具合を調べてみよう。
課題	2つのジュースによる毛糸の染まり具合を調べてみよう。			
体を通して解決する	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の方法を説明する               <ol style="list-style-type: none"> <li>①果汁100%ジュース(A)と合成着色料入りジュース(B)に、それぞれ食酢と水でぬらした毛糸を入れる。</li> <li>②①を湯せんにして10分間沸騰させる。</li> <li>③毛糸を取り出し水で洗う。</li> </ol> </li> <li>毛糸はどうなるでしょうか。</li> <li>実験の時の仕事を分担して下さい。</li> <li>それでは実験を始めよう。 20分で終われるよう班で協力しよう。</li> <li>結果はどうになりましたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験に必要な物を取りに行く。</li> <li>実験の方法・順序を知る。</li> <li>Aが染まりそう。液が濃いから。</li> <li>合成着色料で染まると思うから、</li> <li>両方とも染まる。</li> <li>両方とも染まらない。</li> <li>仕事を分担し、プリントに記入す</li> <li>①2つのジュースに食酢とぬらし</li> <li>②①を湯せんして、10分間沸騰</li> <li>③毛糸を取り出し、水で洗う。</li> <li>終わったらプリントにまとめる。</li> </ul>		
伸びをたしかめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bのジュースの色がなくなったのだけどこへ行ったのだろう。</li> <li>実験をしてみてどういうことがわかりましたか。</li> <li>これから食品を選ぶときに、どんなことに気をつけるとういでしょうか。</li> <li>後片付けをして下さい。</li> <li>次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bはよく着色した。</li> <li>Aは着色したように見えたけど、</li> <li>Bの残った液は殆ど色がない。</li> <li>Aの残った液は最初と変わらない</li> <li>合成着色料ではよく着色するが、ない。</li> <li>毛糸を染めている</li> <li>同じジュースなのに中身はこんな</li> <li>体の中に入ったらどうなるのだから</li> <li>品質表示を確かめる。</li> <li>できるだけ添加物の少ないものを選ぶ。</li> <li>班で協力して片付ける。</li> </ul>		

の 活 動	学 び 合 い の 姿	留 意 点
<p>ぶ。</p> <p>ない。</p> <p>色が濃いから。 Bが染まる。</p> <p>る。</p> <p>た毛糸を入れる。 はせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">発表し合うバス</div> <p>洗ったら落ちてしまった。</p> <p>果汁100%のジュースでは着色し</p> <p>にも違うのか。 う。</p> <p>選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選んできたジュースをもとに選び方を交流し合う。</li>   <li>・班で発表し合い、自分の考えを持って実験にのぞむ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で協力して実験を進める。</li> <li>・実験しながら、気づいたこと、考えたことを出し合う。</li> <li>・わかったことや思ったことを交流し合いプリントをまとめる。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きなジュースの空き缶を班で2つずつ持ってくる。</li> <li>・プリントを配布</li> <li>・2種類のジュースを示す。</li> <li>・B紙に書いた品質表示を示す。</li>   <li>&lt;実験に必要なもの&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・A：果汁100%ジュース</li> <li>・B：合成着色料入りジュース</li> <li>・脱脂した白色毛糸 3本</li> <li>・食酢           ・スプーン</li> <li>・ナベ(2)    ・はし(2)</li> </ul> </li> <li>・実験方法はB紙に示す。</li>   <li>・仕事の分担 <ul style="list-style-type: none"> <li>記録者2名   時計1名</li> <li>記録 2名    道具2名</li> </ul> </li> <li>・机間巡視 安全に気をつける。</li> </ul>

# 保健体育科学習指導案

公開 2 (10:30~11:20)

1年CD組 男子 運動場

授業者 林 康治郎

1. 題材名 バスケットボール

2. 指導の立場

(1) 題材について

バスケットボールを体験する時、一番の醍醐味はシュートであり、シュートをした時バスケットの中にボールが入った瞬間の感激と気持ちの良さであると感じる。しかしただ自分ひとりだけでシュート練習する際には、シュート数が多く、バスケットの中に入る確率は高いが、実際ゲームの中では5人の味方と5人の相手が入り乱れ、シュートチャンスをつくるには自分ひとりでは難しい。したがって、味方の5人と相手5人との対人プレーの中で、なるべく合理的なチームプレーによってシュートチャンスをつくらなければならなくなる。ひとりだけゲームの中でチームが最大の力を発揮できるのは、優れた個人を集めただけでは必ずしも高い得点力に結びつかない。優れた個人がバラバラで好き勝手にゲームを進めるよりも、チーム内の5人がコート内の10人の対人プレーを考えたバランスのよい動き、連けいプレーのできるチームであれば、個人の総力の和以上の力を発揮できるものである。そこで体育の授業の中では、もはや個人個人の技術レベルのアップにウエイトをおくのではなく、コート内の10人の対人プレーを考えたバランスのよい動き、連けいプレーのできる個人仲間づくり、チームづくりをめざしたい。

体育では班が単位となり、班として学習に取り組む。特にバスケットボールは集団性の強い運動であるから、その具体的活動場面では役割を分担して活動したり、きまりをつくらせて活動するなど集団的な行動や社会的な態度を養うよう指導することが大切であると考え。また運動側面では適切な技能を補強しながら生徒の発達に応じたゲームが展開できるように配慮したい。

## (2) 生徒の実態

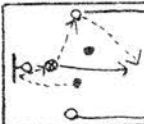
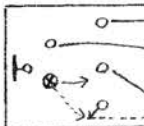
現在の1年生は2つの小学校から入学してきている。そして、どの生徒も小学校時に学習課題「みんなで攻め、みんなで守る」で学習している。しかし、いざゲームをさせるとボールに固ったり、アンバランスに守ったりで、小学校での学習が定着していない。これは、A小学校出身生徒はオールコートで「広がって攻め、広がって守る」、B小学校出身生徒は、「持ち場を決めて、みんなでゴール下を守り、みんなで攻める」といふ既習学習の違いも影響しているように思う。そこで復習ゲームをしながらゲームの調子をつかませて学習を進めていく必要があった。現在の各班は前題材のバレーボールの班をほとと班編成したもので、かなりチームワークもできているはずだが、バレーボールとバスケットボールの運動の特性に大きな違いがあるため、激しく動き入り乱れる中でのコンビネーションなどの班も苦労している。それにしても、どの生徒もバスケットボールが好きであり、授業にも意欲的に参加でき、班学習も充実して楽しいようである。

## (3) 本時の指導意図

前課題では、ノーマークにされずに攻めたりすることが多く、やや無理のあるシュートを放つ班が目についた。このように、攻撃に対する味方の動き方に行きづまりがあったことから、本時はパスアンドランを使ってノーマークをつくり、シュートチャンスにつなげる工夫をさせたい。ここで、特に問題になることは、パスをしたあと動けないとか、どこに動いたらよいか迷うことである。そこで、対2の攻防練習において例を示しながらノーマークをつくらせてシュートにつなげる動きを身につけさせたい。また、お互いに連絡しやすくするため、十分な計画バズや作戦バズを行わせ、しかもゲーム中では必要に応じて生徒同志が作戦打ち合せのためのタイムアウトをとり調子よく班バズをし、さらにサイドコーチやプレーをしながら動きの中でも声をかけ合い、仲間同志がスムーズに連携プレーができるようにさせたい。そして、パスアンドランで有利に攻めるにはボールを奪ったから速く攻めて相手より多い人数でテキパキと攻めることの必要性をつかみ、次時学習課題「速攻を使って攻めることができる。」へつなげていきたい。

2. 単元構想図 (バスケットボール1年指導計画全17時間)

目標	・みんな ・みんな
----	--------------

条件		学習内容		運動				
過程		運動	集団 (学び合い等)					
計画	計画会	1	(めあて) ・学習目標、学習計画を知る。 「みんなて守り、みんなて速く攻めることができる。」	(ねがい) ・めざす仲間を知る。 「みんながそろって活動でき、教え合いが活発にできる仲間をめざす。」	・運動の特性を じて、教師の語 ・教師から学習 一時間の学習 説明を聞く。 ・準備運動の仕 ・集合場所練習			
	展 練習とゲーム		2	◎ 広がって攻めることができる。	[規律ある行動の定着] ・集合・練習話し合いが、 きげきとできる。	◎ 体操、ウォー (コート2周) ◎ 基本練習 ・パス ・ドリブル ・リターン		
3			・人のいない所やボールをもらい 見い所へ動いてパスをもらう。					
4			◎ みんなで攻め、みんなて守るこ とができる。	[協力活動の充実] ・お互いに快く教え合 たり、励まし合ったりで きる			◎ 抽出練習1 ・パスワーク ・ドリブルから ・ゴールを背 クする相手 守る。 ・動きかえか ・Fでパス、逆 を使ったパス	
5								・いい場所にいる味方をはやく 見つけ、素早くパスをする。
6								・相手ボールになったら、ボールが さがってゴールを守る。
7			・攻め手をふやしてまよわす攻 める。	[要求の仕方と応え方の充実] ・お互いに動き方やパ スの出し方を指摘し 合い、それに応え合っ ていくことができる。	◎ 抽出練習2 			
8			・パス、ドリブルを使って攻め る。					
9			◎ 速攻を使って攻めることができる。	[信頼関係の強化] ・チーム成績へ意欲を 燃やして貢献し、認め 合うことができる。	◎ 抽出練習3 			
10			・味方ボールになったら、相手の 守りが撃たないうち攻める。					
11			◎ みんなて守り、速攻を使 ゲームができる。					
開 リーグ戦		12	・ボールをとったら速く攻め、相手 ボールになったら素早くさがって みんなて守る。		◎ 5対5の			
		13	・リバウンドボールは、サイドを利 用して速く攻める。					
		14						
		15						
		16	・リーグ戦成績を集計し、順位を 決める。 ・運動めあての達成ぶりを確 認する。			・めざす仲間になれたか振り返 る。 ・協力活動の経度 ・集団結束度	◎ 班活動全 ・課題 ・仲間	
評価	反省会	17						

で守り、速攻も使ったゲームができる。  
 がそろって活動でき、教え合いが発達できる仲間をめぐす。


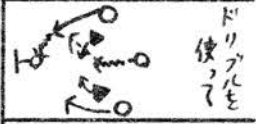
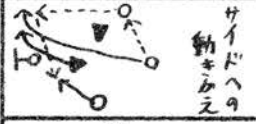
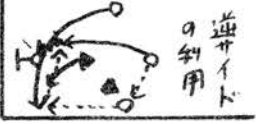
学習活動		教師の指導	
力	集団	運動	集団
VTRを通 を聞く。 全体計画や の流れ方 方を知る。 場所がわかる。	班計画バス ・学習の約束を決める。 ・班ごとに学習の役割、係分 担をする。 ・班ごとに学習の進め方を 確認する。	・バスケットボールの運動 の特性について話し、学習 意欲を高める。 ・学習計画の概要を説明し、 場所や用具の使い方、保管 の仕方を学習ノートやカード 作戦板を使って説明する。	・真のチームづくりとか今 ームワークについて説明 する。 ・班活動としてのヒトリヒ トリの役割の果たし方 について説明する。
シングアップ 蛇行ランニング)	◎L(リーダー) ・計画会の司会 ・練習の指示 ・プレーヤーキャプション ・反省会の司会	・技術的なレベルの差で個人プレ ード勝つチームに対しては、声 をかけ合、カバーするなとかプレ ード守りも固めるように言う。 ・練習の仕方が課題にそぐわない 時は、プレーをストップさせて財 言をし、気づかせる。 ・ボールをもらった時、保持やパス に自信が持たないため、早くパス をつなぐことができない生徒 に対しては、ボールをもらった 時に、ボールの反対や前方をみ て早くパスしたり、周りの子に「こ っちね!!」と声を出させるように 言う。 ・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・授業の進め方のパターンが曖昧 な班には、パターンをしっかりと押 さえる。 ・リーダーの指示の仕方のうまい班 は、他のリーダーにも参考にするよ うに全体会で紹介する。 ・仲間の参加意欲を高めるよう な提案ができるようにMOE 指導する。 ・上手な子だけでは限界がある ので、ゲームに参加しているヒ トリヒトリを大切にしてい くことがチームの力をつけて いくことにつながることを 言う。 ・負けがこんでいる班には、重 点的にサイドコーチをする。 ・攻め方、守り方のアイデアが出 せた子、班をほめ、全体会で 紹介する。 ・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
シュート パスシュート (半面3対3,3対2) ・レイの連続 のパス・クアプレイ ・パス、ボールヒマ を意識しながら	◎PO(技術観察者) ・技術的班課題の提案 ・ヒトリヒトリに技術的 に気がついたことを言う。 ・技能チェックをする。 ◎MO(態度観察者) ・態度的班課題の提案 ・ヒトリヒトリに態度的 に気がついたことを言う。 ・きまりに従って学習し ているかをチェックする。 ◎記録係 ・班バスの記録をする。 ◎PNB ・得点、ゼッセン、ボールの世話。	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
らのパス・クアプレイ サイド、相手のうら ぐワークプレイ )(全面3対2)	◎記録係 ・班バスの記録をする。 ◎PNB ・得点、ゼッセン、ボールの世話。	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
3(セットディフェンスからの速攻、全面5対2)	◎班バス ・攻防の研究、打 ち合せをする。	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
ゲームを行う。	◎班バス ・攻防の研究、打 ち合せをする。	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
本を相互評価する。 ・達成度 ・援助ぶり	◎班反省バス ・役割の果たしぶり ・集団の結束力 ・きまりの守りぶり	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。
本を相互評価する。 ・達成度 ・援助ぶり	◎班反省バス ・役割の果たしぶり ・集団の結束力 ・きまりの守りぶり	・時には全員集めて、課題追求 のための中間研究会を開く。 ・連けっプレーがうまくいった時 そのタイミングがどうして したのか、その場で指導し たり、全体会で話題にする。 ・攻めや守りで動きがわから なくなり、とまどってしまう子 には、サイドコーチからの動き方 の指示を出させたり、班内で声 をかけさせたりして、とまどい をできる限り少なくしていく。 「走れ」「さかれ」「ぶかれ」	・勝敗の要因を冷静に研究し 合い、まためぐす仲間に向 かって頑張っている班やリー ダー、PO、MO、班員の働き かけなどを紹介する。



4. 本時のわらい

- パス・アンド・ランで攻めることができる。
- お互いに動き方やパスの出し方を指摘し合い、それに応え合

5. 学習展開 (多)

過程	条件	学習内容		
		運動	集団 (学び合い等)	運動
計画	計画会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてを知る。</li> <li>○パス・アンド・ランで攻めることができる。</li> <li>○班課題(技術)の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めらいを知る。</li> <li>○お互いに動き方やパスの出し方を指摘し合い、それに応え合、ていける仲間をめぐらす。</li> <li>○班課題(態度)の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動のめあてを考</li> <li>○運動のめあてを把握</li> <li>○班計画バス( )</li> <li>○班技術課題を</li> </ul>
		<p>展</p> <p>前半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○準備体操、ウォーミングアップをして、基本練習を定着させる。</li> <li>○各班ごとにパス・アンド・ランを使った攻め方と守り方を考えながら練習できる。</li> </ul> <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○練習ゲームに向けて課題の確認ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リーダーの指示に従って全員そろって行動できる。</li> <li>○お互いに快く教え合ったり励まし合ったりできる。</li> <li>○お互いに動き方やパスの出し方を指摘し合い、それに応え合っていくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リーダーの指示、号令アップをする。(コ</li> <li>○パス</li> <li>○ドリブルシュート</li> <li>○リターンパスシュート</li> <li>○抽出練習3対2</li> </ul>    
開	後半練習ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5対5で練習ゲーム</li> <li>○パス・アンド・ランで攻めるゲームができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習ゲームの中で、随時打ち合えができ、チームのリズムを立て直すことができる。</li> <li>○お互いに指示し合いながら成攻した時は認め合い、喜び合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習ゲームをする。</li> <li>○タイムアウトにより、</li> </ul>
		<p>評価</p> <p>反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○班で学習の成果を振り返る。</li> <li>○全体会で学習の成果をまとめ、次時の課題を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事実をもとにめぐす仲間になれたか確かめ合う。</li> <li>○全体会で本時の感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班反省バス( )</li> <li>○P0点検・M0点</li> <li>○教師から学習の成果</li> </ul>

ていける仲間をめぐる。

学習活動	教師の指導	
	運動	集団
<p>・ 集団</p> <p>る。 ○ 集団のねらいを考える。</p> <p>とする。 ○ 集団のねらいを把握する。</p> <p>確かめ合うバス)</p> <p>える。 ○ 班態度課題を考える。</p>	<p>○ パス・アンド・ランの展開例(3対2)の動きを示し、そのうち逆サイドを使い、相手のうらから攻める例を班を抽出してやってみる。</p>	<p>○ 教師が声をかけながら、動きを説明していく中で、仲間同志の姿のあり方を把握させる。</p>
<p>に従って、まきばきと体操ウォーミングアップ(2周、蛇行ランニング)</p> <p>○ L 活動の指示、司令をする。</p> <p>○ PO しっかりと技術的アドバイス</p> <p>○ MO しっかりと態度的アドバイス</p> <p>○ 班作戦バス(深め合うバス) 各班ごとのパス・アンド・ランを使った攻め方と守り方考える。</p> <p>○ 練習ゲームの中で、お互い班同志でタイムアウトをとり、リズムを整える。</p> <p>○ お互いに教え合ったり、励まし合ったり、指示し合ったりする。</p> <p>動き方の確認をする。</p>	<p>○ 取りかかると近い班には声をかけ、どの班も十分な運動量を確保できるように配慮する。</p> <p>○ 基本プレーの練習が短時間でまきばきとできるように指示をする。</p> <p>○ 途中でプレイを止め、走るコースを示したり、ゆっくりと動くこと確かめさせる。</p> <p>○ 課題にあった練習がなされているか巡回指導をする。</p> <p>○ パスをしても動かない子や、動く場所のわからない子には、個別指導をする。</p> <p>○ ミスの多い班には意図的にサイドコートをする。</p> <p>○ 声を出し合って動くことを強く張る。</p> <p>○ パス・アンド・ランを使って、速く攻めることができるように声をかけさせる。「マークになった」「走れ」「サイドパス」</p>	<p>○ 調子よくグループがまとまって活動している班をほめ、アンバランスな班には、もっと声をかけさせる。</p> <p>○ シュートが成功した時、「ナイスシュート」「やっ、やっ」などの声をかけ、ムードを盛りあげた。</p> <p>○ 仲間同志が快く教え合ったり、励まし合ったりしている班をほめる。</p> <p>○ お互いに公平なルール、フェアプレイで活動できるように審判を中心に配慮する。</p> <p>○ アウト(サイドラインの外)にいる子には、仲間へのサイドコートを活発にさせる。</p> <p>○ プレーヤー同志で「ヒートだ」「走れ」「パスだ」「シュートだ」の声をだし合わせる。</p> <p>○ タイムアウトの時、欠点の指摘ばかりにならないように配慮する。</p>
<p>め合うバス) 班の成果をまとめる。</p> <p>校</p> <p>と感想を聞く。</p>	<p>○ 勝敗の要因を研究し合い、冷静にアドバイスができるように巡回指導をする。</p> <p>○ 学習の成果をまとめ、次時の課題へ意欲づけをする。</p>	<p>○ 本時の課題に対して、協力した仲間を紹介する。</p>

↑ 必要に応じて ↓ 班バス を行う

# 英語科学習指導案

公開 2 (10:30~11:20)  
2年E組 2E教室(中舎2階東)  
授業者 可知 達也

## 1. 単元名 Sunshine Book 2

Lesson 8 「A Girl and The Jungle」

## 2. 指導の立場

### (1) 題材・言語材料について

この話は実話に基づいている。1971年12月23日のことである。ペルーのリマからアンデス山脈を越えて、アマゾンに至る途中のランサ航空の旅客機(ロッキード・エレクトラ)がジャングルの中に墜落した。乗客は92人いたが、そのうち91人が死亡し、17才の少女ただ一人生き残った。この少女ユリアナ・ケブケは、ジャングルをさまよったあげく、10日後にようやく墜落地点より200kmも離れたところで助けられた。この話はアメリカ・イタリア合作の映画“Miracles Still Happen”(日本名、奇跡の詩)になり、現代の奇跡として世界を驚倒させた、というものである。そのストーリーを4場面に分けて少女の行動や様子を中心としながら展開してある。

§1では、気を失っていた少女が目覚めて、少女一人だけが助かったことが、わかったが、希望を失いそうになった様子。

§2では、父親の言葉を思い出し、いきる希望を持った少女の様子。

§3では、空腹やけがで苦勞しながら、小川を探してさまよい歩く少女の様子。

§4では、小川に沿って歩き、ついに助けられて父親と再会する少女の様子。

こうした少女の様子や行動を表す場面や表現に着目させながら、物語のあらすじが、連続するように、まとめる力を付けさせたいと思う。

又、新しい文法事項としては、不定詩が出てくるので、単元のはじめに、その用法について学習し、本文の学習の中で言語活動として生かせるようにと意図している。

## (2) 生徒の実態

本単元の目標は「内容を読み取って、物語のあらすじがわかるようにまとめることができる。」しかし、本格的な読み物教材は2年生になって A Birthday Present に続いて2回目で、物語の主人公の行動や様子を中心に読み取っていくことには、十分慣れていないので、えいごの物語文に慣れて、英文でまとめる力を付けるように指導していきたい。学級の本文の内容をまとめることの実態は、

- A. 本文の内容が十分とらえられないで、抜き出せない生徒(10名)
- B. 本文の内容をとらえて、抜き出して、まとめることができる生徒  
(19名)
- C. 本文の内容をとらえて、自分なりの表現でまとめることができる生徒  
(12名)

である。しかし、そうした中でも単純な質問に対しては意欲的に反応できるが、やや難しい質問になると、一部の生徒のみの挙手・発言になってしまう傾向があり、バズ学習を通して、自信を持って自分の作品を発表させたり、一段階上の表現をめざして取り組ませている。

## (3) 本時の指導意図

この題材では、先に述べたように、少女の様子や行動を、場面や表現に沿って読み取らせ、あら筋をまとめていけるように指導していくことにした。前時、少女がいきる希望を失いながらも、父親の言葉を思い出して、ジャングルを脱出するには小川を探すことが大切であることを学習した。本時は、少女が疲れてはいたが、ゆっくり歩き始め、父親の言葉通りに小川を発見するに至った場面を生徒自身の言葉でまとめさせたい。まとめるに当たっては、まず一人一人が自分なりにまとめた作品を持ち寄り、バズを仕組む。バズの中では友達がまとめようとする事柄を援助したり、あるいは自分が表現できない事柄を援助してもらったりして、教え合ったり、作り合ったりする学習をねらいたい。友達の表現を学ぶことで、仲間との学び合いを大切にして、更に自分の表現を広げていこうとする意欲が持てるように指導していきたいと考えている。

予課 - "Find a small stream to get out of the jungle" の暗唱

3. 単元構成図 Lesson 8 「A Girl and the Jungls」 (全7時間)

単元目標 1 ジャングルの中で、一人だけ生き残り、必死になって生還しようとする少女の行  
2 不定詞の名詞・副詞・形容詞的用法を理解し、自分のことについて表現すること

つきたい力 1 物語の概要をとらえて、英語でまとめて表現する力。  
2 示された言語材料を用いて、自分のことについて表現する力。

	第 1 時	第 2 時	第 3 時	第 4 時
つきたい力	・不定詞の名詞的用法を用いて、自分の買い物を表現する力	・不定詞の副詞的と形容詞的用法を用いて自分の欲しい物を表現する力	・一人だけ助かった少女の様子や行動を読み取ってまとめる力	・父親の言葉を頼りにする少女の様子や行動を読み取ってまとめる力
本時のねらい	・ビデオを見ながら Lesson 全体の物語の概要をつかむことができる。 ・不定詞の名詞的用法を理解し表現できる。	・不定詞の副詞的用法と形容詞的用法を用いて自分の欲しい物を買うに行動文を作ることができる。	・「少女は気を取り戻した後、何をしようとしたか。」を読み取って簡単な英文にまとめることができる。	・「少女は父親のどんな言葉を思い出したか。」を読み取って簡単な英文にまとめることができる。
題材・言語材料	・ I want to ~.	・ I went to ~ to buy ~. ・ I want something to ~.	・ § 1 ◎ I opened my eyes ・ I wanted to ~.	・ § 2 ◎ I heard his voice. ・ Find a small stream to get out ~.
言語活動	・ I want to buy _____. ・ And I _____.	・ I want something to _____. ・ So I went to _____ to buy _____.	・ She opened her eyes ↓ She found _____ on the ground. ↓ What did she do (after that)? She wanted to find her mother and mother stand up, but she could'nt.	・ She must find _____. ↓ She heard _____ voice. ↓ What did her father say? Find a small stream to get out of the Jungle.
学び合いの姿	・ 友達の買いたい物について表現文が作れるように援助する。	・ 友達の欲しい物やそれを買うに行くことについて表現文が作れるように援助する。	・ 目覚めた少女が何をしようとしたかについて、まとめようとする事柄を援助する。	・ 少女は父親のどんな言葉を思い出したかについて、まとめようとする事柄を援助する。



行動を読み取って、物語のあら筋がわかるようにまとめることができる。  
 ことができる。

第5時<本時>	第 6 時	第 1 時
<ul style="list-style-type: none"> <li>くじけそうになっても歩き始めた少女の様子や行動を読み取ってまとめる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ついに助けられた少女の様子や行動を読み取ってまとめる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語全体をまとめる力</li> <li>繰り返し練習する力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「歩き始めた少女は、どうなったのだろうか。」読み取って簡単な英文にまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「少女がボートを見つけてから、どうしたか。」読み取って簡単な英文にまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あら筋をまとめることができる。</li> <li>練習問題ができる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>§ 3</li> <li>I wanted something to eat</li> <li>◎ I started to walk slowly.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>§ 4</li> <li>◎ I saw a boat at last.</li> <li>I started to cry in his arms.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>§ 1 ~ § 4</li> <li>PRACTICE</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>She was very _____</li> <li>↓</li> <li>But she started to walk slowly.</li> <li>↓</li> <li>What did she do ?</li> <li>She heard a new sound.</li> <li>She found a small stream.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>She saw _____</li> <li>↓</li> <li>They helped _____</li> <li>↓</li> <li>What did she do ?</li> <li>When she saw her father, she started to cry.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語全体のあら筋をまとめて発表する。</li> <li>PRACTICEを用いて練習する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩き始めた少女がどうなったかについて、まとめようとする事柄を援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少女がボートを見つけてからどうしたかについて、まとめようとする事柄を援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語全体のまとめ方を学ぶ。</li> <li>練習を繰り返しながら援助する。</li> </ul>



4. 本時のねらい

川へたどり着くまでの少女の様子や行動を読み取り、簡単な英文にまとめることができる。

5. 学習展開

流れ	教師のはたらきかけ	生徒
Review	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ (内容を読み取って、まとめてみよう。)</li> <li>§2の少女の父親の言葉で大切なものを発表させる。(ピクチャー・チャートを見せる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。</li> <li>「Find a small stream</li> </ul>
Oral Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>Oral Introduction でピクチャー・チャートを使いながら§3のあら筋をつかませる。(2回繰り返す。)</li> </ul>	
Q & A	<p>Her father said "Find a small stream to get out of the jungle." But the tired and <b>hungry</b>. She wanted something to eat. She had some candy in her bag. She put one into her <b>mouth</b>. She had a deep <b>cut</b> on her foot. She tried to <b>run</b>. But she <b>started</b> to walk <b>slowly</b>.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Q &amp; A で内容についての質問をする。</li> <li>1. Was she tired ?</li> <li>2. What did she have in her bag ?</li> <li>3. Did she have a cut ?</li> <li>4. Did she start to run ?</li> <li>単語の発音練習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に答える。</li> <li>1. Yes, she was. She was</li> <li>2. She had some candy</li> <li>3. Yes, she did. She had</li> <li>4. No, she didn't. She s</li> <li>後について2~3回読ま</li> </ul>
Aim	<p>歩き始めた少女はどうなったのだろうか。英語で表現してみよう。</p>	<p>→自分の表現をまとめる。 抜き出す→置き換える</p>
Reading	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントにそって黙読と音読を行わせる。</li> <li>個人で要約文を作らせた後で、バズ体形を作らせる。</li> <li>作り合うバズをさせる。</li> <li>バズの方法を指示する。(輪番法で交流する。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黙読と音読を1回ずつ行 て英文をまとめる。その</li> <li>She was very _____ ↓ But she started to wa. ↓ What did she do ( : 例文 She heard a new She heard the be She found a smal</li> </ul>
Sum Up	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で発表し合って交流させ、表現を完成させる。</li> <li>自分の表現を繰り返し音読練習させ、発表できるようにさせる。</li> </ul>	
Presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表現をクラスへ発表させ、相互に評価させる。</li> </ul>	
Home work	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の自分の表現を暗唱してくる。</li> <li>あいさつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表現を暗唱してく</li> <li>あいさつをする。</li> </ul>

活 動	学 び 合 い の 姿	留 意 点
<p>「to get out of the jungle.」</p> <div data-bbox="172 600 311 766" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>girl was bag. [ ] [ ]</p> </div> <p>tired and hungry. in her bag. a deep cut on her foot. started to walk slowly. る。</p> <p>→組み立て直す一行間を読む</p> <p>行った後で、プリントに従って後、バズ体形にする。</p> <p>lk _____.</p> <p>after that) ? sound. st sound. l stream</p> <p>る。</p>	<p>・友達の答え方から、より豊かな答え方を学ぶ。 ・Long answer で答えようとする。</p> <div data-bbox="539 1326 933 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・友達がまとめようとする事柄について、工夫したところを評価したり、表現できないところを援助する。</p> </div> <p>・友達から感想を言わせる中で、友達から学ぶ。 ・友達の発表から学ぶ。</p>	<p>・姿勢や声に注意させる。 ・挙手による発表を求め指名する。 ・聞く姿勢に気をつけさせる。 ・絵を見ながら聞かせる。 ・[ ]は New Words でフラッシュ・カードで提示する。</p> <p>・挙手による指名をする。 ・声に注意させる。</p> <p>・バズの方法を明らかにして、バズ体形を早く作らせる。 ・下位生徒とグループの活動力の弱い所を中心に机間巡視を行う。 ・司会は班長が行う。 ・友達の発表を聞く姿勢を気をつけさせる。 ・指名は、表現が広がるように配慮し、教師のコメントを入れる。 ・姿勢や声に注意させる。</p>